千葉県文化財センター調査報告第418集

柏市光ヶ丘遺跡

―― 光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ ――

平成13年9月

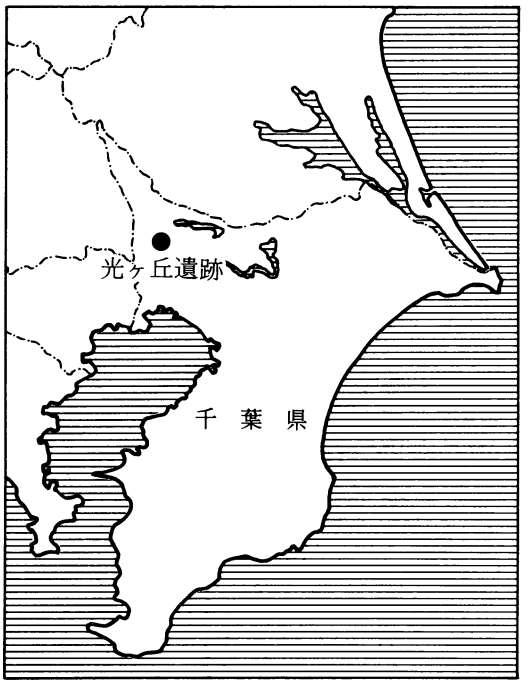
都市基盤整備公団

財団法人　千葉県文化財センター

柏市光ヶ丘遺跡

かしわ　ひかり　が　おか

―― 光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ ――



序　　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立されて以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第418集として，都市基盤整備公団の柏市光ヶ丘団地建替に伴って実施した，柏市光ヶ丘遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，尖頭器やナイフ形石器などの旧石器や平安時代の住居跡などがみつかり，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。この報告書が，学術資料として，また文化財の保護，普及の資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成13年9月28日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　清　水　新　次

凡　　例

1　本書は，都市基盤整備公団による柏市光ヶ丘団地建替事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書（第2次）である。

2　本書に収録した遺跡は，千葉県柏市光ヶ丘1768-5ほかに所在する光ヶ丘遺跡（遺跡コード217-016）である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，都市基盤整備公団の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，副所長　川島利道が行った。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，都市基盤整備公団千葉地域支社，都市基盤整備公団光ヶ丘監督員事務所，柏市教育委員会の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第1図　参謀本部陸軍測量図　1/20,000 地形図　我孫子宿，小金町

第7図　国土地理院発行　1/25,000 地形図　流山（N1-54-25-1-2）

松戸（N1-54-25-2-1）

8　図版1に使用した周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和44年撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

10　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は，その都度示した。

11　本書で使用した遺構番号の一部については，調査時に付した番号を下記のように変更した。

調　査　時	報　告　書	調　査　時	報　告　書
（F区）　溝００１	００４	（A区）　溝００３	００８
（E区）　溝００１		（A区）　溝００４	
（D区）　溝００１	００５	（A区）土坑００１	００９
（C区）　溝００１	００６	（C区）　溝００２	０１０
（A区）　溝００１	００７	（C区）　溝００３	０１１
（A区）　溝００２		（C区）　溝００４	０１２

本 文 目 次

第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査の概要 …… 1
　　1　調査の経緯と経過 …… 1
　　2　調査の方法 …… 4
　第２節　遺跡の位置と環境 …… 7
　　1　遺跡周辺の地理的環境 …… 7
　　2　周辺遺跡 …… 10
第２章　検出した遺構と遺物 …… 12
　第１節　旧石器時代 …… 12
　　1　第１文化層 …… 12
　　2　第２文化層 …… 14
　　3　第３文化層 …… 22
　　4　第４文化層 …… 27
　　5　第５文化層 …… 28
　第２節　縄文時代 …… 35
　　1　遺構・遺物 …… 35
　第３節　平安時代 …… 35
　　1　遺構・遺物 …… 35
　第４節　中近世 …… 37
　　1　遺構・遺物 …… 37
第３章　まとめ …… 51
　第１節　旧石器時代 …… 51
　第２節　中近世 …… 51
報告書抄録 …… 巻末

挿図目次

第１図　遺跡位置図 …… 2
第２図　光ヶ丘遺跡現況図 …… 3
第３図　調査区位置図 …… 4
第４図　遺構分布図 …… 5
第５図　光ヶ丘遺跡地形図 …… 6
第６図　土層柱状図 …… 7
第７図　周辺の遺跡分布 …… 8
第８図　第１文化層出土石器 …… 12
第９図　第１ブロック分布図 …… 16
第10図　第２文化層出土石器(1) …… 17
第11図　第２文化層出土石器(2) …… 18
第12図　第２文化層出土石器(3) …… 19
第13図　第２ブロック分布図 …… 20
第14図　第２文化層出土石器(4) …… 21
第15図　第４ブロック分布図 …… 23
第16図　第１礫群分布図 …… 24
第17図　第３文化層出土石器 …… 25
第18図　第４文化層出土石器 …… 28
第19図　第３ブロック分布図 …… 30
第20図　第５文化層出土石器(1) …… 32
第21図　第５文化層出土石器(2) …… 33
第22図　第５文化層出土石器(3) …… 34
第23図　縄文時代遺物(1) …… 36
第24図　縄文時代遺物(2) …… 37
第25図　００５ …… 39
第26図　００１・００２・００３ …… 40
第27図　００４(1) …… 41
第28図　００４(2) …… 42
第29図　００４(3) …… 43
第30図　００４(4) …… 44
第31図　００６・０１０・０１１・０１２ …… 45
第32図　００７(1) …… 46
第33図　００７(2)・００８・００９・０１４ …… 47
第34図　００７(3)・０１３ …… 48
第35図　平安時代・中近世遺物(1) …… 49
第36図　中近世遺物(2) …… 50
第37図　旧石器時代石器群 …… 53
第38図　光ヶ丘１号塚・２号塚測量図 …… 54

表目次

第１表　周辺遺跡一覧 …… 9
第２表　文化層と石器組成 …… 13
第３表　第１文化層石器組成表 …… 13
第４表　第１文化層石器属性表 …… 13
第５表　第２文化層石器組成表 …… 14
第６表　第２文化層石器属性表 …… 15
第７表　第２文化層礫属性表 …… 15
第８表　第３文化層石器組成表 …… 22
第９表　第３文化層石器属性表 …… 23
第10表　第１礫群構成礫属性表 …… 26
第11表　第１礫群構成礫母岩別一覧 …… 26
第12表　第４文化層石器組成表 …… 27
第13表　第４文化層石器属性表 …… 27
第14表　第５文化層石器組成表 …… 29
第15表　第５文化層石器属性表 …… 31
第16表　第５文化層礫属性表 …… 34

図 版 目 次

図版１　光ヶ丘遺跡と周辺の地形
図版２　Ｆ区調査前
　　Ｊ区調査前
　　Ｆ区建物解体状況
図版３　００５全景
　　００６全景
　　００１全景
図版４　００４北端部
　　００４北側(1)
　　００４北側(2)
図版５　００４南側
　　００４南端部(1)
　　００４南端部(2)
図版６　００７南側
　　００８西側
　　００９全景
図版７　Ｊ区土層断面
　　００３全景
　　第１ブロック遺物出土状況
図版８　第１ブロックと土層断面
　　Ｈ区土層断面
　　第２ブロック遺物出土状況
図版９　第３ブロック遺物出土状況
　　Ｄ区土層断面
　　第４ブロック遺物出土状況
図版10　第１文化層出土石器
　　第２文化層出土石器(1)
図版11　第２文化層出土石器(2)
図版12　第２文化層出土石器(3)
　　第３文化層出土石器(1)
図版13　第３文化層出土石器(2)
　　第４文化層出土石器
図版14　第５文化層出土石器(1)
図版15　第５文化層出土石器(2)
図版16　第５文化層出土石器(3)
図版17　第１礫群構成礫
図版18　縄文時代遺物(1)
図版19　縄文時代遺物(2)
図版20　平安時代・中近世遺物(1)
図版21　中近世遺物(2)

第1章　はじめに

第1節　調査の概要

1　調査の経緯と経過

都市基盤整備公団は，柏市光ヶ丘団地の建て替えを計画し，遺跡の取扱いについて千葉県教育委員会と協議した。その結果，発掘による記録保存の措置を講ずることで協議が整い，まず西側部分について平成8年度に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した（第1次調査)。その後，東側も建て替えることになり，平成11年度に千葉県文化財センターが発掘調査を実施した（第2次調査)。

なお，1次調査については，既に平成10年度に報告書が刊行されており[1]，今回は第2次調査の報告書である。

整理作業は，発掘が終了した翌年の平成12年度に遺物の水洗・注記から分類・復元・実測・挿図・図版作成・原稿執筆まで実施し，平成13年度に報告書の印刷・刊行に至った。

なお，各年度の実施期間，担当者，作業内容は以下のとおりである。

平成11年度（発掘調査）

期　　間　平成11年8月2日～ 平成12年3月30日

西部調査事務所長　及川淳一

担　　当　副所長　川島利道

研 究 員　織田良昭

作業内容　上層確認調査　8,317㎡/49,960㎡　　上層本調査　5,311㎡

下層確認調査　1,788㎡/49,960㎡　　下層本調査　1,398㎡

平成12年度（整理作業）

期　　間　平成12年4月3日～7月31日

平成12年10月2日～平成13年3月30日

西部調査事務所長　及川淳一

担　　当　副 所 長　岡田誠造，川島利道

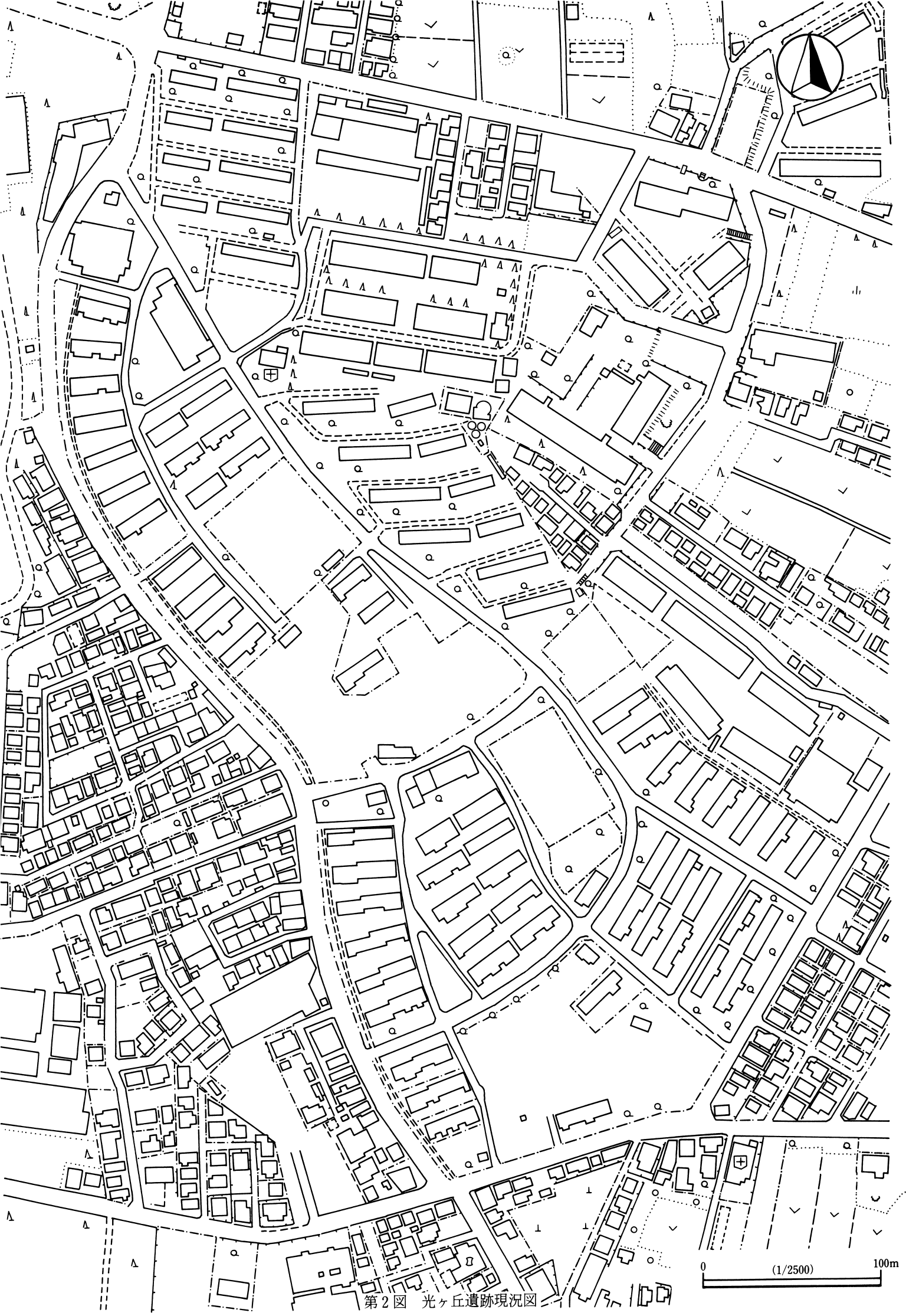
上席研究員　織田良昭

研 究 員　中道俊一

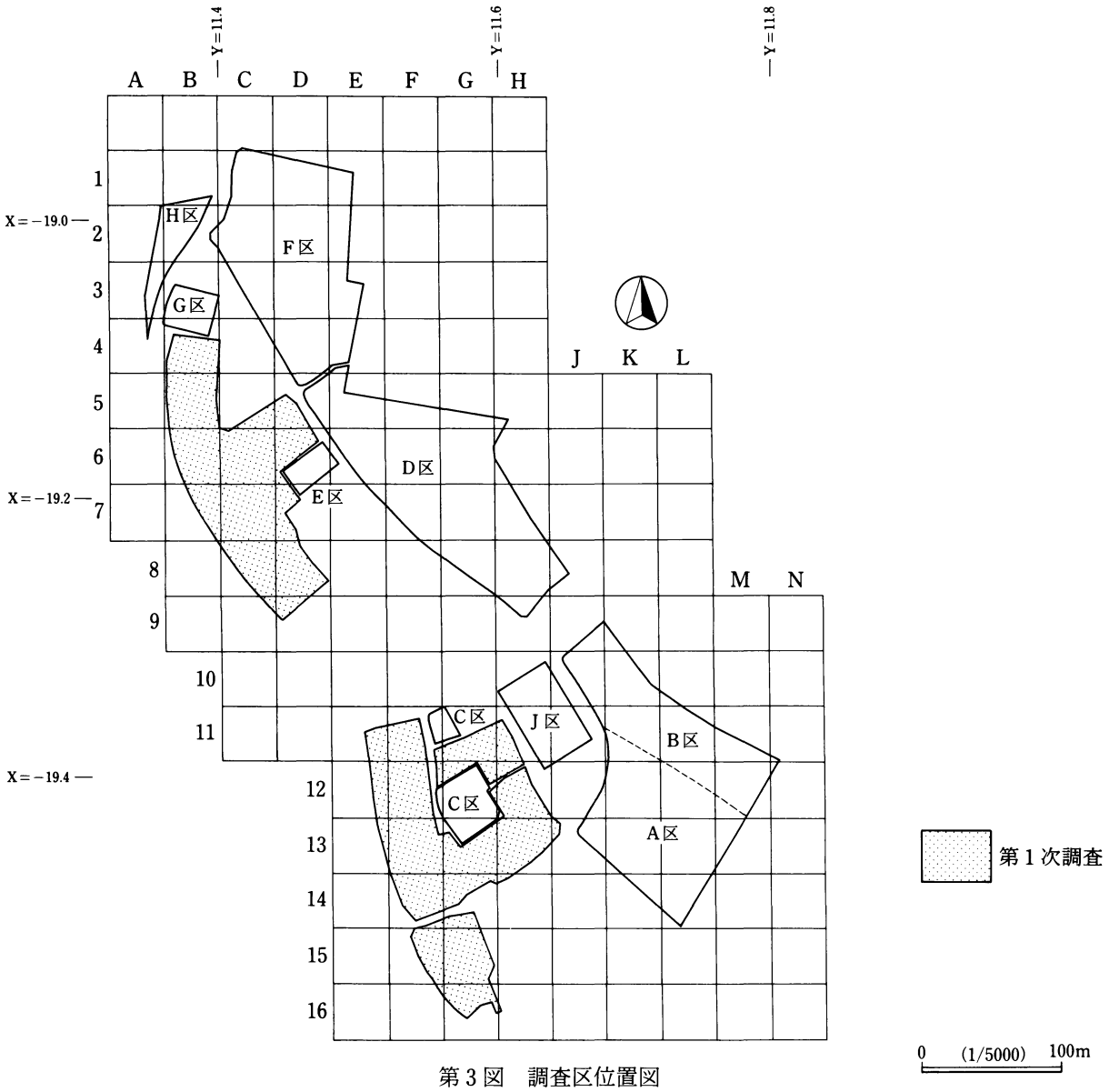
作業内容　遺物の水洗・注記，図面・写真等記録類の整理，遺物の分類・選別，復元，実測，挿図・図面作成，原稿執筆

26,452
祠取香
村借都名
田新金小向
田新内水根
祠取香
寺林去
寺林出
寺命行
祠間落
宿新中
村内水根
光ヶ丘遺跡
村野堅
村根井酒
田新西金小
村澤ケ梨
田新尾増
村井
野佐宇
村作ケ金
越河宇
國
總

第1図　遺跡位置図



第２図　光ヶ丘遺跡現況図



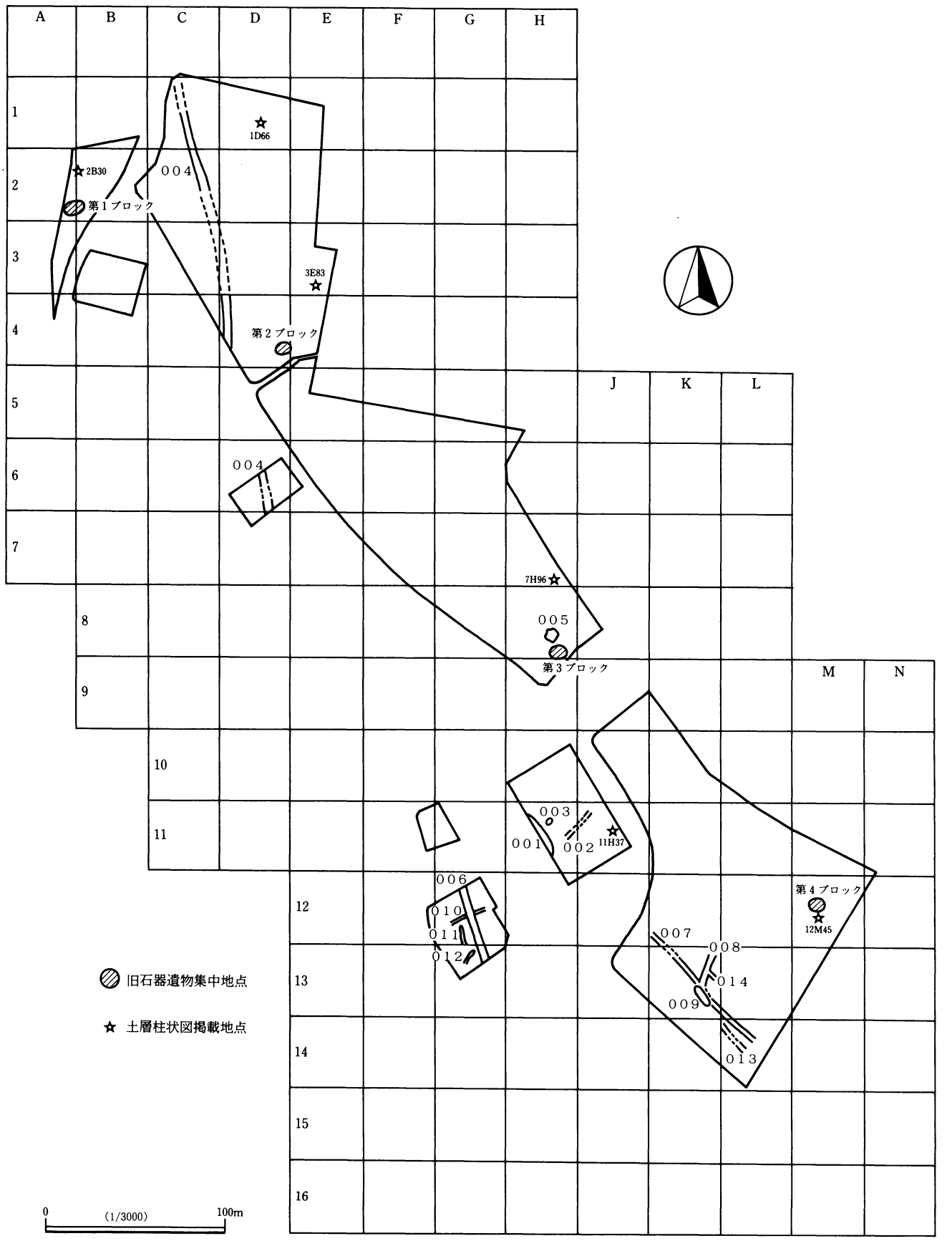
第3図　調査区位置図

2　調査の方法

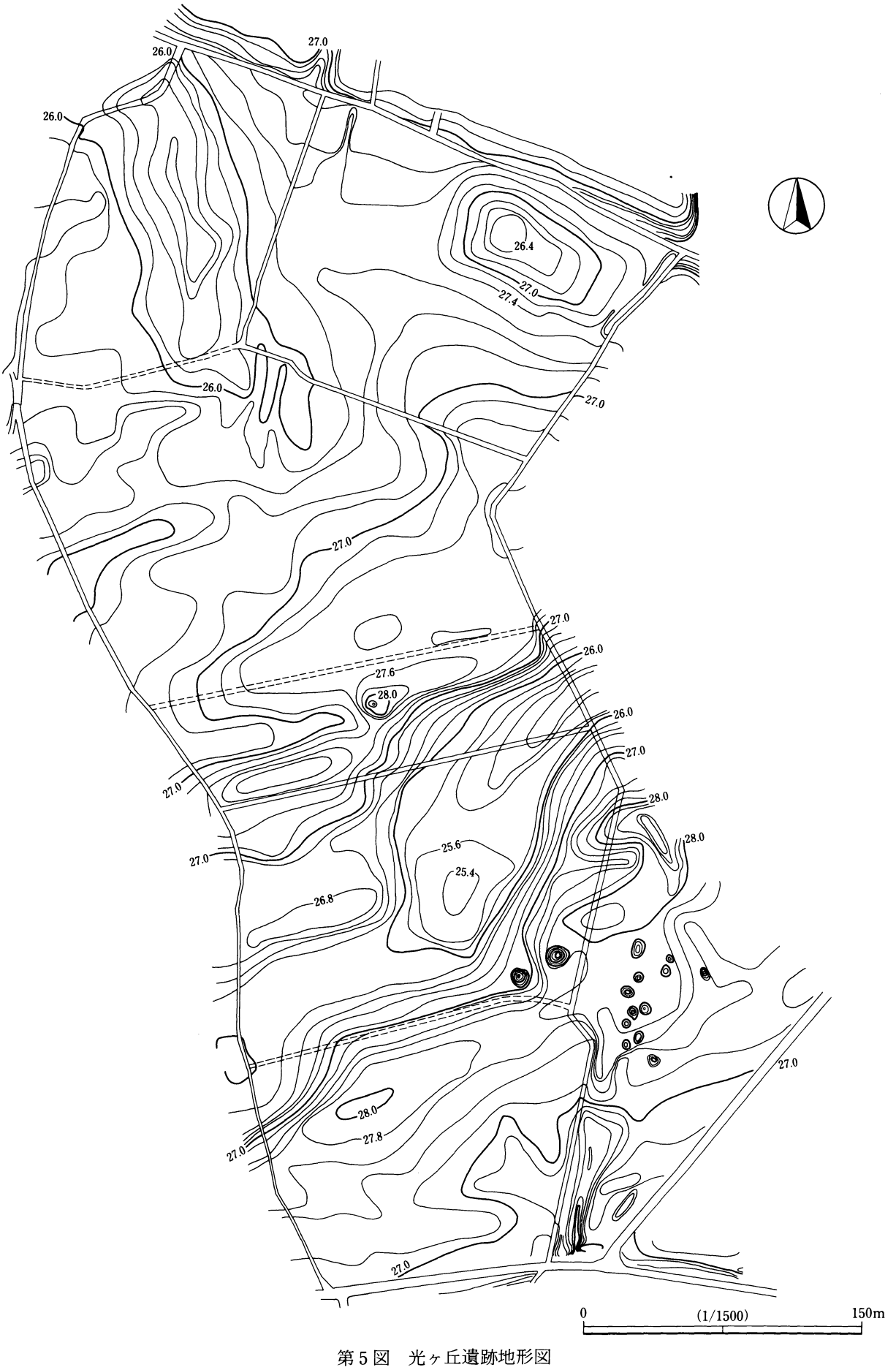
調査は，建て替えの工区に基づきA区～J区（第3図）に調査区域を分けて，工事の工程に会わせて実施した。なお，検出遺構や出土遺物の位置を記録するため，調査区全体に公共座標に基づき40mメッシュを組み大グリッドとした。大グリッドは西からA・B・C・・・，北から1・2・3・・・と記号を付し，それを組み合わせて1A，2B，3E等とした（第3図・第4図)。また，この大グリッドをさらに4m×4mの100個の小グリッドに分割し，西から東へ00・01・・・09，北から南へ00・10・・・90と記号を付し，これらの大グリッドと小グリッドとを組み合わせて1A−00，2B−90，3E−99等とした。

上層調査は，2m幅のトレンチにより遺構・遺物の分布状況を確認した後，表土除去後本調査を実施した。下層調査は，2m×2mのグリッドにより遺物の出土状況を確認の後，遺物の集中地点について本調査を実施した。

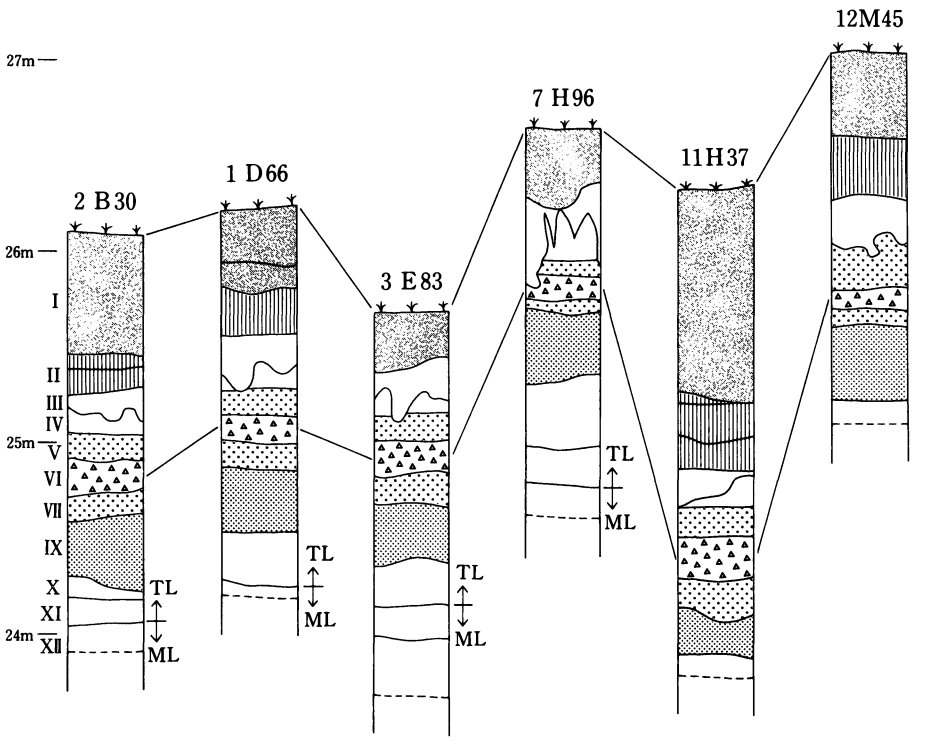
その結果，上層から縄文時代の土坑1基，平安時代の竪穴住居跡1軒，中近世の道路状遺構2条，土坑1基，溝状遺構9条，下層からは石器集中地点（ブロック）を4か所検出した（第4図)。遺物としては，旧石器時代の尖頭器石器群，ナイフ形石器群，縄文土器，縄文時代の石器，平安時代の土製支脚，中近世陶器，土器，板碑，宝篋印塔，銭貨等が出土した。


A
B
C
D
E
F
G
H
J
K
L
M
N
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
1D66
2B30
004
第1ブロック
3E83
第2ブロック
004
7H96
005
第3ブロック
003
001
002
11H37
006
010
011
012
第4ブロック
12M45
007
008
014
009
013
旧石器遺物集中地点
土層柱状図掲載地点
0
(1/3000)
100m

第4図　遺構分布図



第５図　光ヶ丘遺跡地形図



第6図　土層柱状図

第2節　遺跡の位置と環境

1　遺跡周辺の地理的環境

本遺跡周辺は，東京のベッドタウンになって久しい柏市の市街地の一部を形成しており，地形的には，東側は手賀沼に注ぐ大津川の支流が北東へ流れ，西側は江戸川へ注ぐ坂川の支流が北西へ流れている。いわば手賀沼・利根川水系と江戸川水系の分水界に位置し，小河川の源流部にあたり，そういう意味では内陸的あるいは丘陵的な地形ということができる。なお，現在の行政区分においても，本遺跡付近が松戸市，柏市，流山市の3市の境界となっていることは，川や山が境界になることと同様，分水界あるいは尾根状の地形も境界になることを示していると考えられる。また，光ヶ丘団地造成前の測量図（第5図）[2] によれば，標高は26～28m程で，比較的起伏は少なかったことがわかる。

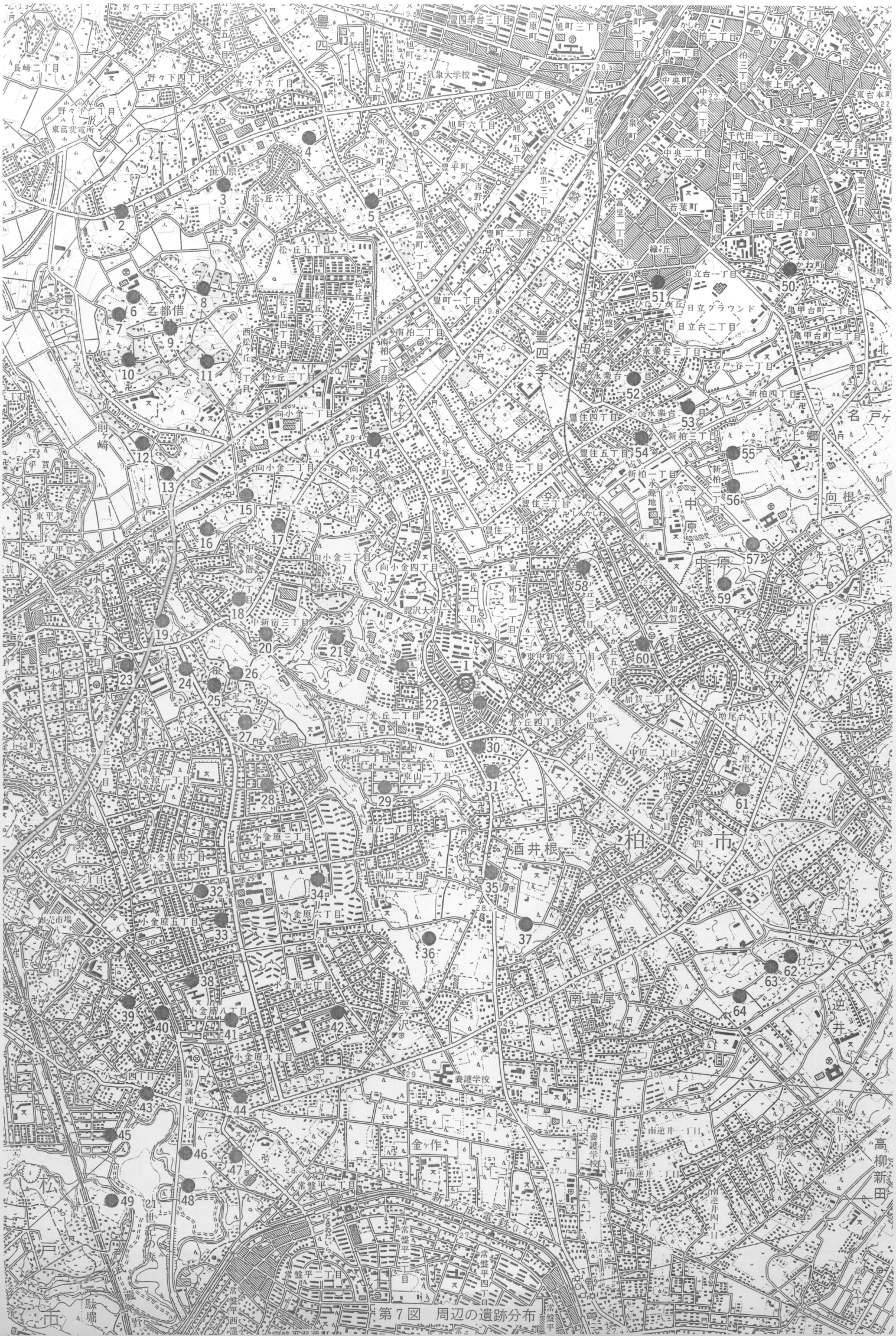
遺跡の土層については第6図に示したが，その概要を以下に説明する。

Ⅰ層　黒褐色土層　　表土腐食土層であるが，調査区のほとんどに団地造成時の攪乱がみられた。

Ⅱ層　暗褐色土層　　縄文時代以降の土層であるが，かなり攪乱がみられた。

Ⅲ層　黄褐色土層　　ソフトローム層と呼ばれる立川ローム層最上層で，一部に攪乱がみられた。

Ⅳ層　黄褐色土層　　本来は立川ローム層最上部のハードローム層であるが，ソフト化が進み大半がⅢ層に取り込まれたため，クラック帯の上部に残存していることが多い。



第7図　周辺の遺跡分布

第1表　周辺遺跡一覧

番号	遺　跡　名	時　期	遺　構・遺　物	備　考
1	光ヶ丘	旧石器・縄文・平安・中近世	住居跡・道路跡・旧石器・縄文土器・陶器・石塔・銭貨	H6.9.11（本報告書）調査
2	笹原（Ⅰ）	縄文（早・中）・弥生（後）・古墳	住居跡・縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	S56.58.63.H1調査
3	笹原（Ⅱ）	縄文（早～中）・平安	地点貝塚・住居跡・縄文土器	H4.5.6.12調査
4	笹原（Ⅲ）	縄文（前～後）・近世	地点貝塚・野馬土手・縄文土器	S59H5.7.8.10調査
5	弁天谷			
6	清滝院前	縄文（前）・平安・近世	地点貝塚・炭窯・縄文土器・土師器	S63調査
7	名都借塚	近世	塚	旧名都借第Ⅰ塚
8	名都借宮ノ脇	縄文（中）	住居跡・地点貝塚・縄文土器	
9	名都借笹堀込	縄文（前・中）・平安	縄文土器・土師器	旧名都借第Ⅰ
10	名都借城跡	中世	土塁	
11	名都借並木	縄文（中）・平安・中世	縄文土器・土師器・陶器	旧名都借第Ⅲ
12	前ヶ崎貝塚	縄文（前～後）	地点貝塚・縄文土器	
13	前ヶ崎石神	縄文（中・後）・古墳（後）	縄文土器・土師器	旧前ヶ崎第Ⅰ
14	根木内台塚	近世	塚	一部削平
15	向小金2丁目第Ⅰ	縄文（中・後）	住居跡・縄文土器	H2調査．旧向小金新田第Ⅱ
16	前ヶ崎九反歩	縄文（前～後）	縄文土器	S60.61調査．旧向小金新田第Ⅰ
17	向小金2丁目第Ⅱ	縄文（中）・平安・近世	縄文土器・土師器・陶器	H3調．旧向小金新田第Ⅴ．消滅
18	庚申前	縄文（早・中）・中近世	住居跡・掘建柱建物跡・陥し穴・地下式坑・塚・縄文土器・陶器	S60H2調査
19	根木内城跡	中近世	櫓台・土橋・土塁・空堀	
20	根木内台貝塚	縄文・弥生	住居跡・縄文土器・弥生土器	S63.H2調査
21	大勝院	縄文（前）・弥生・古墳	縄文土器・弥生土器・土師器	S41調査
22	光ヶ丘塚	近世	塚	
23	行人台・行人台城跡	縄文（早～中）・古墳（中・後・中世）	住居跡・炉穴・空堀・土塁・墓坑・縄文土器・陶磁器・銭貨・人骨	H1調査（行人台） S62.H1調査（行人台城跡）
24	根木内	旧石器・縄文（前～後）・中近世	住居跡・地点貝塚・掘建柱建物跡・空堀・土塁・地下式坑・旧石器・縄文土器・陶磁器・銭貨・人骨	S61.H3.5.6調査
25	辻（根木内Ⅱ）	縄文（後）	縄文土器	
26	根木内北ノ台	縄文（前）・中近世	溝・井戸・土坑・縄文土器	S56調査
27	宮の後（根木内）	縄文（中）	縄文土器	S61調査
28	殿内	縄文（前～後）	縄文土器	消滅
29	東山塚	近世	塚	
30	天王前	近世	塚	消滅
31	天王前貝塚	縄文		
32	谷ッ口Ⅰ（栗ヶ沢第1）	縄文（早・中・後）	縄文土器	
33	谷ッ口Ⅱ（栗ヶ沢第2）	縄文（早）	地点貝塚・縄文土器	消滅
34	水戸家御鷹場役所跡	近世		消滅
35	堀込	古墳	土師器	
36	西ヶ原	縄文（中）	縄文土器	一部消滅
37	溜台	縄文	縄文土器	
38	貝の花貝塚	縄文（前～晩）	住居跡・土坑・縄文土器・土偶・土版・耳飾・土器片錘	S39～41調査．消滅
39	八ヶ崎貝の花	縄文（中）	縄文土器	S63.H2調査
40	根切（貝の花B）	縄文（中）	縄文土器	
41	若柴（栗ヶ沢）	縄文（前～晩）	住居跡・土坑・地点貝塚・縄文土器・土器片錘・骨角製品	
42	笹塚（栗ヶ沢新田）	縄文（中）	縄文土器	消滅
43	八ヶ崎（中堀込A）	縄文（早～後）	環状貝塚・住居跡・土坑・縄文土器・土偶・土器片錘	S63.H3.5.6調査
44	大作	縄文	縄文土器	
45	中堀込（中堀込B）	縄文（前～後）	縄文土器	消滅
46	登戸Ⅱ	縄文（早・前・後）	住居跡・炉穴・縄文土器・玦状耳飾	S60調査
47	小塚前	縄文（中）	地点貝塚・縄文土器	
48	登戸	縄文（早～中）	縄文土器	
49	大六天	縄文（前・中）・古墳	縄文土器・土師器	H4調査
50	落合	縄文（早・前）	縄文土器	消滅
51	ひばりが丘			消滅
52	北割	縄文（前）	縄文土器	消滅
53	南割古墳	古墳		消滅
54	南割		住居跡・炉穴・縄文土器・土師器・土玉	S53.56調査
55	柏口	縄文（早・後）・古墳（前・中）・近世		
56	中山越古墳群	近世	縄文土器	S53調査

番号	遺　跡　名	時　　期	遺　構・遺　物	備　　考
56	中山越古墳群	近世	縄文土器	S53調査
57	平根	縄文（早・後）		一部消滅
58	新宿前		縄文土器	消滅
59	土中	縄文（早～後）	円墳1	S53調査
60	五反割古墳	古墳	土師器	消滅
61	増尾木戸前	古墳	縄文土器・土師器	
62	中台	縄文・平安		S56調査
63	中台貝塚	縄文	縄文土器	
64	小山	縄文（前）		

Ⅴ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第1黒色帯であるが，ソフト化が進みⅢ層に取り込まれているところが多い。

Ⅵ層　黄褐色土層　姶良丹沢（ＡＴ）火山灰を含み，火山ガラスと思われる白色粒子が多い。ソフト化の進行しているところもある。

Ⅶ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第2黒色帯の上部に相当し，黒みがあまり強くない。Ⅵ層からⅨ層への漸移層とも言える。

Ⅷ層　黄褐色土層　立川ローム層第2黒色帯の上部と下部の間にある間層に相当するが確認できなかった。

Ⅸ層　暗黄褐色土層　立川ローム層第2黒色帯の下部に相当し，赤色スコリアを含み，黒み，粘性とも強い。ａ～ｃに分層されることもあるが，ここでは分けられなかった。

Ⅹ層　黄褐色土層　立川ローム層最下部層と思われ，スコリアを少量含み明るい。

Ⅺ層　黄褐色土層　武蔵野ローム層最上部層と思われ，やや暗く軟質である。

2　周辺遺跡（第7図，第1表）

本遺跡付近が地形的に分水界になっているためか，周辺に比べて遺跡の密度は希薄である（第7図）[3]。時代順に概観すれば，旧石器時代では本遺跡のほか，松戸市の根木内遺跡で5ブロックが検出され，165点の石器が出土している[4]他，調査された遺跡はまだ少ない。これに較べ，次の縄文時代になると遺跡数が著しく増えて，貝塚を伴う遺跡も多く，松戸市の貝の花貝塚[5]等著名な遺跡も存在する（第1表）。ところが，次の弥生時代以降になると遺跡数が激減する。旧石器時代と弥生時代以降の遺跡数の少なさは，どのようなことを意味しているのであろうか。

旧石器時代の遺跡については，地表面からは確認できないため，関東ローム層の中を2ｍ近く掘り進めなくてはならないが，それには時間と費用が掛かるため，これまでは旧石器時代の本格的な調査が少なかったことが理由と考えられる。今後調査が進展すれば，同じ石器時代の縄文時代と同様たくさんの石器集中か所（ブロック）や石器群がみつかるものと思われる。

弥生時代以降の遺跡については，地形的に分水界に位置し，広い台地と貧弱な水量の小河川の存在から，集落が成り立ちにくい状況を推測させる。しかし，本遺跡でも道路状遺構が検出されているが，奈良時代以降の陸上の交通路としての道路状遺構は，かえって尾根状の場所につくられた可能性が考えられ，今後はこうした遺構の検出例が増えるものと思われる。

注１　大内千年1998『柏市光ヶ丘遺跡－柏市光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書－』財団法人千葉県文化財センター調査報告第326集

２　中原幹彦1992『光ヶ丘塚群１号塚・２号塚測量調査報告書』柏市教育委員会

３　財団法人千葉県文化財センター1997『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)－東葛飾・印旛地区（改訂版）－』財団法人千葉県文化財センター調査報告第316集

４　峰村　篤1997『根木内遺跡－第４地点発掘調査報告書－』松戸市文化財調査報告第27集

５　八幡一郎他1973『貝の花貝塚』松戸市教育委員会

第2章　検出した遺構と遺物

第1節　旧石器時代

旧石器時代の調査では，立川ローム層において5枚の文化層が確認された。最下部の第1文化層の検出層位はⅦ層である。下部の第2文化層の検出層位はⅤ～Ⅵ層で，遺物集中地点を2か所含む（第1ブロック，第2ブロック）。中位の第3文化層の検出層位はⅢ～Ⅴ層で，遺物集中地点を1か所含む（第1ブロック，第1礫群）。上部の第4文化層の検出層位はⅢ層中部である。最上部の第5文化層の検出層位はⅢ層上部で，遺物集中地点を1か所含む（第3ブロック）。

1　第1文化層（遺物：第8図，図版10，第2～4表）

分　布

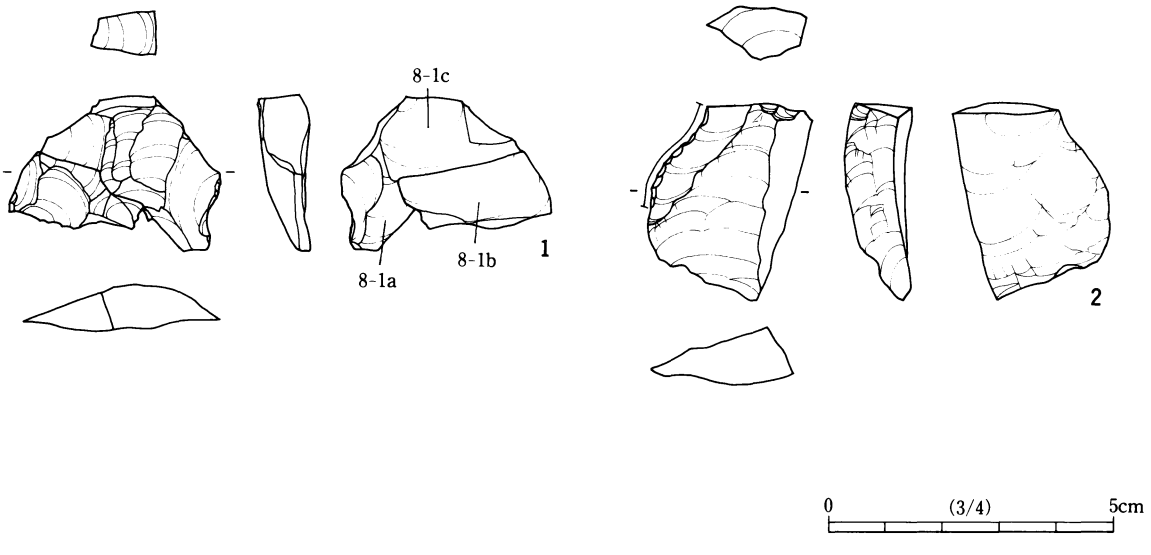
中央やや南側に位置するJ区においてⅦ層から4点の石器が検出された。礫の伴出はなく，これを第1文化層とする。

器　種

石器の組成は，剥片が3点，砕片が1点である。

剥　片

第8図の1はチャートを用いた剥片2点と砕片1点の接合している状況である。2は泥岩を用いた剥片で，側縁には微細な剥離痕がみられる。1・2とも打面は平坦で，剥片の形状は幅広で厚みがある。打角は80°と100°である。



第8図　第1文化層出土石器

第2表　文化層と石器組成

器種	第1文化層	第2文化層		第3文化層		第4文化層	第5文化層	総数
		第1ブロック	第2ブロック	第4ブロック	ブロック外		第3ブロック	
尖頭器							3	3
ナイフ形石器						1		1
スクレイパー				2				2
磨石				2				2
二次加工ある剥片							7	7
削片							2	2
剥片	3	20	11	5		1	44	84
砕片	1	4	8	2			15	30
石核		2	1	1	1		1	6
石器総数	4	26	20	12	1	2	72	137
		46		13				
礫		3		32	1		1	37
		3		33				
総数	4	29	20	44	2	2	73	174
		49		46				

第3表　第1文化層石器組成表

母岩	剥片	砕片	総数	組成比（%）
チャート①	2	1	3	75
泥岩①	1		1	25
総数	3	1	4	100
組成比（%）	75.0	25.0	100.0	

第4表　第1文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	ブロック外	11J-70-1	剥片	泥岩①	8-2	3.4×2.5×1.0	10.3	100
2	ブロック外	11J-80-1	剥片	チャート①	8-1a	(2.6)×(3.3)×(0.9)	5.8	80
3	ブロック外	11J-80-2-1	剥片	チャート①	8-1b	(1.2)×(2.8)×(0.7)	1.8	
4	ブロック外	11J-80-2-2	砕片	チャート①	8-1c	0.9×0.7×0.4	0.2	

2　第２文化層（遺構：第９・13図，図版７・８　遺物：第10～12・14図，図版10～12，第２・５～７表）

分　布

北側に位置するＨ区とＦ区で検出された２か所の石器集中地点を第２文化層とする。Ｈ区から検出された石器集中地点を第１ブロックとする。分布は東西は7.0ｍ×南北は8.0ｍに及び，石器集中地点としては規模がやや大きいほうである。検出層位はＶ層付近を中心とし，レベル的には40cm程の幅をもって検出された。若干の礫が伴出している。また，Ｆ区から検出された石器集中地点を第２ブロックとする。分布は東西は5.0ｍ×南北は4.0ｍである。検出層位はＶ～Ⅵ層で，レベル的には60cm程の幅をもって検出された。礫の伴出はない。

器　種

石器の組成は，第１ブロックは剥片が20点，砕片が4点，石核が２点，石器合計は26点である。その他礫が３点検出されている。また，第２ブロックは剥片が11点，砕片が８点，石核が１点，石器合計は20点である。

剥　片

第10図の３～６は安山岩，第12図の１～６はチャートを用いているという石材に違いがあるが，いずれ

第５表　第２文化層石器組成表

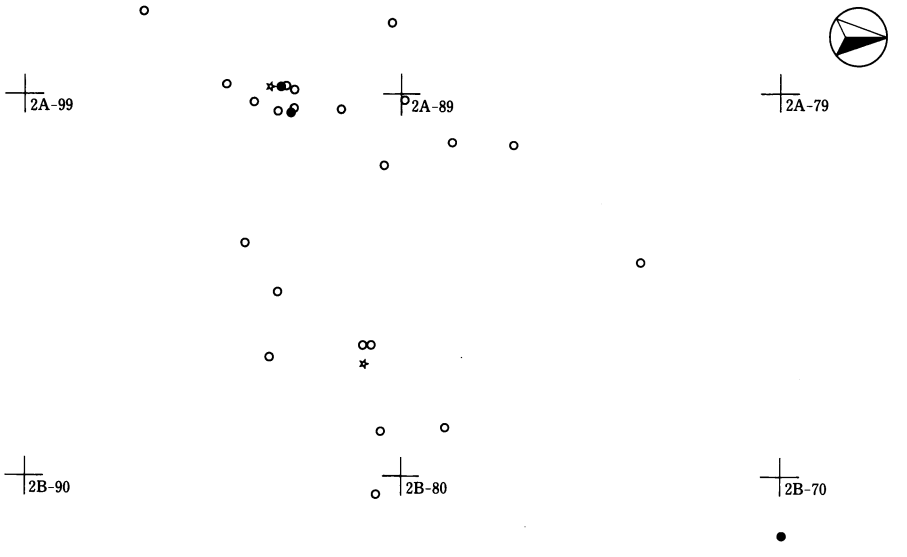
ブロック	母　岩	剥　片	砕　片	石　核	総　数	組成比（%）
第１ブロック	チャート①	9	3	1	13	50
	チャート②	1			1	4
	チャート③	1			1	4
	チャート④			1	1	4
	チャート⑤	2			2	8
	チャート⑥		1		1	4
	安山岩①	7			7	27
	小　計	20	4	2	26	100
	組成比(%)	77	15	8	100	
第２ブロック	黒曜石①	10	9	1	20	100
	小　計	10	9	1	20	100
	組成比(%)	50	45	5	100	
総　数		30	13	3	46	100
組成比(%)		65	28	7	100	

第6表　第2文化層石器属性表

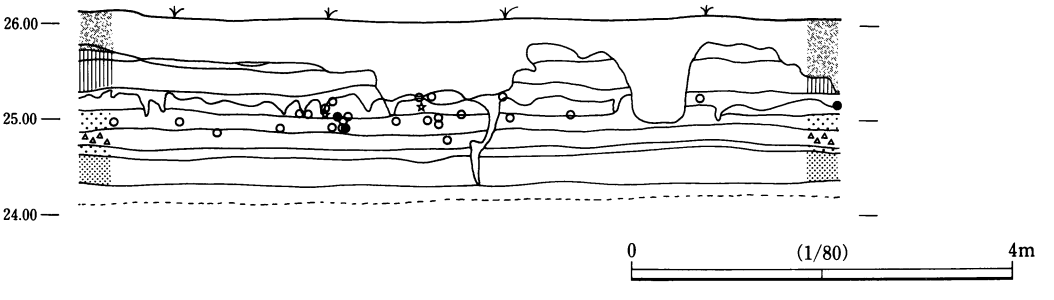
No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	第1ブロック	1プレ-1	打面再生剥片	チャート⑤		4.2×3.4×1.7	24.2	110
2	第1ブロック	1プレ-2	剥片	チャート⑤		(1.8)×0.9×0.4	0.7	
3	第1ブロック	1プレ-3	剥片	チャート①		3.0×2.4×1.7	10.3	110
4	第1ブロック	1プレ-5	剥片	チャート②		3.6×2.2×1.0	7.0	110
5	第1ブロック	1プレ-6	剥片	安山岩①	10-3a	1.6×3.7×0.7	3.1	110
6	第1ブロック	1プレ-7	石核	チャート④		3.0×2.4×2.4	12.6	
7	第1ブロック	1プレ-8	砕片	チャート⑥		2.0×1.4×0.6	1.6	
8	第1ブロック	1プレ-9	剥片	チャート①	12-2	2.6×3.4×1.1	8.6	
9	第1ブロック	1プレ-10	剥片	安山岩①	10-1	2.7×3.5×0.6	4.0	110
10	第1ブロック	1プレ-11	剥片	チャート①	12-1	2.5×2.6×0.9	3.9	
11	第1ブロック	1プレ-12	剥片	チャート①	12-4	4.3×1.8×1.3	6.9	
12	第1ブロック	1プレ-13	砕片	チャート①		0.9×1.2×0.3	0.2	
13	第1ブロック	1プレ-14	剥片	チャート③		3.6×4.1×2.2	25.5	
14	第1ブロック	1プレ-15	砕片	チャート①		1.6×0.9×0.2	0.4	
15	第1ブロック	1プレ-16	剥片	チャート①		2.7×2.1×1.1	5.0	95
16	第1ブロック	1プレ-18	剥片	チャート①	12-3	4.5×2.7×1.5	21.5	
17	第1ブロック	1プレ-19	剥片	チャート①	12-5	1.6×2.0×0.6	1.5	
18	第1ブロック	1プレ-20	砕片	チャート①		0.6×0.5×0.2	0.1	
19	第1ブロック	1プレ-21	剥片	安山岩①	10-4	1.7×3.1×0.7	3.1	110
20	第1ブロック	1プレ-22	剥片	安山岩①	10-5	1.1×1.7×0.4	0.6	
21	第1ブロック	1プレ-23	剥片	チャート①	12-6	2.0×1.0×0.6	1.4	
22	第1ブロック	1プレ-24	石核	チャート①	12-7	5.3×5.5×5.6	237.0	
23	第1ブロック	1プレ-26	剥片	チャート①		3.2×4.6×1.7	20.2	95
24	第1ブロック	1プレ-27	剥片	安山岩①	10-6	4.8×4.8×1.6	33.7	120
25	第1ブロック	1プレ-29	剥片	安山岩①	10-3b	2.0×1.4×0.6	1.0	
26	第1ブロック	1プレ-30	剥片	安山岩①		2.1×1.1×0.8	1.2	
1	第2ブロック	4D-68-1	砕片	黒曜石①		1.0×0.8×0.3	0.1	
2	第2ブロック	4D-68-2	砕片	黒曜石①		0.8×1.2×0.3	0.2	
3	第2ブロック	4D-68-3	剥片	黒曜石①	14-4	1.4×2.3×1.1	3.0	
4	第2ブロック	4D-68-4	剥片	黒曜石①		(2.8)×2.4×1.9	9.7	100
5	第2ブロック	4D-69-1	剥片	黒曜石①	14-1	2.3×(2.1)×0.6	2.3	
6	第2ブロック	4D-69-2	剥片	黒曜石①		(1.7)×(2.3)×0.6	1.8	
7	第2ブロック	4D-69-3	剥片	黒曜石①		3.1×1.7×2.0	6.5	65
8	第2ブロック	4D-69-4	剥片	黒曜石①		2.4×(2.3)×0.6	2.3	
9	第2ブロック	4D-69-5	砕片	黒曜石①		1.4×1.8×0.6	0.9	
10	第2ブロック	4D-69-6	砕片	黒曜石①		1.4×1.3×0.6	0.6	
11	第2ブロック	4D-69-7	石核	黒曜石①	14-5	2.5×1.9×1.4	6.2	
12	第2ブロック	4D-69-8	砕片	黒曜石①		(0.4)×1.2×0.3	0.1	
13	第2ブロック	4D-69-9	剥片	黒曜石①	14-2	(1.5)×3.2×0.8	2.5	
14	第2ブロック	4D-69-10	剥片	黒曜石①		1.1×1.3×0.4	5.8	100
15	第2ブロック	4D-69-11	砕片	黒曜石①		1.1×1.6×0.2	0.3	
16	第2ブロック	4D-69-12	砕片	黒曜石①		0.6×0.4×0.2	0.1	
17	第2ブロック	4D-69-13	剥片	黒曜石①		(1.8)×1.9×0.7	1.8	
18	第2ブロック	4D-69-14	剥片	黒曜石①	14-3	1.9×2.5×0.7	2.9	100
19	第2ブロック	4D-69-15	砕片	黒曜石①		(0.6)×0.5×0.2	0.1	
20	第2ブロック	4D-69-16	砕片	黒曜石①		0.9×0.7×0.1	0.2	

第7表　第2文化層礫属性表

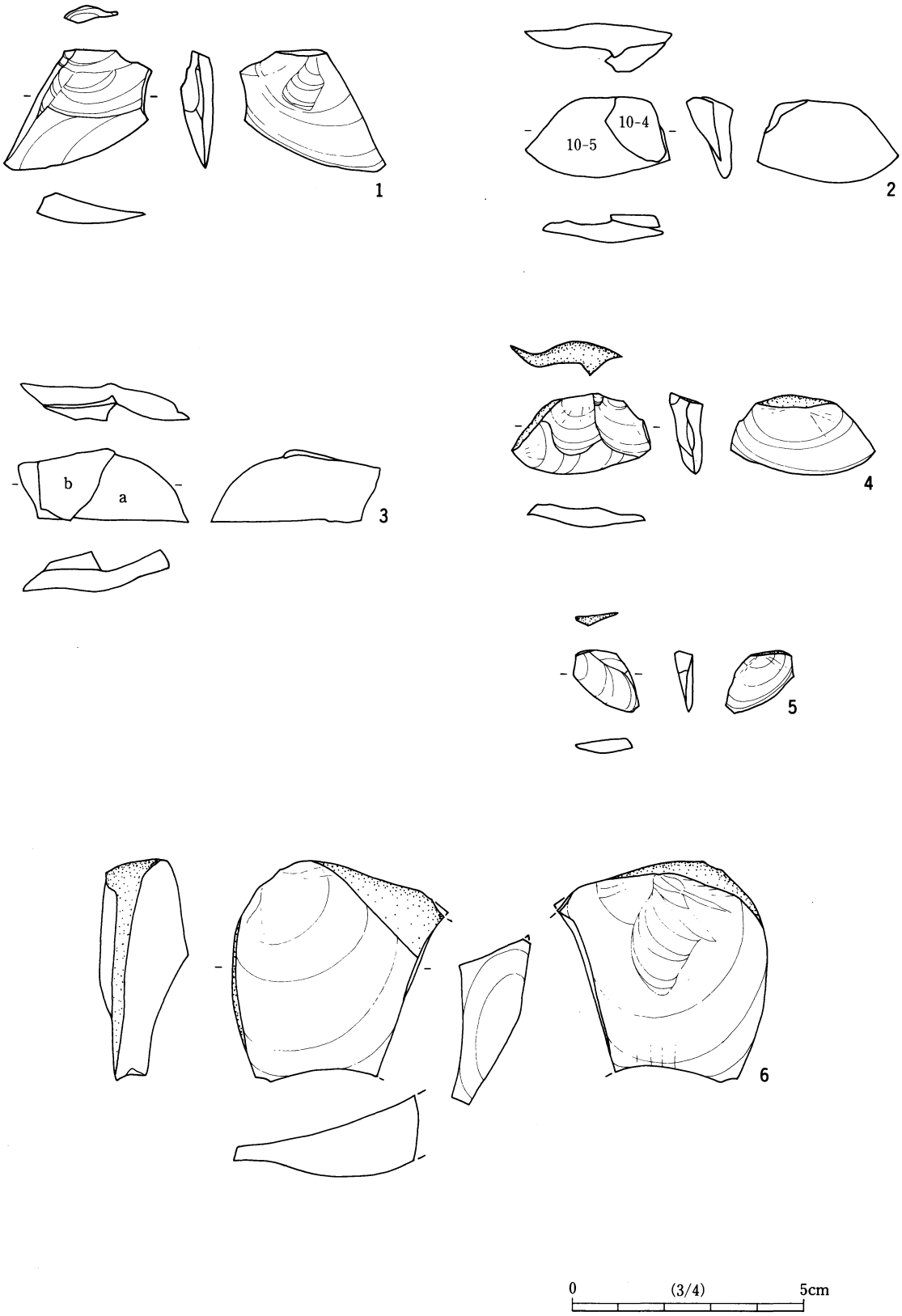
No	登録番号	石材	長×幅×厚（mm）	重量（g）	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	1プレ4	凝灰岩①	5.7×4.4×1.5	47.4	1/4		
2	1プレ25	凝灰岩②	8.8×6.1×3.1	254.0	1/1		
3	1プレ28	安山岩①	6.3×4.8×2.6	98.1	1/1		



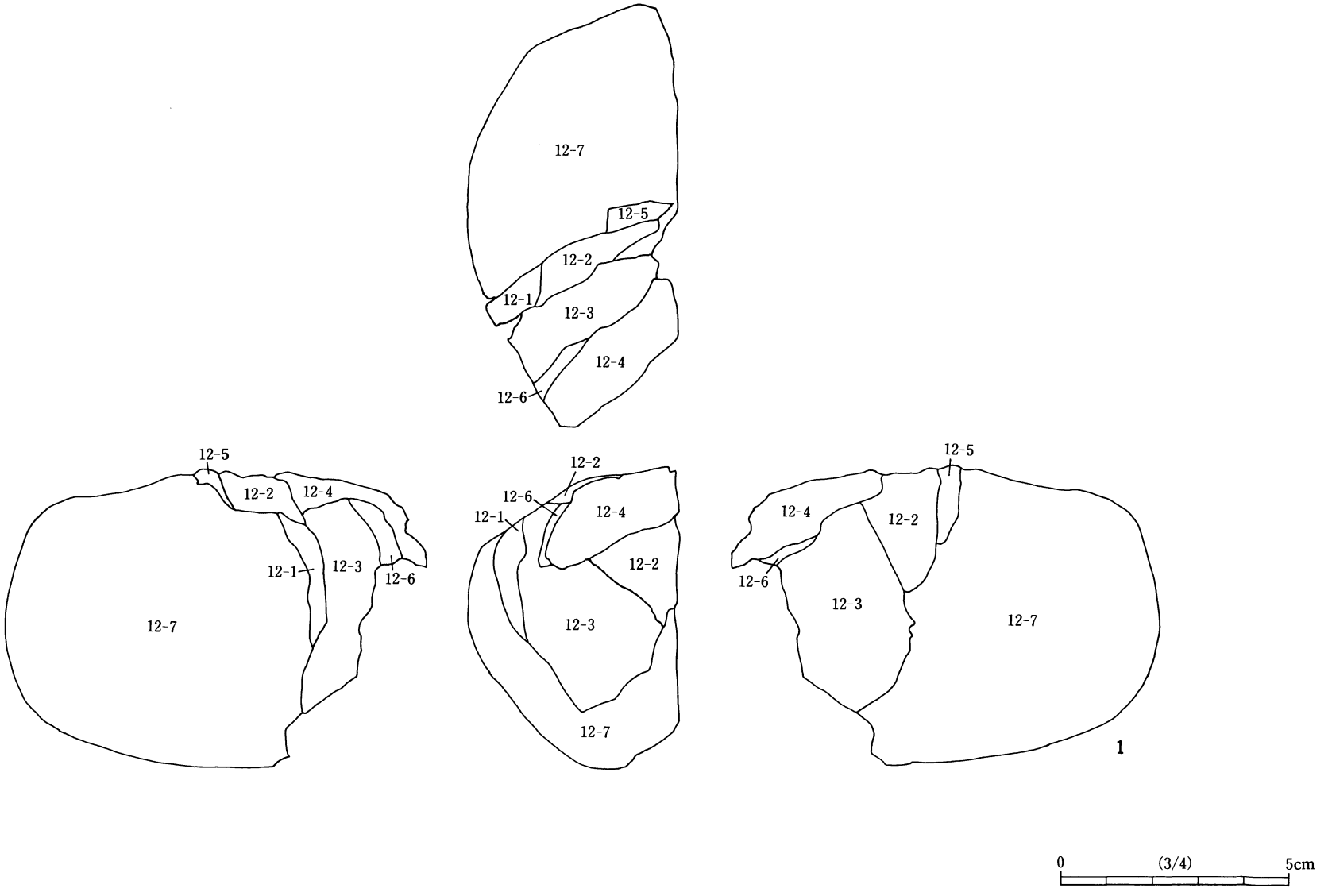
☆ 石核
○ 剥片・砕片
● 礫



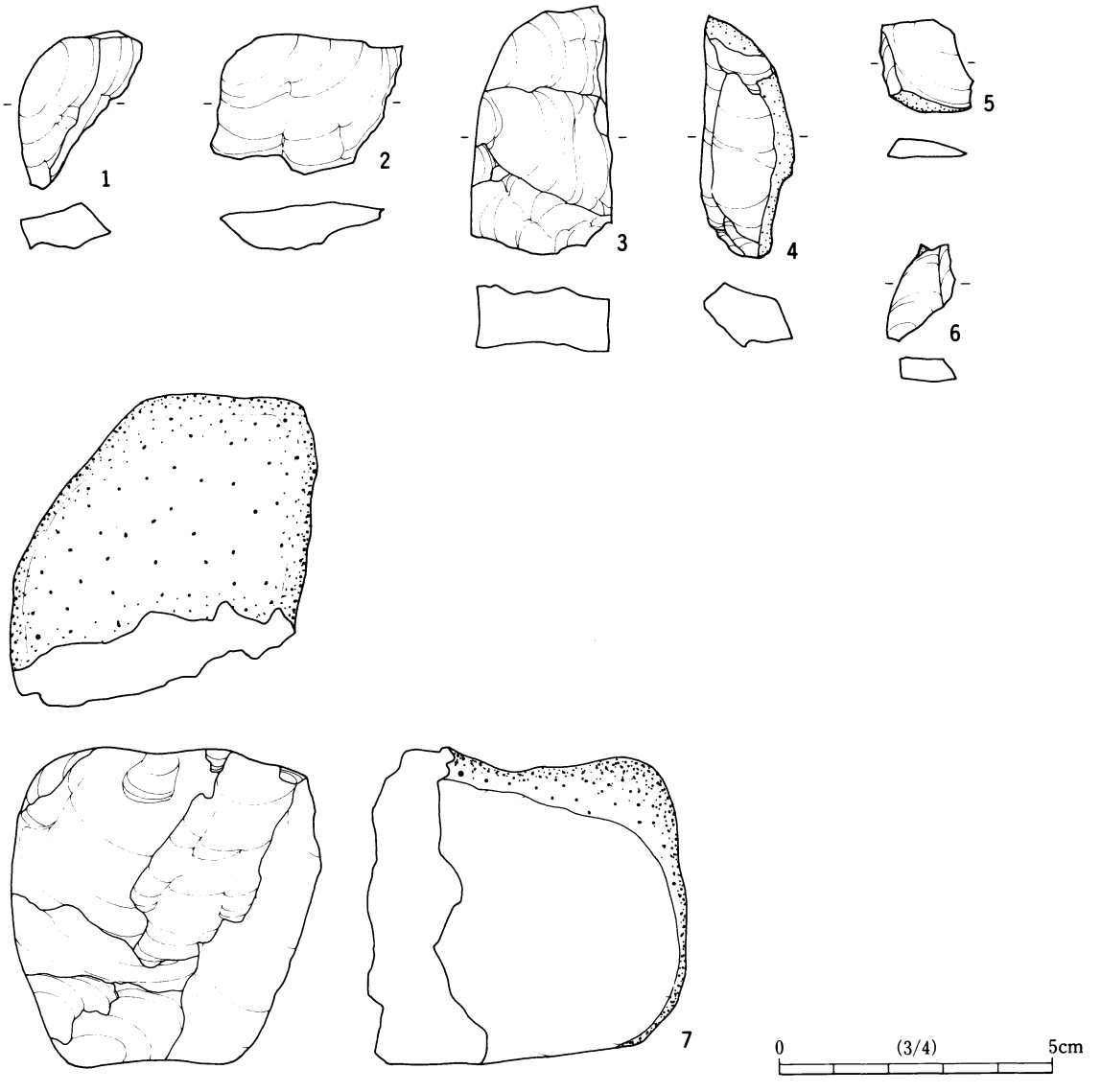
第9図　第1ブロック分布図



第10図　第２文化層出土石器（１）



第11図　第２文化層出土石器（２）



第12図　第２文化層出土石器（３）

も礫面を打面とした剥片である。また，第10図の１と第14図の３はどちらも平坦な打面をもつ剥片で，幅広である。

石　核

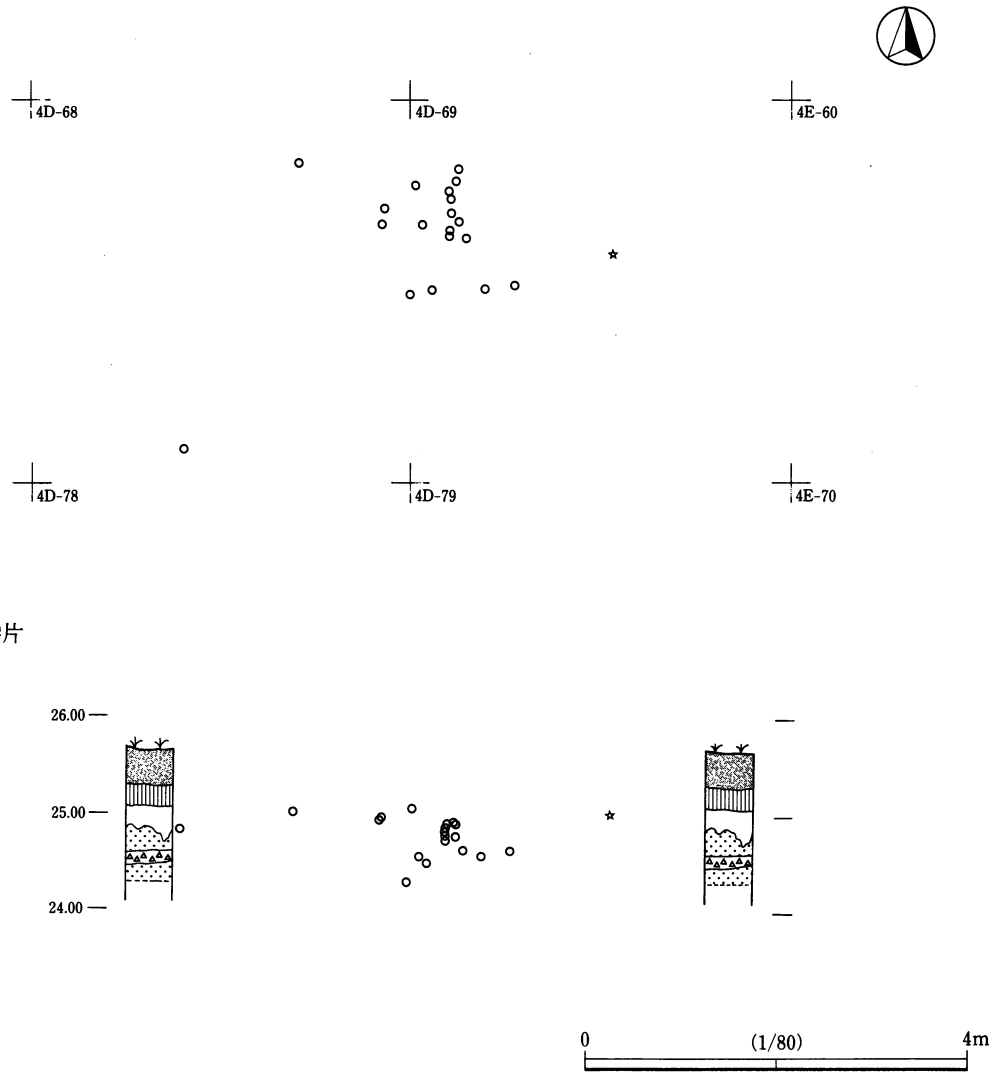
第12図の７はチャートを用いた石核である。打面には礫面が選ばれ，打面はある程度固定されていたものと思われる。また，第14図の５は黒曜石を用いた石核である。打面は平坦で，やはり打面はある程度固定されていたものと思われる。

接　合

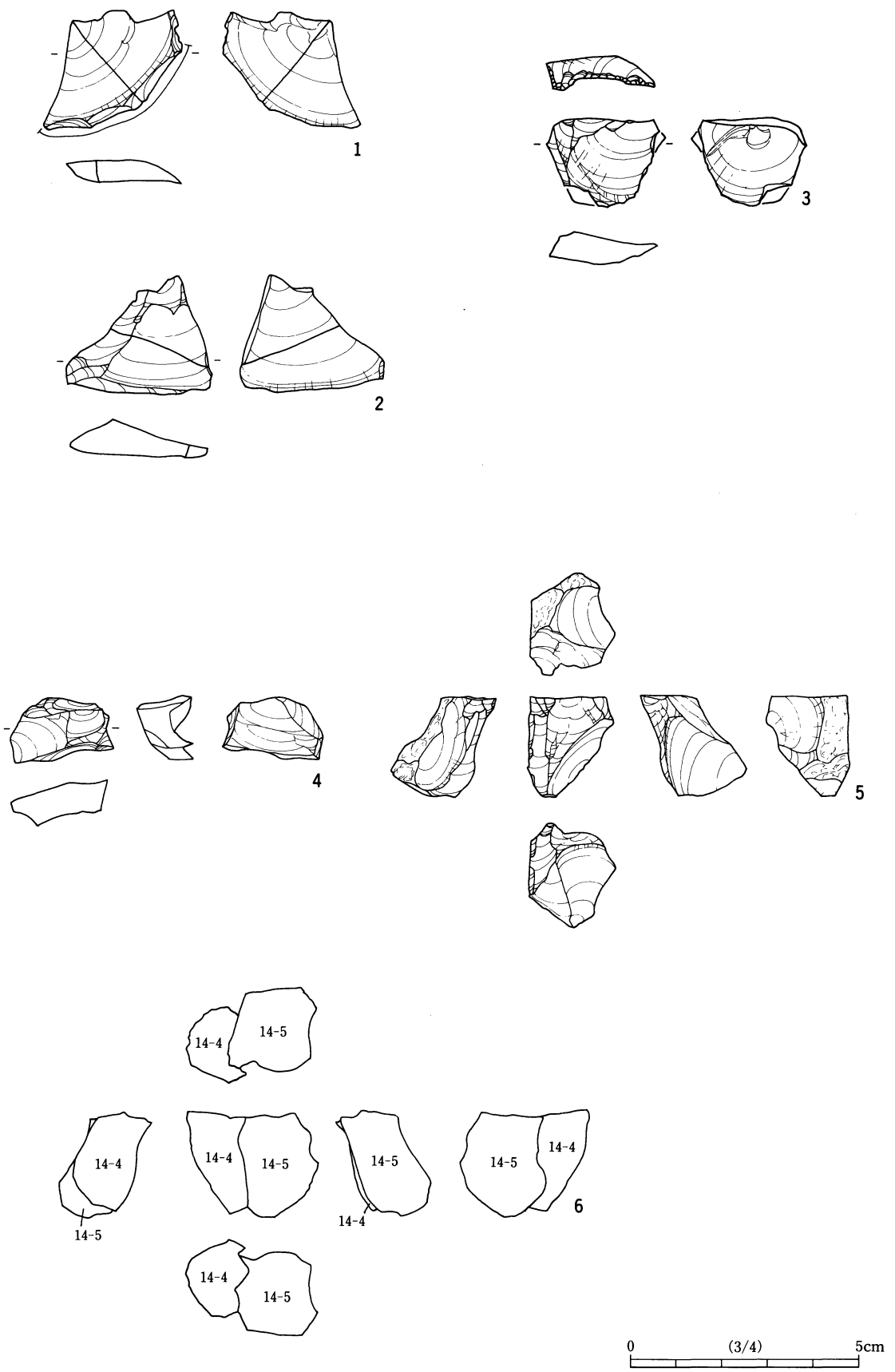
第11図の１は，チャートの接合資料で，石核１点と剥片６点が接合している。礫面を打面として剥離された剥片が大部分で，剥片の形状は一定してない。

石　材

第２文化層で用いられている石器の石材は，母岩別に分類すると全部で８種類であるが（第５表），第１ブロックの大半はチャートで占められ，第２ブロックは全て黒曜石である。



第13図　第２ブロック分布図



第14図　第２文化層出土石器（４）

3　第3文化層（遺構：第15・16図，図版9　遺物：第17図，図版12・13・17，第2・8～11表）

分　布

南東部に位置するB区で検出された石器集中地点とその他若干の遺物をもって第3文化層とする。なお，B区で検出された石器集中地点を第4ブロックとする。検出層位はⅢ～Ⅴ層で，レベル的には60cm程の幅をもって検出された。また，礫群を1つ伴っており，これを第1礫群とする。

器　種

石器の組成は，スクレイパーが2点，磨石が2点，剥片が5点，砕片が2点，石核が2点，石器合計は13点である。

スクレイパー

第17図の1と3が珪質頁岩を用いたスクレイパーである。1・3ともにノッチ状の刃部をもち，1は他の側縁にも微細な剥離痕がみられる。

磨　石

図示していないが，シルト岩の磨石片が2点出土しており，接合する。表裏両面のほか側縁も磨滅していた。

剥　片

珪質頁岩の剥片は，調整打面から剥離しているようであるが，他の石材は明確ではない。

石　核

17図の6はチャートの石核で，打面を転移して剥片を剥離していると思われる。

石　材

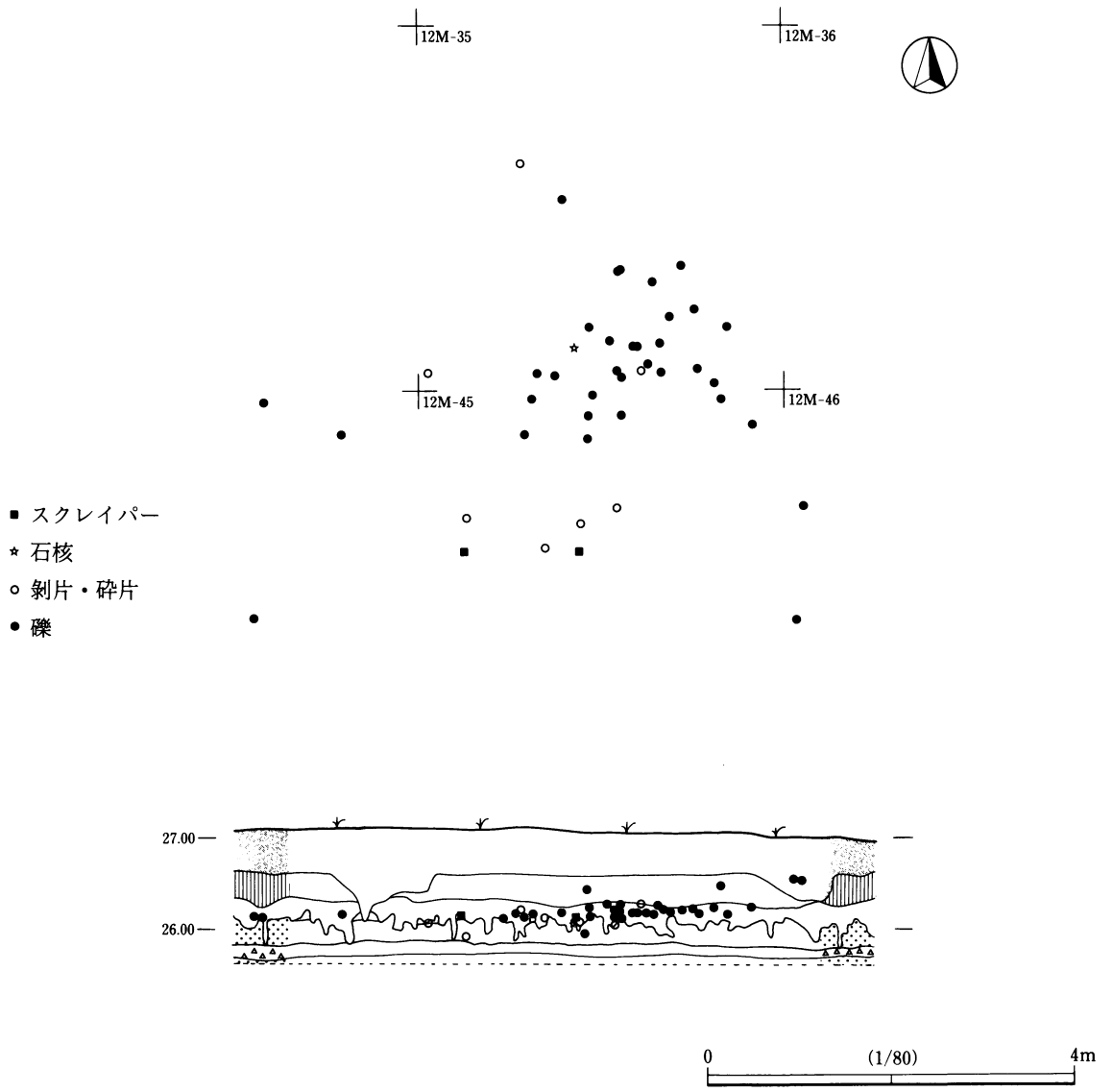
第3文化層で用いられている石器の石材を母岩別に分類すると全部で4種類あるが（第8表），主体は珪質頁岩である。

礫　群

第3文化層に伴う第1礫群の分布は，東西は6.0m×南北は5.0mである。検出層位はⅢ～Ⅴ層で，礫群構成礫の総数は32点である。遺存状況は，1/4以下が90%以上で，重量別にみると，20g以下が60%以上

第8表　第3文化層石器組成表

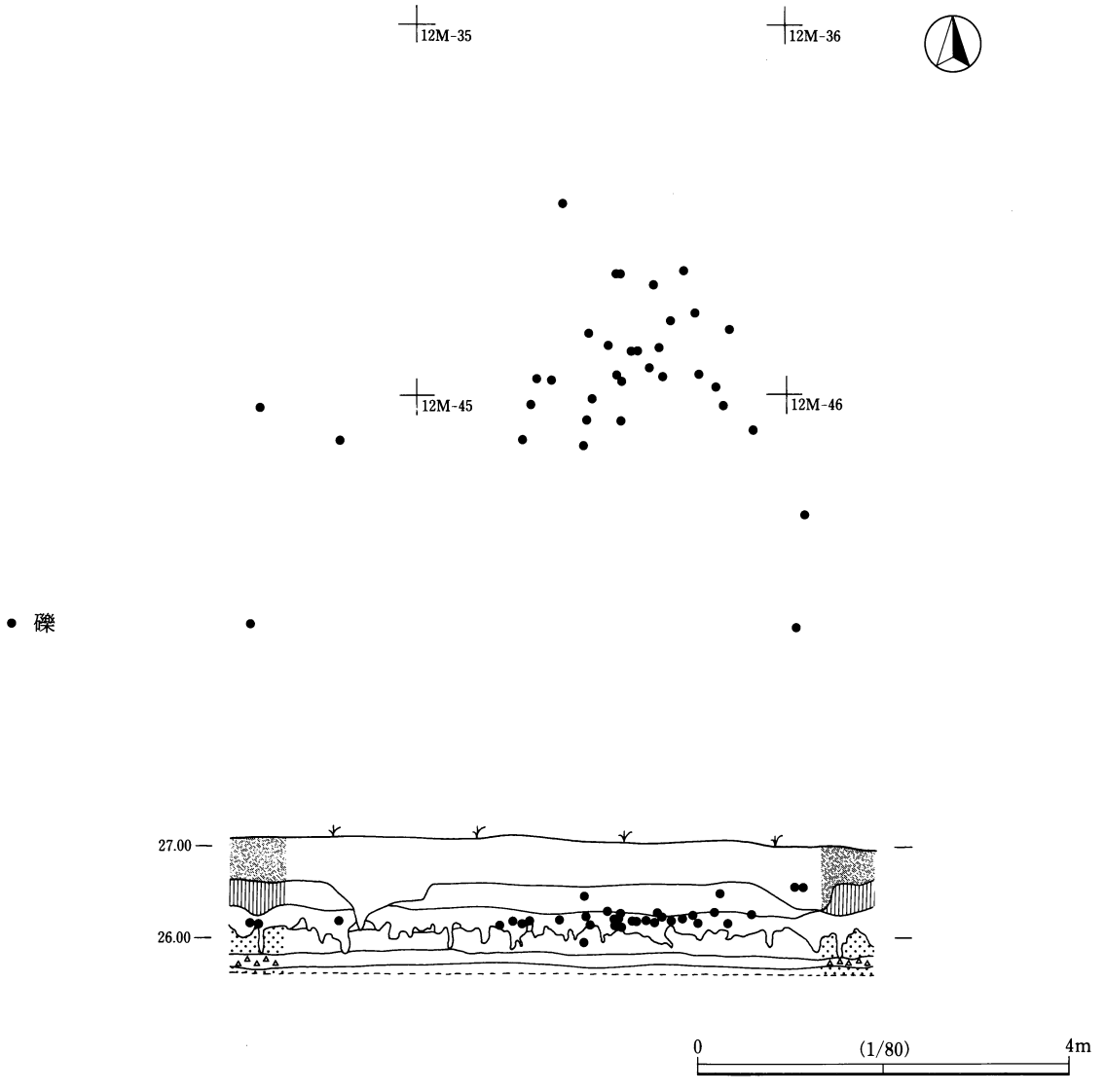
母　岩	スクレイパー	磨　石	剥　片	砕　片	石　核	総　数	組成比（%）
珪質頁岩①	2		4	1		7	54
チャート①					1	1	8
安山岩①			1	1	1	3	23
シルト岩①		2				2	15
総　数	2	2	5	2	2	13	100
組成比（%）	15	15	38	15	15	100	



第15図　第４ブロック分布図

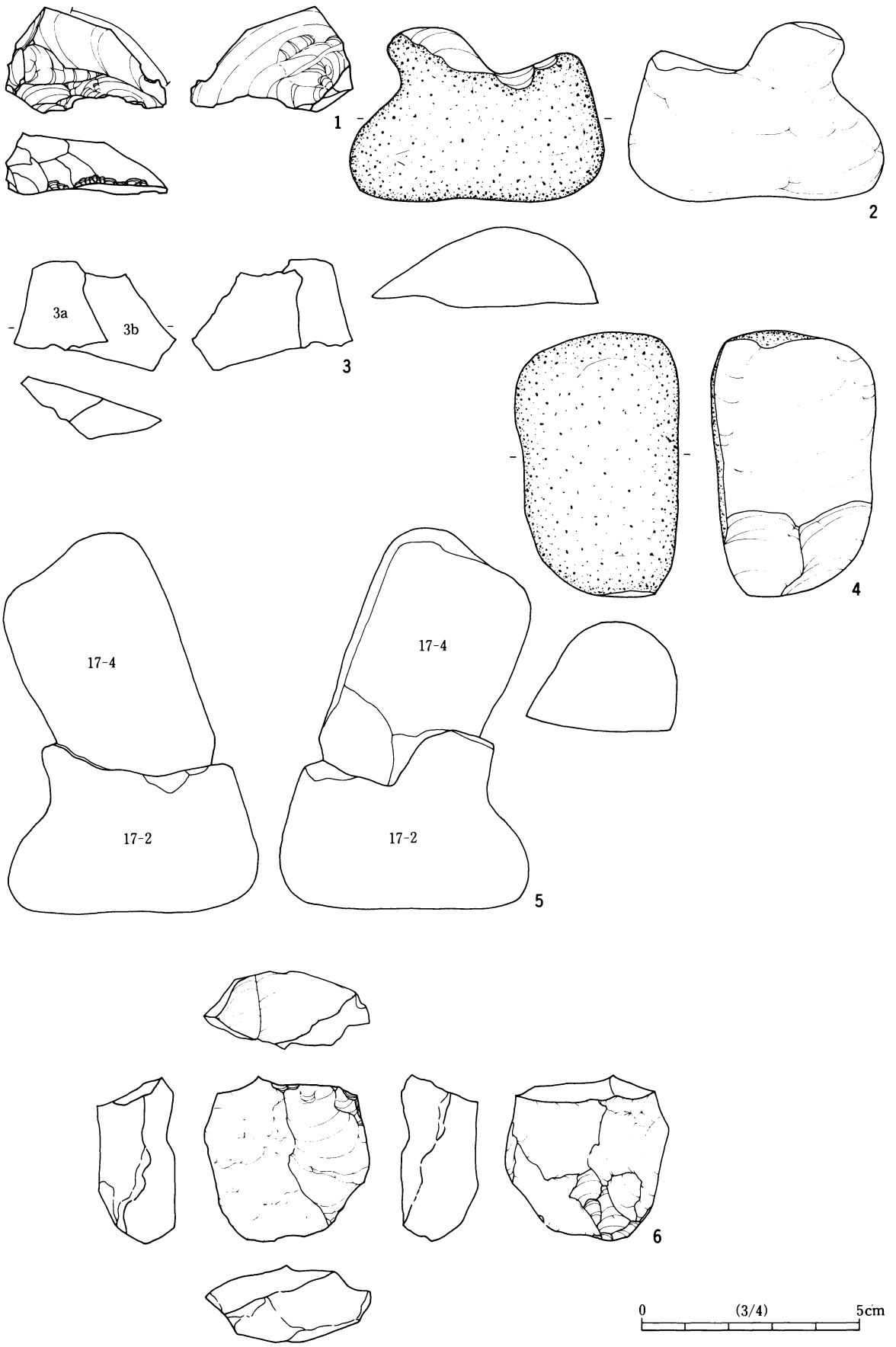
第９表　第３文化層石器属性表

No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	第４ブロック	12M-35-7	砕片	珪質頁岩①		(0.8)×0.4×0.2	0.1	
2	第４ブロック	12M-35-15	石核	安山岩①	17-4	6.0×3.8×2.6	80.7	
3	第４ブロック	12M-35-19	剥片	珪質頁岩①		1.6×2.2×2.9	0.7	130
4	第４ブロック	12M-35-20	剥片	珪質頁岩①		1.1×2.1×0.3	0.6	
5	第４ブロック	12M-45-6	磨石	シルト岩①		3.1×2.2×2.1	14.8	
6	第４ブロック	12M-45-8	磨石	シルト岩①		3.5×2.4×2.0	15.4	
7	第４ブロック	12M-45-9	剥片	安山岩①	17-2	5.9×4.0×1.9	37.9	
8	第４ブロック	12M-45-10	剥片	珪質頁岩①		0.8×1.3×0.2	0.2	
9	第４ブロック	12M-45-11	スクレイパー	珪質頁岩①	17-3a	2.2×1.9×1.0	2.7	
10	第４ブロック	12M-45-12	剥片	珪質頁岩①	17-3b	2.2×3.0×1.0	5.1	
11	第４ブロック	12M-45-13	スクレイパー	珪質頁岩①	17-1	2.5×3.8×1.4	8.8	
12	第４ブロック	12M-45-14	砕片	安山岩①		0.5×0.6×0.2	0.1	
13	ブロック外	12L-17-1	石核	チャート①	17-6	3.7×3.7×1.8	26.3	



第16図　第１礫群分布図

を占め，第１礫群構成礫に小さい破片が多いことがわかる。石材別では，砂岩とアプライトで大半を占める。なお，ヒビや黒色付着物のあるものが多く，ほとんどは焼けていると思われる。また，接合後完形に復元出来るものはない。



第17図　第３文化層出土石器

第10表　第１礫群構成礫属性表

No	登録番号	石材	長×幅×厚（㎜）	重量（g）	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	12M-35-1	ホルンフェルス①	4.7×2.2×1.6	12.5	1/4		
2	12M-35-2	砂岩①	2.9×2.8×1.5	12.9	1/4		○
3	12M-35-3	砂岩①	4.9×2.5×2.1	21.9	1/4		○
4	12M-35-4	砂岩⑦	3.8×2.8×1.7	13.4	1/4		
5	12M-35-5	アプライト①	2.2×1.8×0.9	3.5	1/4	○	
6	12M-35-6	砂岩①	3.5×3.5×2.7	31.7	1/4		○
7	12M-35-8	砂岩①	3.6×2.8×2.8	36.1	1/4		○
8	12M-35-9	アプライト①	2.3×1.6×1.0	3.4	1/4	○	
9	12M-35-10	アプライト①	2.3×2.0×1.5	6.8	1/4	○	
10	12M-35-11-1	アプライト①	3.0×2.5×1.7	13.2	1/4	○	
11	12M-35-11-2	アプライト①	3.1×2.3×2.1	15.6	1/4	○	
12	12M-35-12	凝灰岩②	4.3×3.5×2.1	41.0	1/3	○	○
13	12M-35-13	アプライト①	2.0×1.3×1.2	3.5	1/4	○	
14	12M-35-14	砂岩⑤	3.9×3.7×2.2	27.3	1/4	○	○
15	12M-35-16	砂岩②	6.5×4.6×2.6	75.8	1/2	○	
16	12M-35-17	アプライト②	3.8×2.0×1.5	11.7	1/4	○	○
17	12M-35-18	砂岩⑦	2.3×1.9×1.7	5.9	1/4		
18	12M-35-21	砂岩⑥	3.7×3.0×2.0	23.7	1/4		○
19	12M-35-22	アプライト①	2.0×1.4×1.2	5.0	1/4	○	
20	12M-35-23	アプライト①	2.9×2.5×2.1	14.6	1/4	○	
21	12M-35-24	砂岩④	2.6×3.9×2.4	40.6	1/4	○	○
22	12M-44-1	砂岩⑤	3.7×2.9×2.3	32.7	1/4	○	○
23	12M-44-2	砂岩⑧	4.0×2.6×1.6	14.1	1/4	○	○
24	12M-44-3	砂岩③	4.8×4.4×2.5	51.2	1/4	○	○
25	12M-45-1	アプライト①	3.3×1.7×1.7	7.4	1/4	○	
26	12M-45-2	アプライト②	4.4×2.4×1.5	16.8	1/4	○	○
27	12M-45-3	チャート①	5.6×3.9×2.8	51.2	1/2	○	○
28	12M-45-4	アプライト②	2.8×2.2×1.5	8.3	1/4	○	○
29	12M-45-5	凝灰岩①	4.7×3.2×2.4	29.4	1/4		○
30	12M-45-7	砂岩⑨	4.1×2.1×1.1	9.2	1/4	○	○
31	12M-46-1	花崗岩①	2.1×1.2×1.0	2.6	1/4	○	○
32	12M-46-2	アプライト①	1.8×1.7×1.4	3.9	1/4	○	

第11表　第１礫群構成礫母岩別一覧

母岩	数量	重量（g）	重量比（%）
砂岩①	4	102.6	15.9
砂岩②	1	75.8	11.7
砂岩③	1	51.2	7.9
砂岩④	1	40.6	6.3
砂岩⑤	2	60.0	9.3
砂岩⑥	1	23.7	3.7
砂岩⑦	2	19.3	3.0
砂岩⑧	1	14.1	2.2
砂岩⑨	1	9.2	1.4
アプライト①	10	76.9	11.9
アプライト①	3	36.8	5.7
凝灰岩①	1	29.4	4.5
凝灰岩②	1	41.0	6.3
チャート①	1	51.2	7.9
ホルンフェルス①	1	12.5	1.9
花崗岩①	1	2.6	0.4
合計	32	646.9	100

4　第４文化層（遺物：第18図，図版13，第12・13表）

分　布

Ｃ区とＥ区でⅢ層中部より，１点ずつ石器が検出され，これを第４文化層とする。

器　種

石器の組成は，ナイフ形石器と剥片が各１点である。

ナイフ形石器

第18の１は，１側縁を除き，周囲に調整加工を施したナイフ形石器である。珪質頁岩を用い，打面は除去されているが，先端部方向に用いている。主要剥離面基部への調整加工が目立つ。

剥　片

第18の２は黒曜石を用いた剥片で，剥離面の交点付近を打点にして剥離されている。

石　材

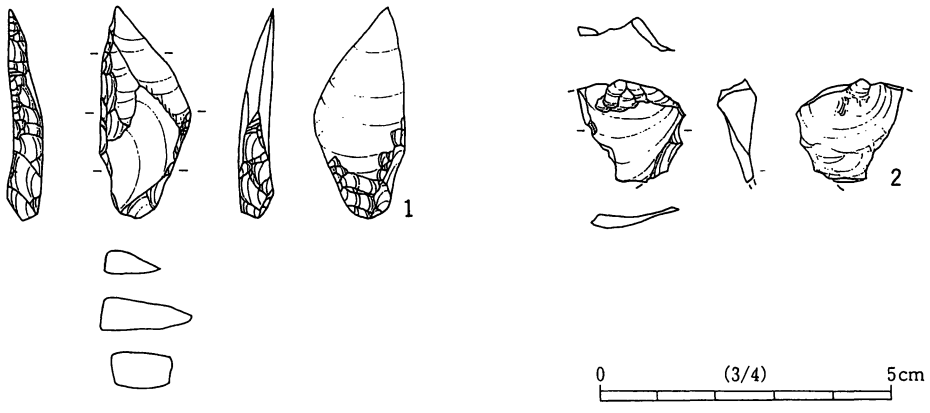
珪質頁岩と黒曜石各１点である。

第12表　第４文化層石器組成表

母　　岩	ナイフ形石器	砕　　片	総　　数	組成比（%）
珪質頁岩①	1		1	50
黒　曜　石②		1	1	50
総　　数	1	1	2	100
組成比（%）	50	50	100	

第13表　第４文化層石器属性表

No	ブ ロ ッ ク	登 録 番 号	器　　種	石　　材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	ブロック外	5トレ-1	ナイフ形石器	珪質頁岩①	18-1	3.6×1.6×0.6	3.2	
2	ブロック外	6D-95-2	剥片	黒曜石①	18-2	1.8×1.9×0.5	0.9	95



第18図　第４文化層出土石器

５　第５文化層（遺構：第19図，図版９　遺物：第20～22図，図版14～16，第14～16表）

分　布

Ｄ区南端で検出された石器集中地点を第５文化層とし，さらに第３ブロックとする。分布は東西は8.0ｍ×南北は5.0ｍである。検出層位はⅢ層上部で，緩斜面のためかレベル的には100㎝程の幅をもって検出された。礫は１点伴出している。

器　種

石器の組成は，尖頭器が３点，削片が２点，二次加工ある剥片が７点，剥片が44点，砕片が15点，石核が１点，合計は７２点である。

尖頭器

第20図の１・２・４は，珪質頁岩を用いた一方に肩をもつ尖頭器である。１と２は周辺加工，４は片面加工の尖頭器ともいえる。また，１と２は樋状剥離を有する尖頭器としても分類できる。いずれも主要剥離面において，右側に打面を置いている。

二次加工ある剥片

第20図の６・８・10～12及び第21図は，珪質頁岩を用いた二次加工ある剥片である。いずれも側縁や剥片端部に微細な剥離を加えている。第20図の６は，加工が縁辺のみであるが，削片の可能性も考えられる。

第14表　第５文化層石器組成表

母　　岩	尖頭器	削　片	二次加工ある剥片	剥　片	砕　片	石　核	総　　数	組成比（%）
珪質頁岩①	1			13	3		17	23.6
珪質頁岩②			2	4	2		8	11.1
珪質頁岩③		1	1	2	1		5	6.9
珪質頁岩④		1	2	1			4	5.6
珪質頁岩⑤	1		1	1			3	4.2
珪質頁岩⑥				1	1		2	2.8
珪質頁岩⑦				2	1		3	4.2
珪質頁岩⑧				3	2		5	6.9
珪質頁岩⑨				1			1	1.4
珪質頁岩⑩				1			1	1.4
珪質頁岩⑪				1	1		2	2.8
珪質頁岩⑫	1						1	1.4
珪質頁岩⑬				1			1	1.4
珪質頁岩⑭			1				1	1.4
珪質頁岩⑮				1			1	1.4
珪質頁岩⑯				1			1	1.4
珪質頁岩⑰				1			1	1.4
珪質頁岩⑱				1			1	1.4
珪質頁岩⑲						1	1	1.4
頁　　岩①				1			1	1.4
頁　　岩②				3			3	4.2
頁　　岩③				1	1		2	2.8
チャート①				1			1	1.4
チャート②					1		1	1.4
チャート③				1			1	1.4
チャート④					1		1	1.4
安山岩①				1			1	1.4
凝灰岩①				1			1	1.4
石英岩①					1		1	1.4
総　　数	3	2	7	44	15	1	72	100
組成比（%）	4.2	2.8	9.7	61.1	20.8	1.4	100	

削　片

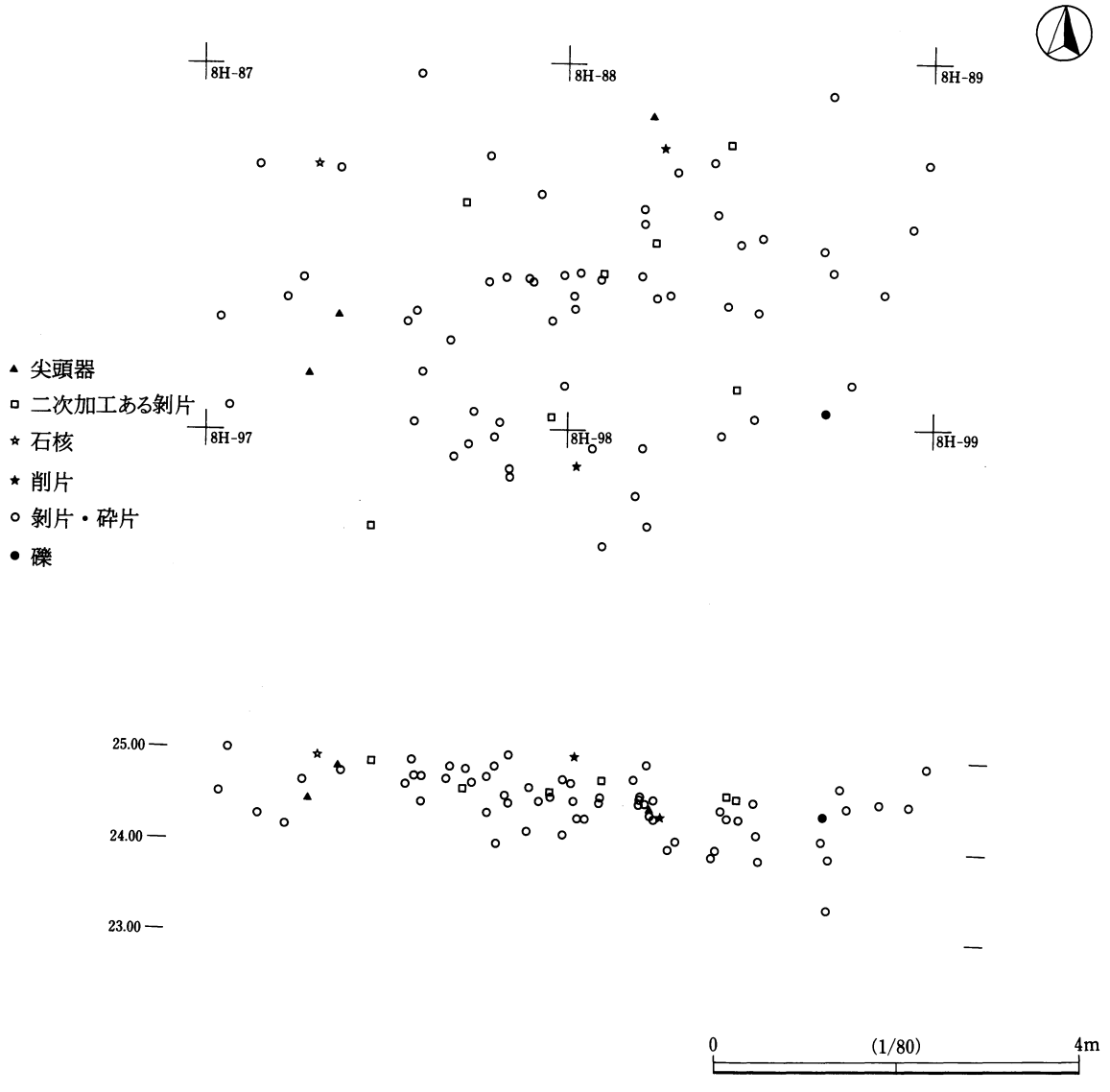
第20図の５と７は，樋状剥離を有する尖頭器の製作に関わる削片である。いずれも背面側は，ほとんどが左側からの調整剥離で占められている。

剥　片

剥片の形状はいずれも幅広であるが，打面は平坦なものと，調整されたものの二通りがある。

石　核

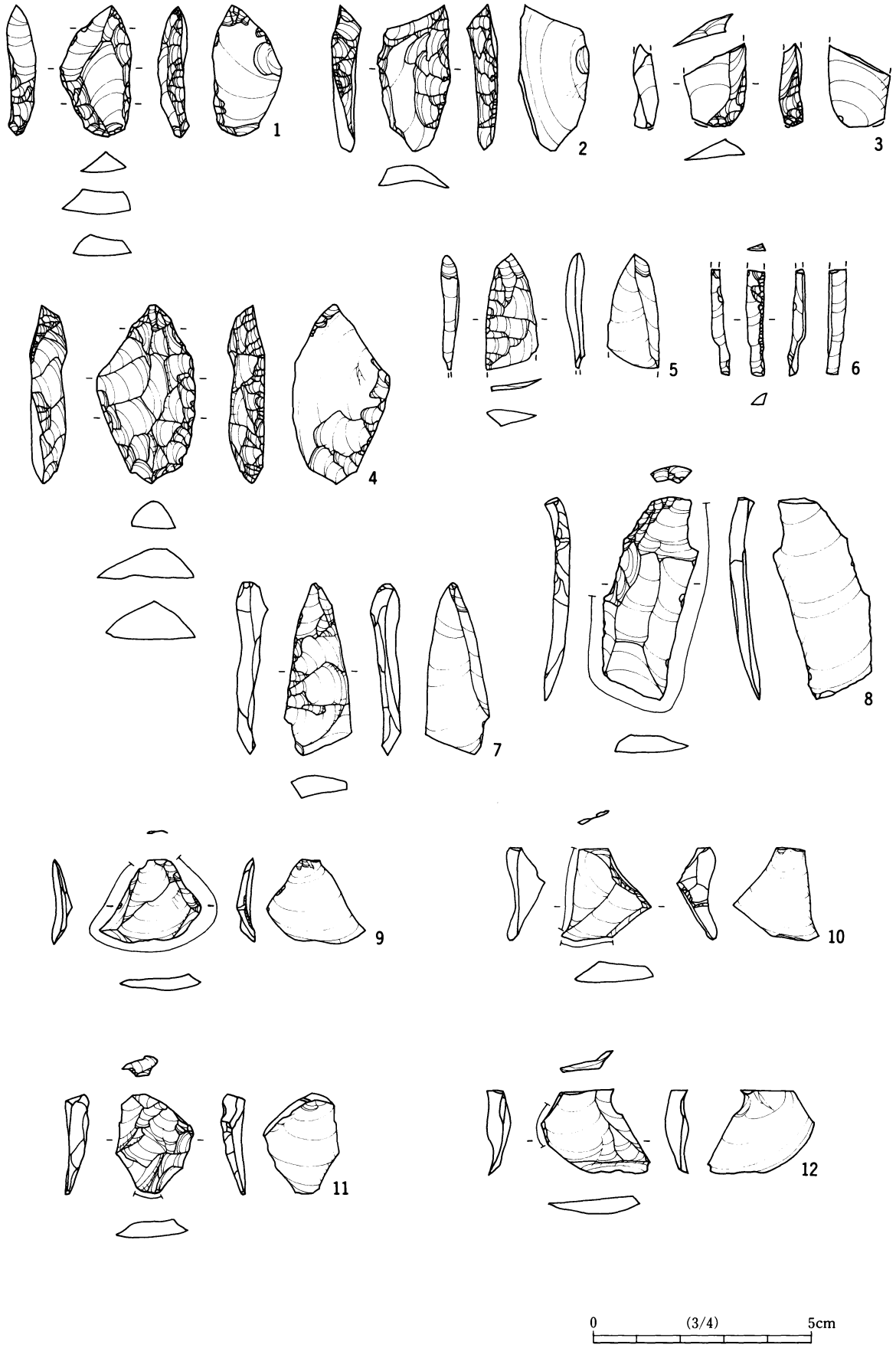
第22図の１は，珪質頁岩の石核である。全面に剥離痕があり，形状も石斧に似るが，不定形の剥片を周囲から剥離したものと考える。



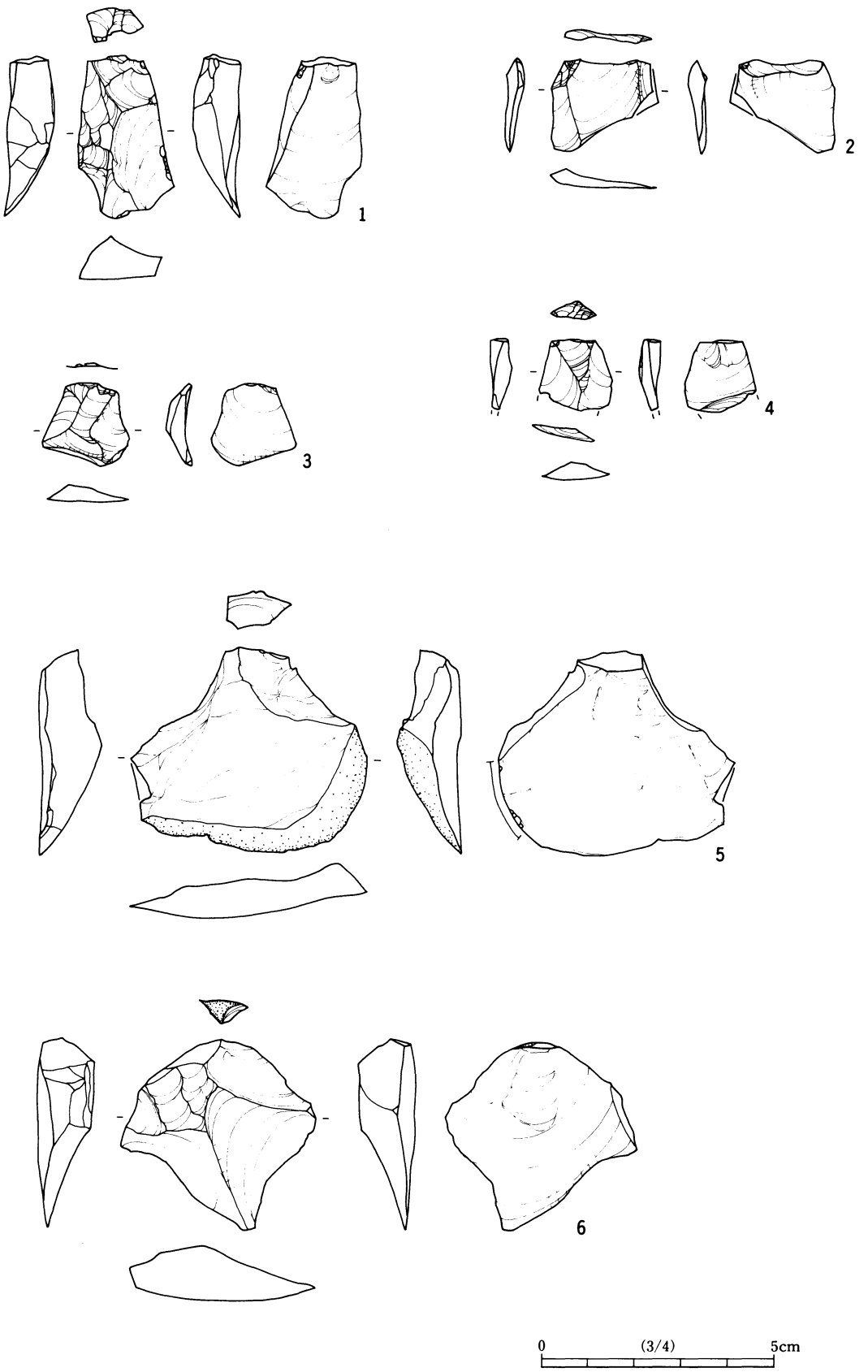
第19図　第3ブロック分布図

第15表　第５文化層石器属性表

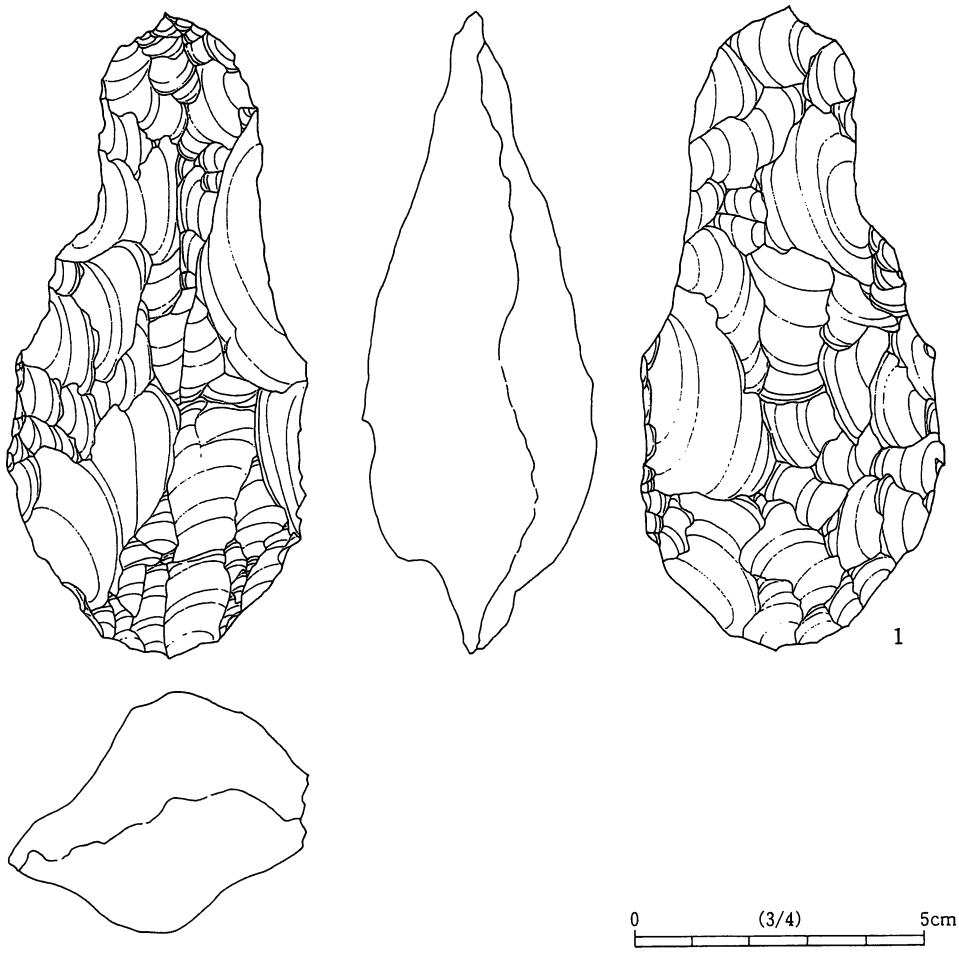
No	ブロック	登録番号	器種	石材	挿図番号	長×幅×厚（mm）	重量（g）	打角（°）
1	第３ブロック	8H-87-2	剥片	珪質頁岩③		2.3×1.6×0.4	0.6	95
2	第３ブロック	8H-87-3	石核	珪質頁岩⑲	22-1	5.2×11.2×3.8	138.0	
3	第３ブロック	8H-87-4	剥片	珪質頁岩⑬	21-2	2.0×2.7×0.4	0.9	140
4	第３ブロック	8H-87-5	剥片	珪質頁岩①		1.3×1.2×0.2	0.1	
5	第３ブロック	8H-87-6	尖頭器	珪質頁岩⑫	20-4	4.0×2.2×0.9	6.5	
6	第３ブロック	8H-87-7	剥片	珪質頁岩⑥		1.1×2.2×0.2	0.4	
7	第３ブロック	8H-87-8	砕片	珪質頁岩⑦		1.7×(1.2)×0.2	0.1	
8	第３ブロック	8H-87-9	砕片	チャート②		1.2×0.7×0.4	0.3	
9	第３ブロック	8H-87-10	剥片	頁岩①		2.0×1.1×0.6	0.5	130
10	第３ブロック	8H-87-11	剥片	珪質頁岩①		(1.0)×(2.0)×0.6	0.6	
11	第３ブロック	8H-87-12	剥片	珪質頁岩①		(1.0)×1.3×0.2	0.2	
12	第３ブロック	8H-87-13	二次加工ある剥片	珪質頁岩②	20-3	(1.7)×(1.5)×0.6	1.0	
13	第３ブロック	8H-87-14	砕片	珪質頁岩①		0.6×0.7×0.1	0.1	
14	第３ブロック	8H-87-15	砕片	頁岩③		(0.7)×(1.0)×(0.2)	0.1	
15	第３ブロック	8H-87-16	砕片	珪質頁岩⑪		(1.1)×(1.4)×(0.2)	0.2	
16	第３ブロック	8H-87-17	剥片	珪質頁岩①		1.5×1.5×0.2	0.3	
17	第３ブロック	8H-87-18	剥片	珪質頁岩①		2.1×2.1×1.8	0.5	115
18	第３ブロック	8H-87-19	砕片	珪質頁岩②		1.0×0.8×0.2	0.1	
19	第３ブロック	8H-87-20	剥片	珪質頁岩①		1.8×2.4×0.3	0.9	105
20	第３ブロック	8H-87-21	剥片	凝灰岩①		3.4×2.1×0.9	5.1	95
21	第３ブロック	8H-87-22	尖頭器	珪質頁岩①	20-2	3.4×1.7×0.7	2.6	
22	第３ブロック	8H-87-23	二次加工ある剥片	珪質頁岩⑭	20-11	2.3×1.8×0.5	1.6	105
23	第３ブロック	8H-87-24	砕片	珪質頁岩①		0.9×0.9×0.2	0.1	
24	第３ブロック	8H-87-25	剥片	安山岩①	21-6	4.0×4.3×1.2	14.1	100
25	第３ブロック	8H-87-26	剥片	チャート③		1.3×1.6×0.7	0.9	
26	第３ブロック	8H-87-27	剥片	チャート①	21-5	4.4×5.1×1.1	20.2	115
27	第３ブロック	8H-87-28	砕片	チャート④		0.5×0.8×0.1	0.1	
28	第３ブロック	8H-87-29	砕片	石英岩①		1.4×1.5×0.6	1.2	
29	第３ブロック	8H-88-1	二次加工ある剥片	珪質頁岩④	21-1	3.6×2.0×1.0	6.3	105
30	第３ブロック	8H-88-2	剥片	頁岩③		(2.4)×(1.0)×(0.2)	0.5	
31	第３ブロック	8H-88-3	剥片	珪質頁岩⑯		2.2×2.2×0.7	1.8	95
32	第３ブロック	8H-88-4	二次加工ある剥片	珪質頁岩④	20-6	(2.4)×0.5×0.2	0.2	
33	第３ブロック	8H-88-5	二次加工ある剥片	珪質頁岩③	20-8	4.6×1.8×0.5	3.7	120
34	第３ブロック	8H-88-6	砕片	珪質頁岩⑧		0.8×1.1×0.3	0.2	
35	第３ブロック	8H-88-7	剥片	珪質頁岩①		0.9×1.1×0.2	0.1	
36	第３ブロック	8H-88-8	砕片	珪質頁岩②		1.1×0.7×0.1	0.1	
37	第３ブロック	8H-88-9	剥片	珪質頁岩②	21-4	1.5×1.6×0.5	1.0	95
38	第３ブロック	8H-88-10	砕片	珪質頁岩⑧		0.7×0.5×0.1	0.1	
39	第３ブロック	8H-88-11	剥片	珪質頁岩⑨		(1.9)×1.2×0.3	0.4	
40	第３ブロック	8H-88-12	二次加工ある剥片	珪質頁岩⑤	20-12	2.0×(2.7)×0.5	1.5	
41	第３ブロック	8H-88-13	剥片	珪質頁岩②		(1.2)×1.4×0.2	0.3	
42	第３ブロック	8H-88-14	砕片	珪質頁岩①		0.8×0.4×0.2	0.1	
43	第３ブロック	8H-88-15	砕片	珪質頁岩⑥		0.4×0.3×0.1	0.1	
44	第３ブロック	8H-88-16	剥片	珪質頁岩①		(1.1)×1.1×0.1	0.1	
45	第３ブロック	8H-88-17	尖頭器	珪質頁岩⑤	20-1	3.0×1.6×0.6	2.9	
46	第３ブロック	8H-88-18	削片	珪質頁岩④	20-5	(2.4)×(1.2)×0.4	1.0	
47	第３ブロック	8H-88-19	剥片	珪質頁岩①		1.2×1.1×0.2	0.3	
48	第３ブロック	8H-88-20	剥片	珪質頁岩⑧		(0.5)×(2.1)×0.5	0.4	
49	第３ブロック	8H-88-21	剥片	珪質頁岩③		(1.9)×0.7×0.4	0.4	
50	第３ブロック	8H-88-22	砕片	珪質頁岩③		0.7×0.5×0.1	0.1	
51	第３ブロック	8H-88-24	剥片	珪質頁岩⑦		(0.5)×(2.7)×(0.3)	0.5	
52	第３ブロック	8H-88-25	剥片	珪質頁岩①		1.8×1.3×0.2	0.2	
53	第３ブロック	8H-88-26	剥片	珪質頁岩⑧		(1.4)×0.9×0.1	0.1	
54	第３ブロック	8H-88-27	剥片	珪質頁岩⑰		1.0×0.6×0.1	0.1	
55	第３ブロック	8H-88-28	剥片	珪質頁岩⑦		1.7×0.9×0.3	0.2	
56	第３ブロック	8H-88-29	剥片	珪質頁岩①		(2.5)×1.2×0.3	0.5	
57	第３ブロック	8H-88-30	剥片	頁岩②		1.9×1.6×0.2	0.3	
58	第３ブロック	8H-88-31	剥片	珪質頁岩④		2.5×1.5×0.7	1.3	115
59	第３ブロック	8H-88-32	剥片	珪質頁岩②		1.2×1.2×0.4	0.4	90
60	第３ブロック	8H-97-2	剥片	頁岩②		1.1×1.2×0.2	0.2	
61	第３ブロック	8H-97-3	二次加工ある剥片	珪質頁岩②	20-10	2.1×2.2×0.8	1.9	110
62	第３ブロック	8H-97-4	剥片	頁岩②		1.8×2.0×0.3	0.8	
63	第３ブロック	8H-97-5	剥片	珪質頁岩⑤		(2.0)×1.4×0.2	0.7	
64	第３ブロック	8H-97-6	剥片	珪質頁岩⑧		1.2×1.6×0.3	0.5	
65	第３ブロック	8H-87-8	剥片	珪質頁岩⑱		1.2×2.7×0.6	1.3	
66	第３ブロック	8H-98-2	削片	珪質頁岩③	20-7	3.9×1.5×0.7	2.9	
67	第３ブロック	8H-98-3	剥片	珪質頁岩⑪		1.5×1.6×0.5	0.8	120
68	第３ブロック	8H-98-4	剥片	珪質頁岩⑩	21-3	1.8×1.9×0.4	1.1	130
69	第３ブロック	8H-98-7	剥片	珪質頁岩②		1.5×1.1×0.2	0.4	120
70	第３ブロック	8H-98-8	剥片	珪質頁岩①		1.4×0.9×0.3	0.4	120
71	第３ブロック	8H-98-9	剥片	珪質頁岩①		(1.0)×(1.2)×0.2	0.3	
72	第３ブロック	8H-98-10	剥片	珪質頁岩⑮	20-9	2.0×2.4×0.3	0.9	140



第20図　第５文化層出土石器（１）



第21図　第５文化層出土石器（２）



第22図　第５文化層出土石器（３）

第16表　第５文化層礫属性表

No	登録番号	石材	長×幅×厚（mm）	重量（g）	遺存状況	ヒビ	黒色付着物
1	8H-88-23	チャート①	1.4×0.8×0.7	1.0	1/4		

第２節　縄文時代

縄文時代の遺構は，Ｊ区で土坑が１基検出されたのみである。遺物もＣ区から縄文土器がまとまって出土した他は少量である。

１　遺構・遺物

００３（遺構：第26図，図版７）

遺　構

Ｊ区で検出された土坑である。長径は1.5ｍ×短径は0.8ｍで，深さは0.2ｍである。旧石器の確認調査中に検出されたもので，実際はもっと深さがあった可能性がある。遺物の出土はない。

遺物（遺物：第23・24図，図版18・19）

縄文土器

縄文土器はＣ区からまとまって出土した。第23図の１～33は前期の黒浜式土器である。１・３・５～21は，単節斜縄文をもつ胴部の破片であり，４は底部で，外面にも縄文を施している。２は縦位に単節縄文をもつ口縁部である。22～23は，無節の縄文をもつ胴部の破片である。34～37は，前期の諸磯式土器である。34は円形竹管，35は原体の押捺，36は細い縄文，37は結節沈線文をもつ。38は胎土に多量の金雲母を含む中期の阿玉台式土器である。39～45は中期の加曽利Ｅ式土器である。40～42は，単節斜縄文を持ち，39・44・45は，単節斜縄文に２本の沈線が垂下する。43は渦巻文の隆帯の貼り付けがみられる。47は後期の加曽利Ｂ式土器である。縄文の上に条線を施文している。46は加曽利Ｅ期の土製円盤である。

石　器

縄文時代の石器の出土も少ない。

第24図の１は，Ｄ区から検出された石英斑岩を用いたハンマーストーンである。先端部から側縁にかけて敲打痕がみられる。２は，Ｅ区から検出された黒曜石を用いた石匙である。先端部を欠損し，基部の周囲と側面に調整加工を施しており，縦形石匙の未製品と考えられる。３は，Ｃ区から検出された黒曜石を用いた石鏃である。基部両端の返し部分を欠損している。

第３節　平安時代

Ｄ区南端において，今回の調査で唯一の竪穴住居跡が検出された。いわゆる「離れ国分」といわれるものになるかと思われる。

１　遺構・遺物

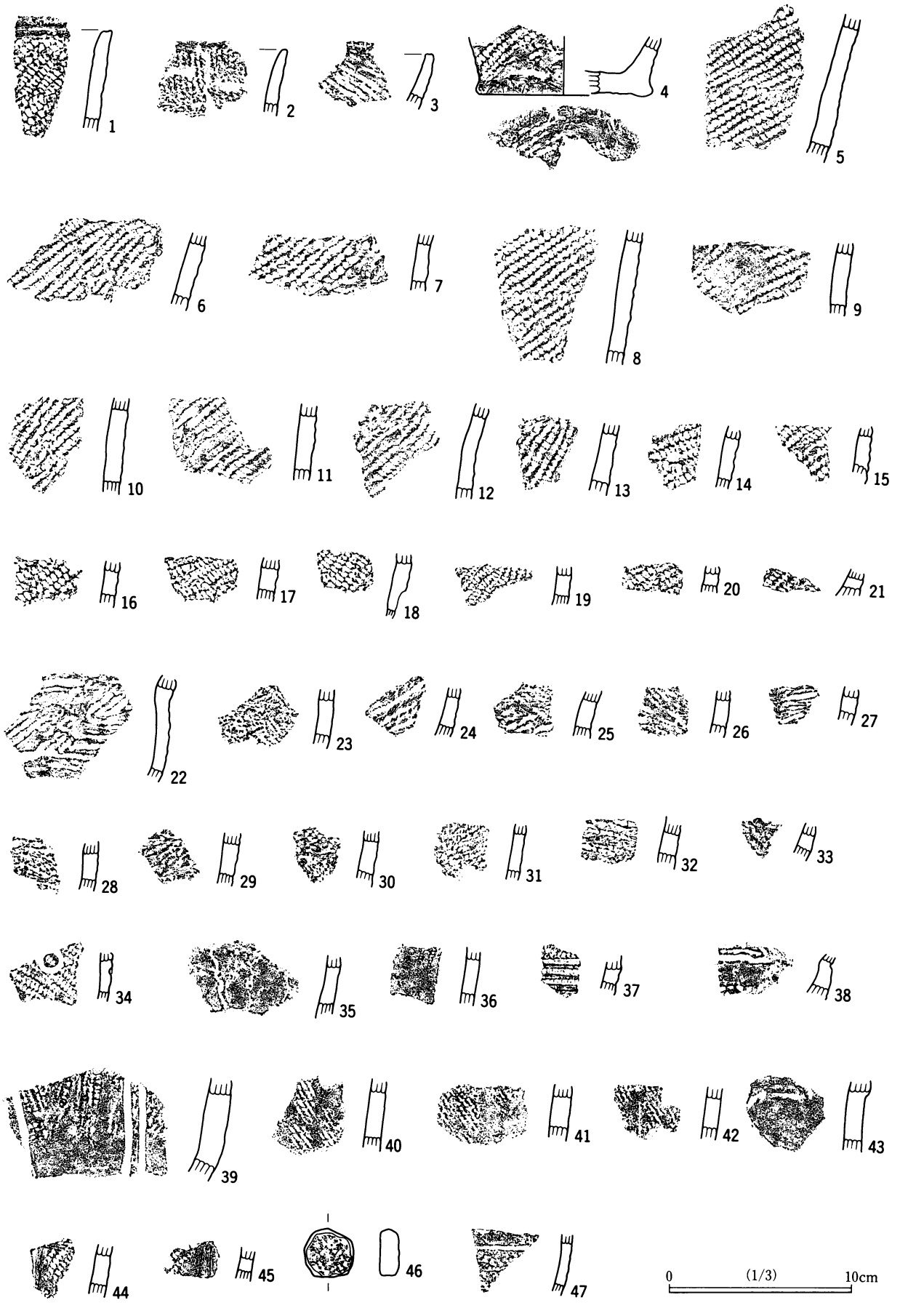
００５（遺構：第25図，図版３　遺物：第35図，図版20）

遺　構

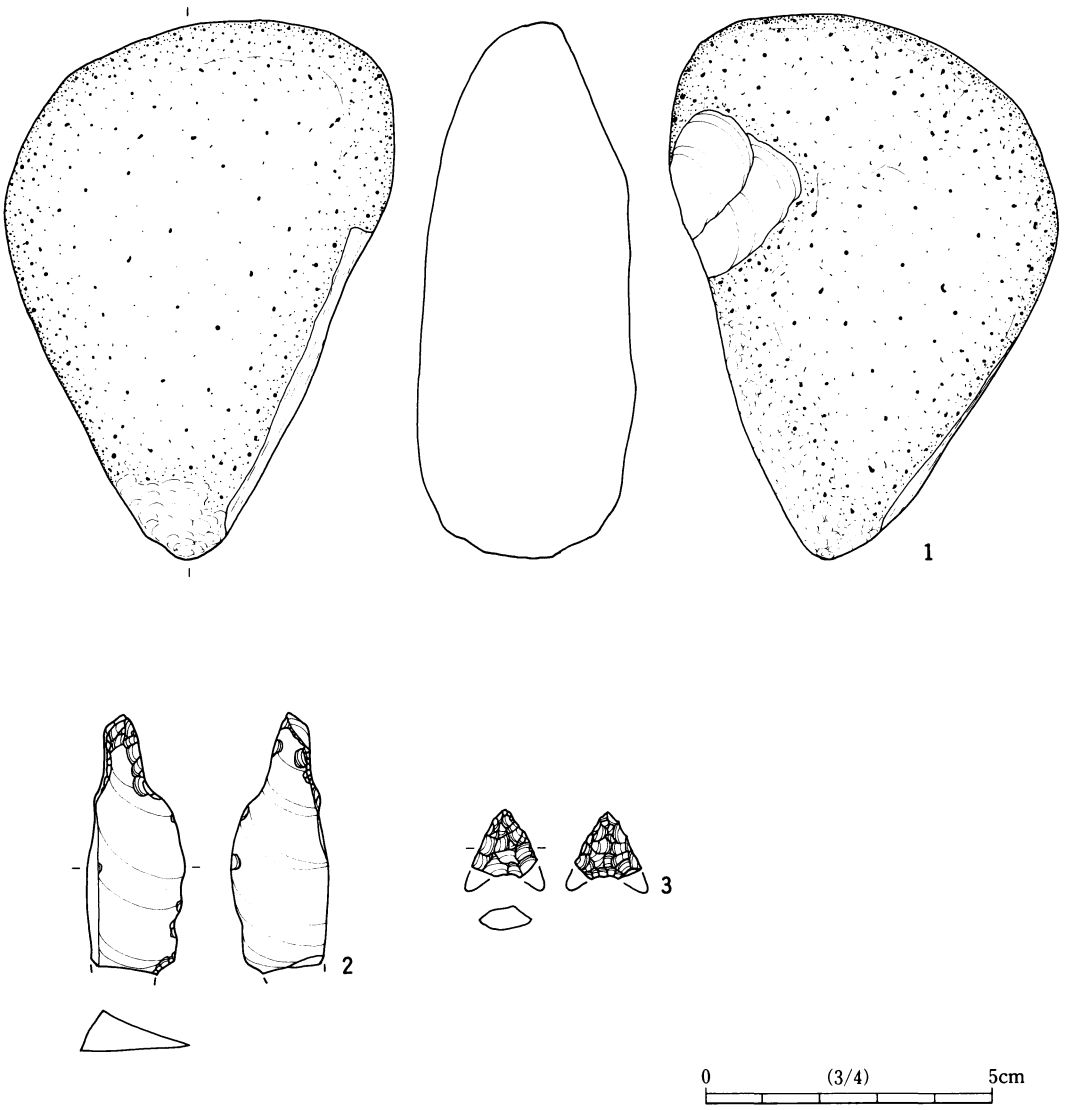
Ｄ区南端において，単独で検出された竪穴住居跡である。一辺約3.2ｍと小形で，確認面からの深さは約40㎝である。壁溝及び柱穴はない。煙道部の張り出しは少ない。

出土遺物

遺物としては，カマド前の床面から第35図の９の土製支脚が１点出土したのみである。下半部を欠損し，上部にはススが付着している。表面はヘラケズリで仕上げている。



第23図　縄文時代遺物（1）



第24図　縄文時代遺物（２）

第４節　中近世

中近世の遺構は，道路状遺構が２条，溝状遺構が９条，土坑が１基検出された。また，遺物は，陶器，土器，板碑，宝篋印塔，銭貨等が出土した。

１　遺構・遺物

００１（遺構：第26図，図版３）

遺　構

Ｊ区西側の境界付近から検出された溝状遺構である。一部が境界にかかるため，規模・形態は明確にしえないが，幅約3.0ｍ，深さ約1.1ｍと規模がやや大きいため，野馬堀の可能性が考えられる。遺物の出土はない。

００２（遺構：第26図）

遺　構

Ｊ区のトレンチで検出した溝状遺構である。確認面からの掘り込みは浅いが，溝内にピットを持ち，柵列等の存在が推定される。遺物の出土はない。

００４（遺構：第27～30図，図版４・５　遺物：第35図，図版20）

遺　構

Ｆ区とＥ区で検出された道路状遺構である。覆土には数枚の硬化面が確認され，部分的にピット群も検出された。また，部分的ではあるが底部西側の隅に側溝と思われる溝を検出した。道路状遺構の幅は確認面で3.6ｍ～4.4ｍ，底面は2.0ｍ～2.4ｍ，深さは0.6ｍ～0.7ｍである。

出土遺物

覆土から若干の陶器が出土した。第35図の３は，渥美産の壺か甕の胴部片。胎土中に砂礫は含まないが，全体にざらざらしてかなり砂っぽい。外面は一面に自然釉が付着。内面は粘土紐の接合痕が残る。４は，常滑産の壺か甕の胴部片。表面は褐色に発色。内面にはごま振り状に緑色の自然釉が付着。断面には縞状になって粘土をこねた痕跡がみられる。砂礫は含まない。６は，渥美産の壺か甕の胴部片。全体にざらざらして砂っぽい。砂礫を含む。８は，常滑産の壺か甕の破片。

００６（遺構：第31図，図版３）

遺　構

Ｃ区で検出された溝状遺構である。遺物の出土はない。確認面で幅は1.0ｍ～1.6ｍ，深さは0.4ｍ～0.8ｍで北側ほど深い。

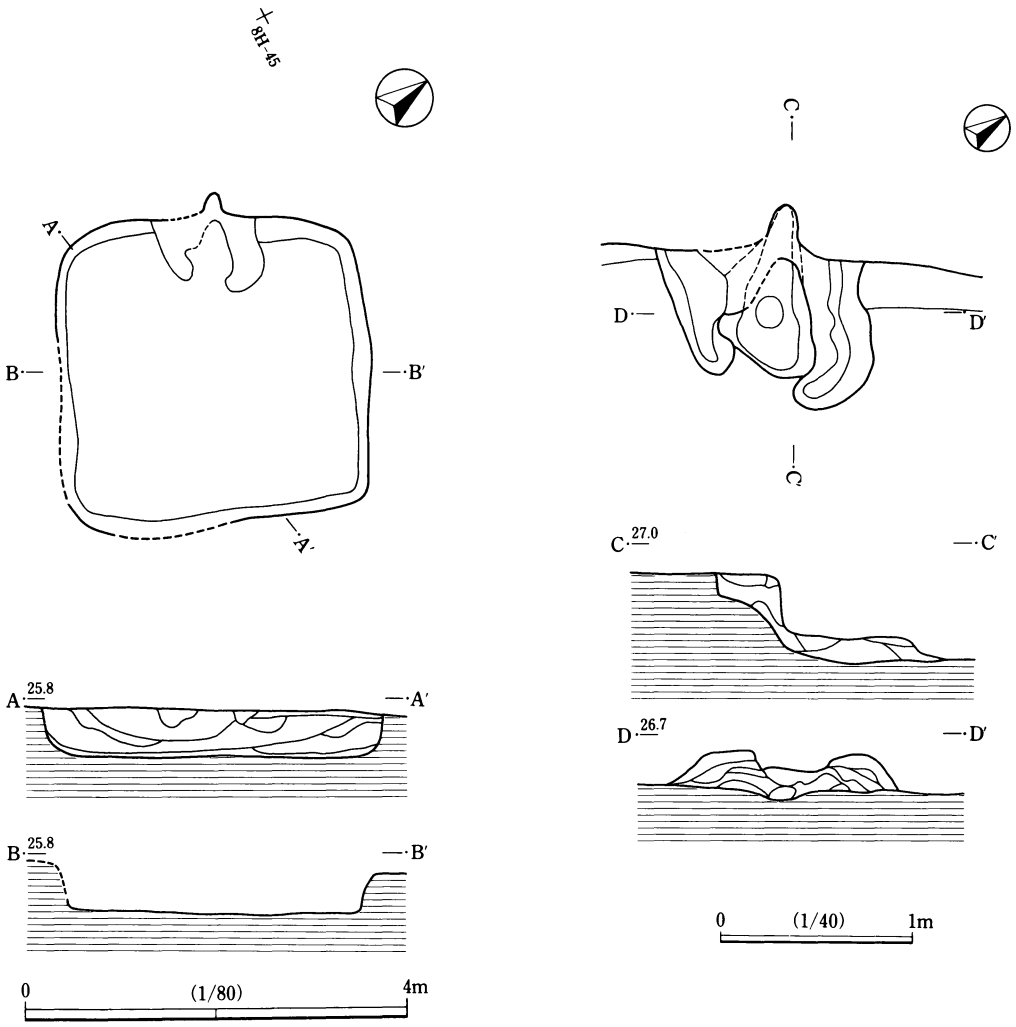
００７（遺構：第32～34図，図版６　遺物：第36図，図版21）

遺　構

Ａ区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は1.4ｍ～2.0ｍ，深さは0.1ｍ～0.6ｍで南側ほど深い。

出土遺物

覆土から石塔と銭貨が出土している。第35図の10は，宝篋印塔の隅飾突起の破片である。安山岩製で少し反る。36図の１は，開元通寶である。鋳造地は唐，初鋳年は621年，外縁外径24.40㎜×24.39㎜，外縁内径19.43㎜×19.43㎜，孔幅6.69㎜×6.57㎜，外縁厚0.95㎜×1.13㎜，重量2.3ｇ，背面が非常に平滑である。３は，元祐通寶である。鋳造地は北宋，初鋳年は1086年，外縁外径23.72㎜×24.04㎜，外縁内径19.81㎜×19.41㎜，孔幅6.64㎜×6.94㎜，外縁厚1.24㎜×1.36㎜，重量2.3ｇ。４は，紹聖元寶である。鋳造地は北宋，初鋳年は1094年，外縁外径23.14㎜×23.20㎜，外縁内径17.59㎜×18.47㎜，孔幅6.25㎜×6.71㎜，外縁厚1.38㎜×1.55㎜，重量2.0ｇ。



第25図　００５

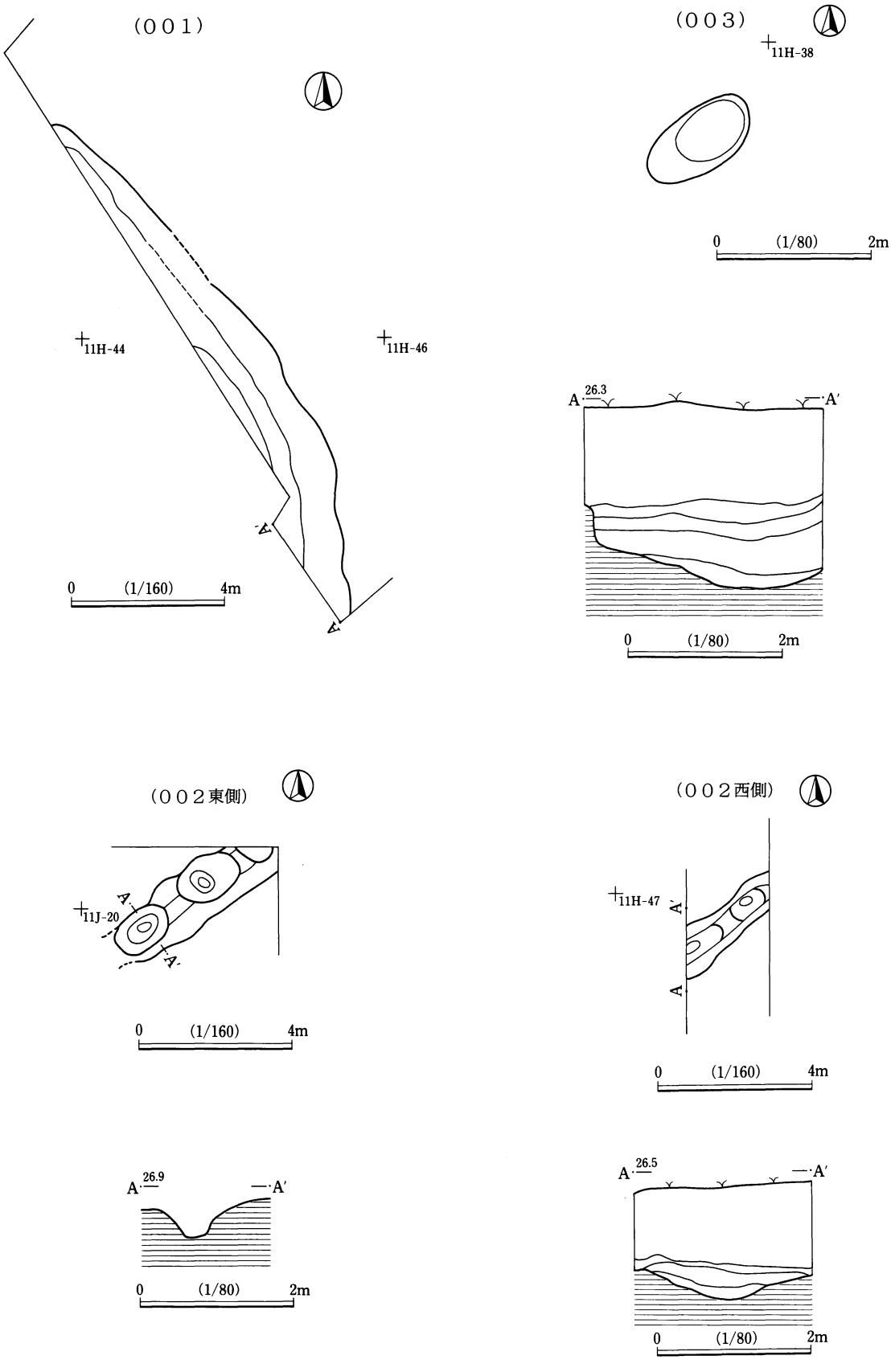
００８（遺構：第33図，図版６　遺物：第35・36図，図版20・21）

遺　構

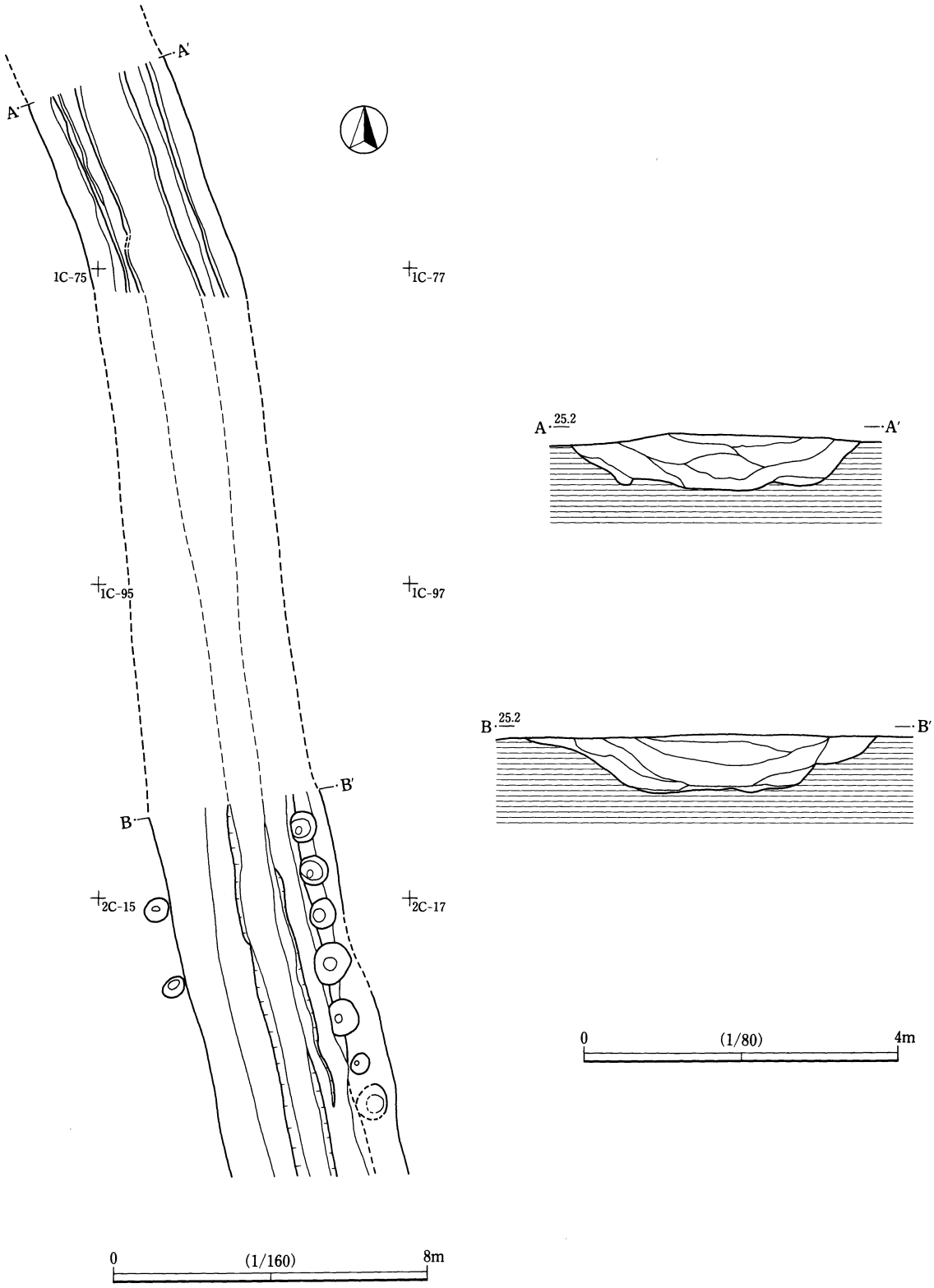
Ａ区で検出された道路状遺構である。確認面で幅は1.6ｍ～3.6ｍ，深さは0.4ｍ～0.6ｍである。覆土中に硬化面が数枚確認できる。

出土遺物

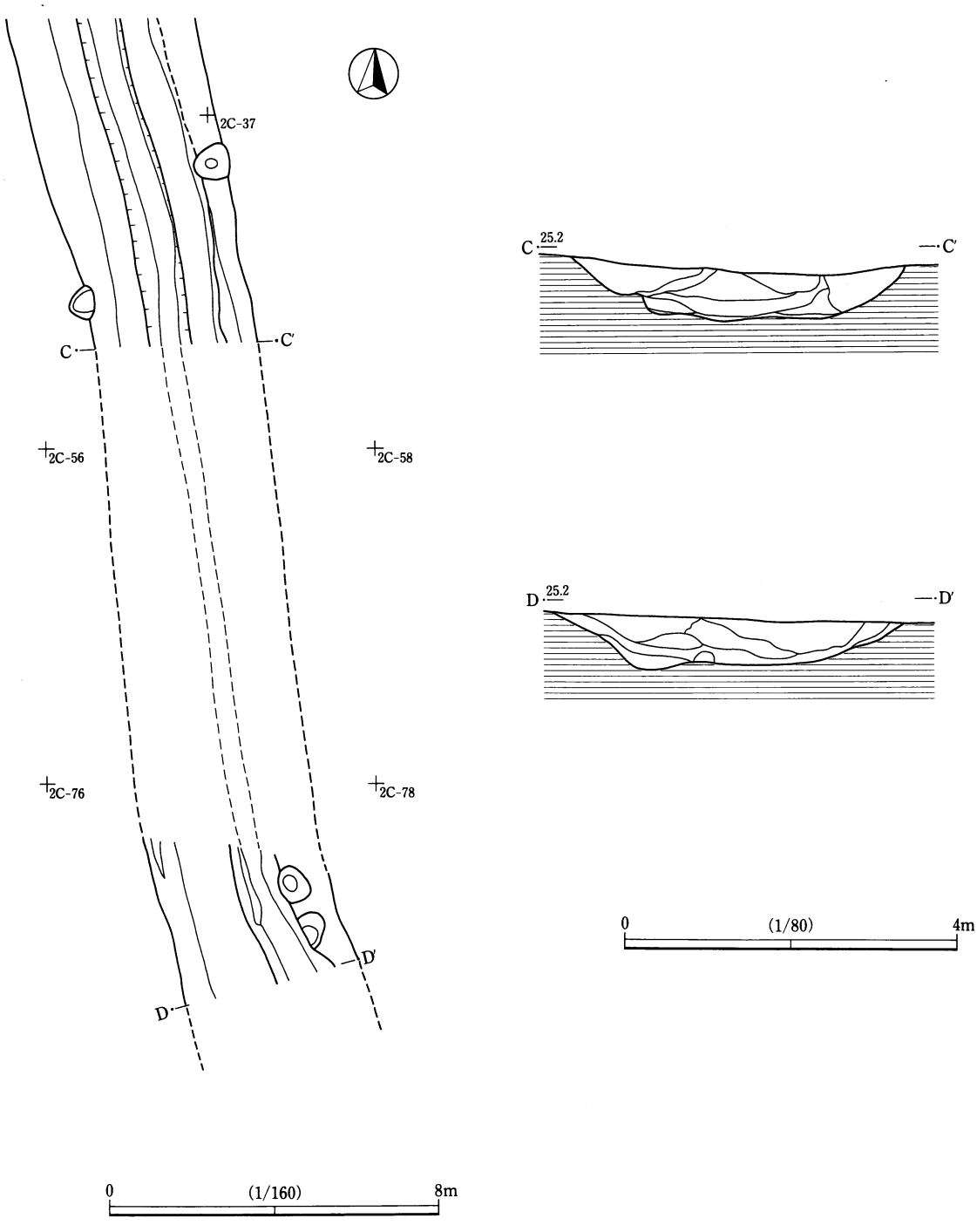
覆土から若干の陶器，石塔，銭貨等が出土している。第35図の１と２は，在地産の焙烙の体部破片。内外面ともに横ナデ痕がはっきり残る。外面の口縁から1.3㎜ほど下部には，粘土紐の接合痕が残る。おそらく，残存している体部直下から平底の底部になると考えられる。胎土には大きな砂粒を含まない。表面は木炭が染みこんでおり，瓦質である。５は，常滑産の壺か甕の肩部破片。外面は褐色でごま振り状に緑色の自然釉が付着。内面は黒色に近い。胎土には直径１㎜～２㎜大の砂礫を含む。11は，緑泥片岩製の板碑の破片と思われる。第36図の２は，元豊通寶である。鋳造地は北宋，初鋳年は1078年，外縁外径23.57㎜×23.24㎜，外縁内径17.93㎜×18.04㎜，孔幅6.16㎜×6.52㎜，外縁厚1.05㎜×1.21㎜，重量2.0ｇ。



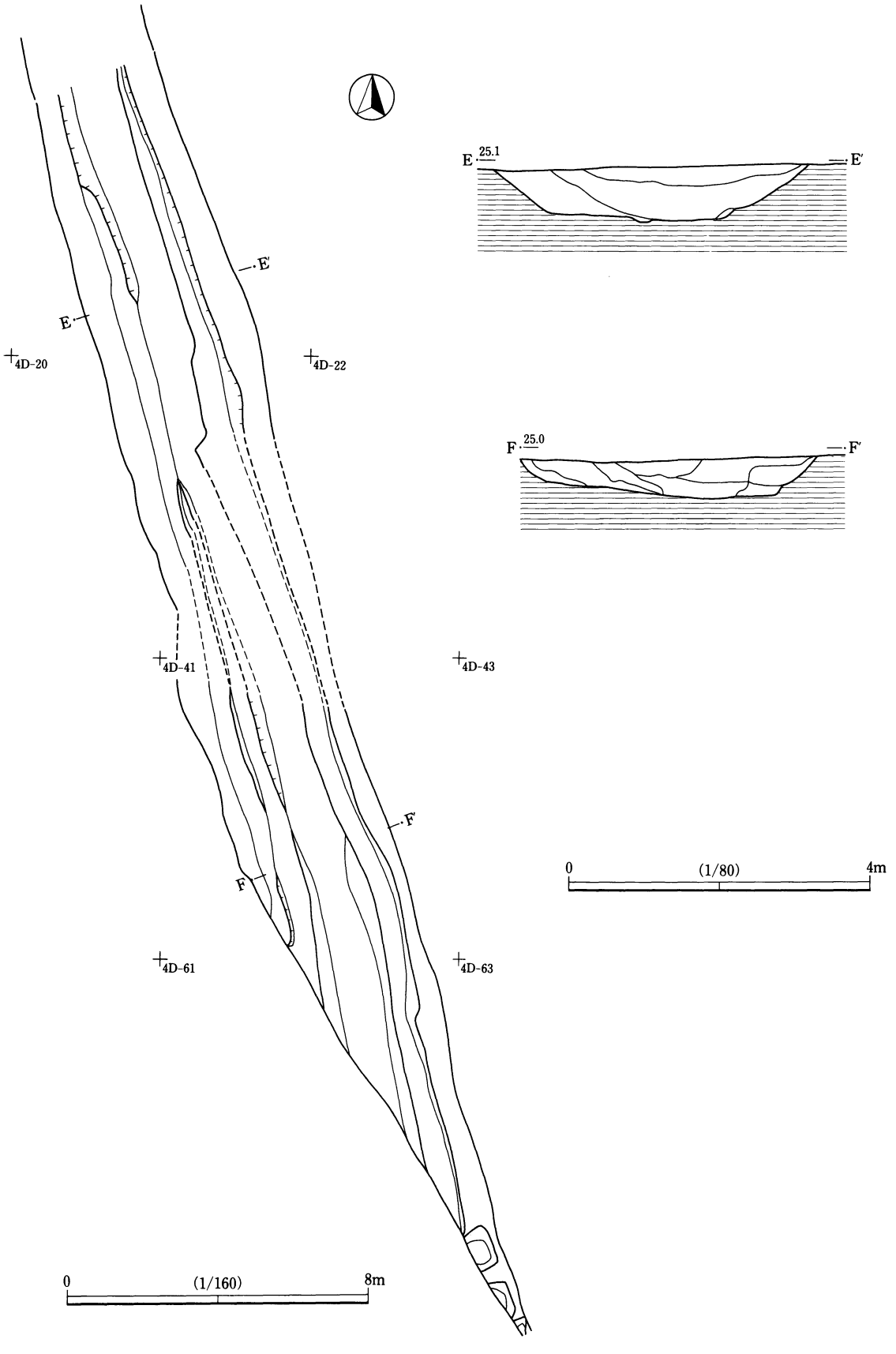
第26図　001・002・003


A
A′
1C-75
1C-77
1C-95
1C-97
B
B′
2C-15
2C-17
0
(1/160)
8m
A
25.2
A′
B
25.2
B′
0
(1/80)
4m

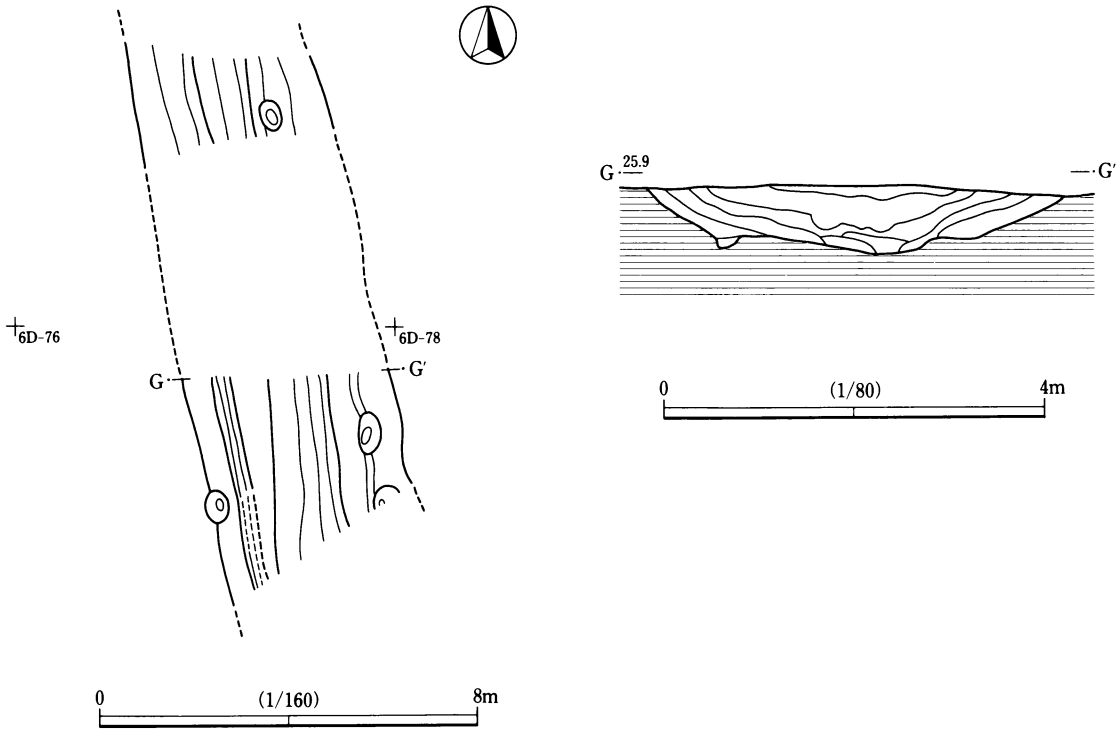
第27図　００４（１）



第28図　００４（２）


E
E'
4D-20
4D-22
4D-41
4D-43
F
F'
4D-61
4D-63
0
(1/160)
8m
E
25.1
E'
F
25.0
F'
0
(1/80)
4m

第29図　００４（３）



第30図　００４（４）

００９（遺構：第33図，図版６）

遺　構

Ａ区で検出された長大な土坑である。長さ9.6ｍ，確認面で幅1.8ｍ～2.8ｍ，深さ2.1ｍの規模をもつ。

０１０（遺構：第31図）

遺　構

Ｃ区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.5ｍである。遺物の出土はない

０１１（遺構：第31図）

遺　構

Ｃ区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.3ｍ～1.2ｍである。遺物の出土はない。

０１２（遺構：第31図）

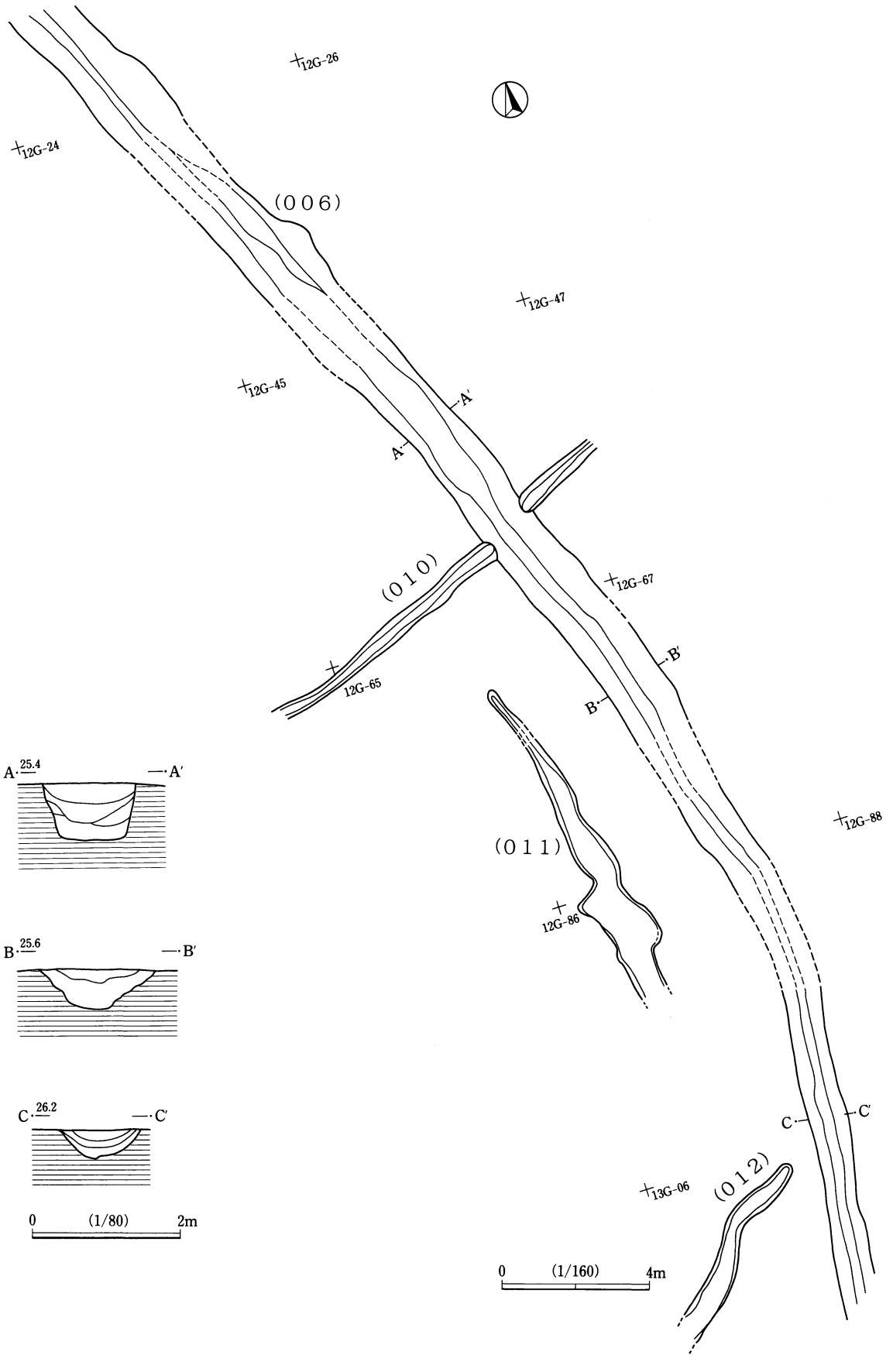
遺　構

Ｃ区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は0.4ｍ～0.6ｍである。遺物の出土はない。

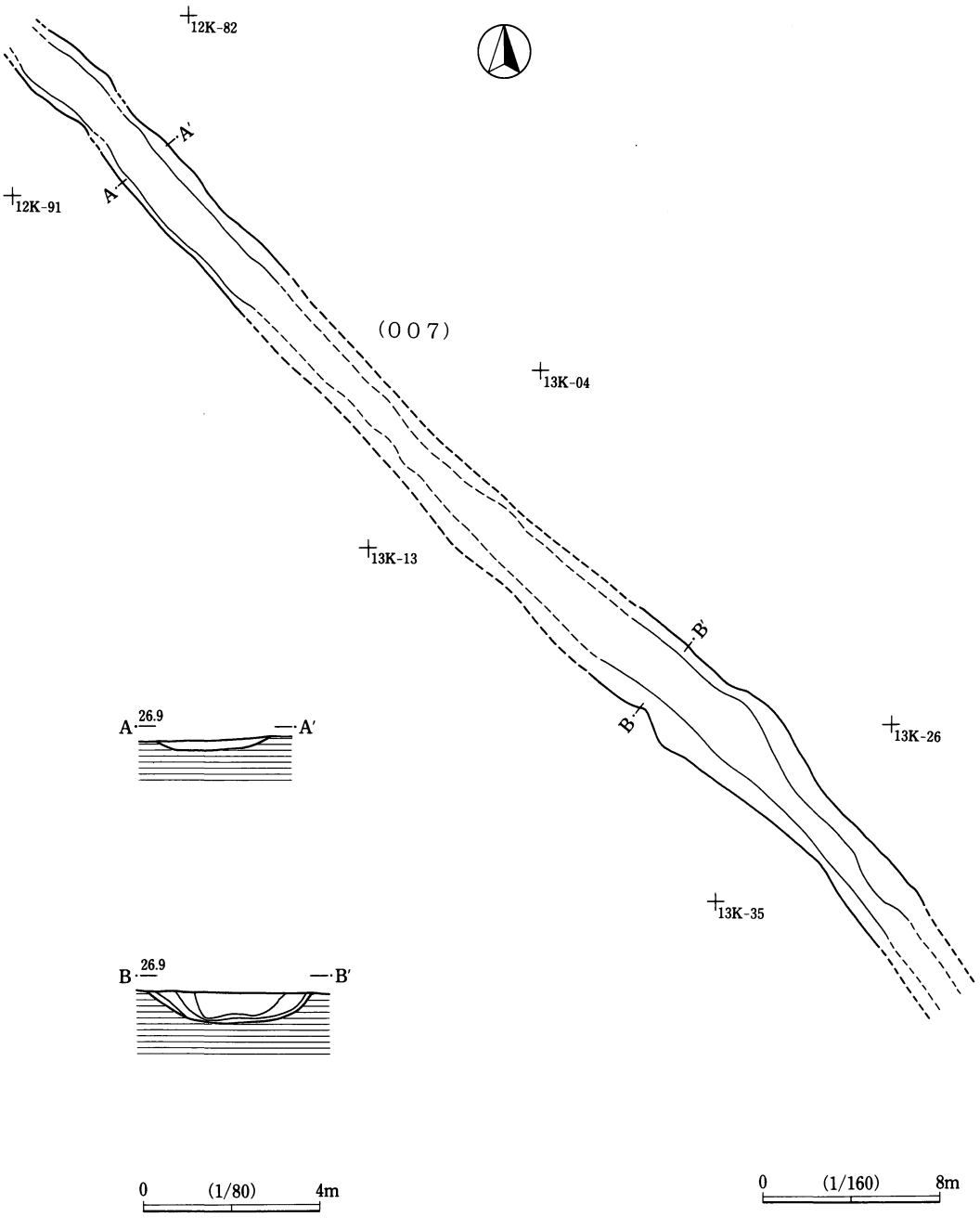
０１３（遺構：第34図）

遺　構

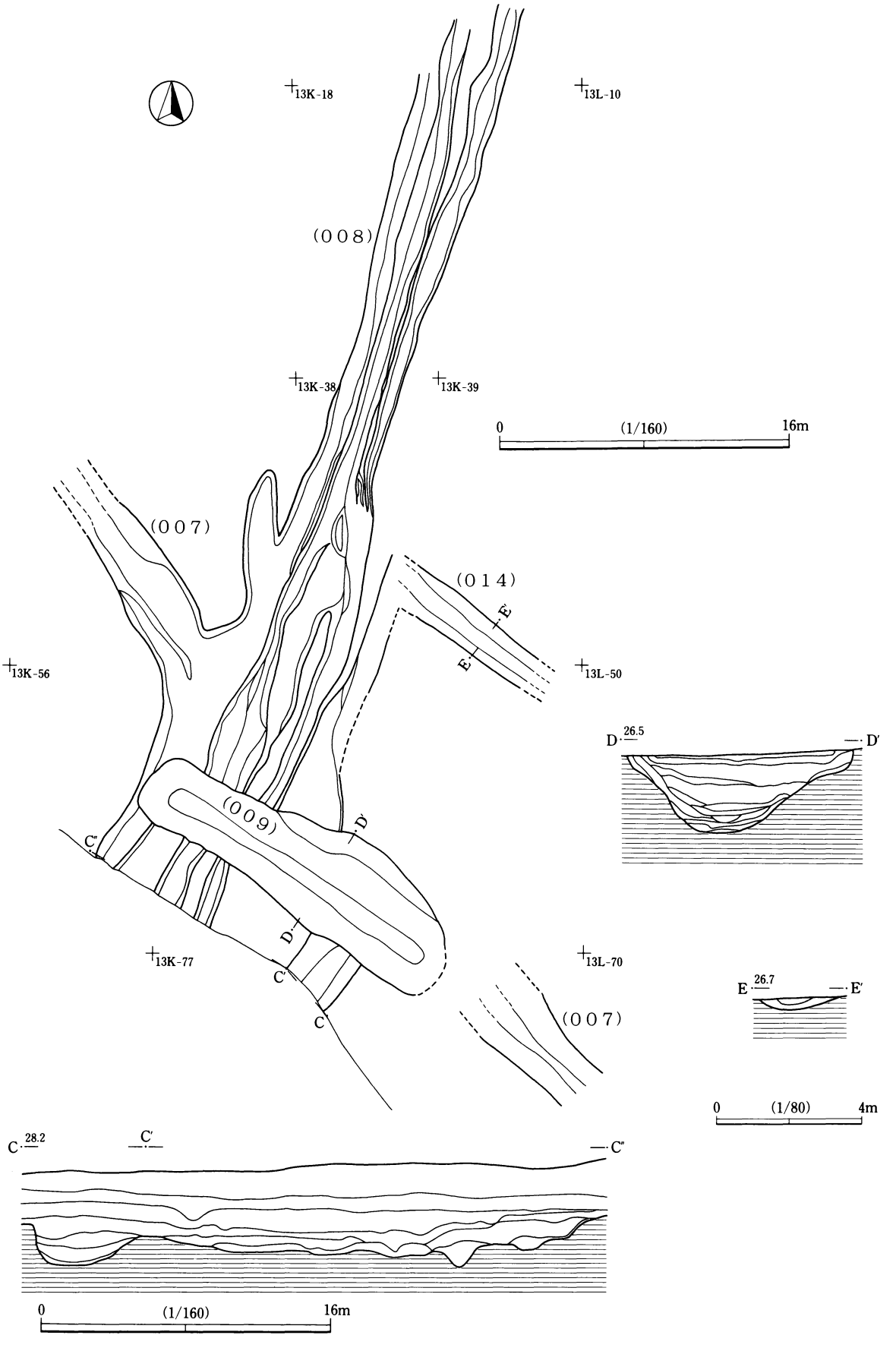
Ａ区で検出された溝状遺構。007溝状遺構と並行して走る。確認面で幅は0.5ｍ～1.0ｍで浅い。遺物の出土はない。



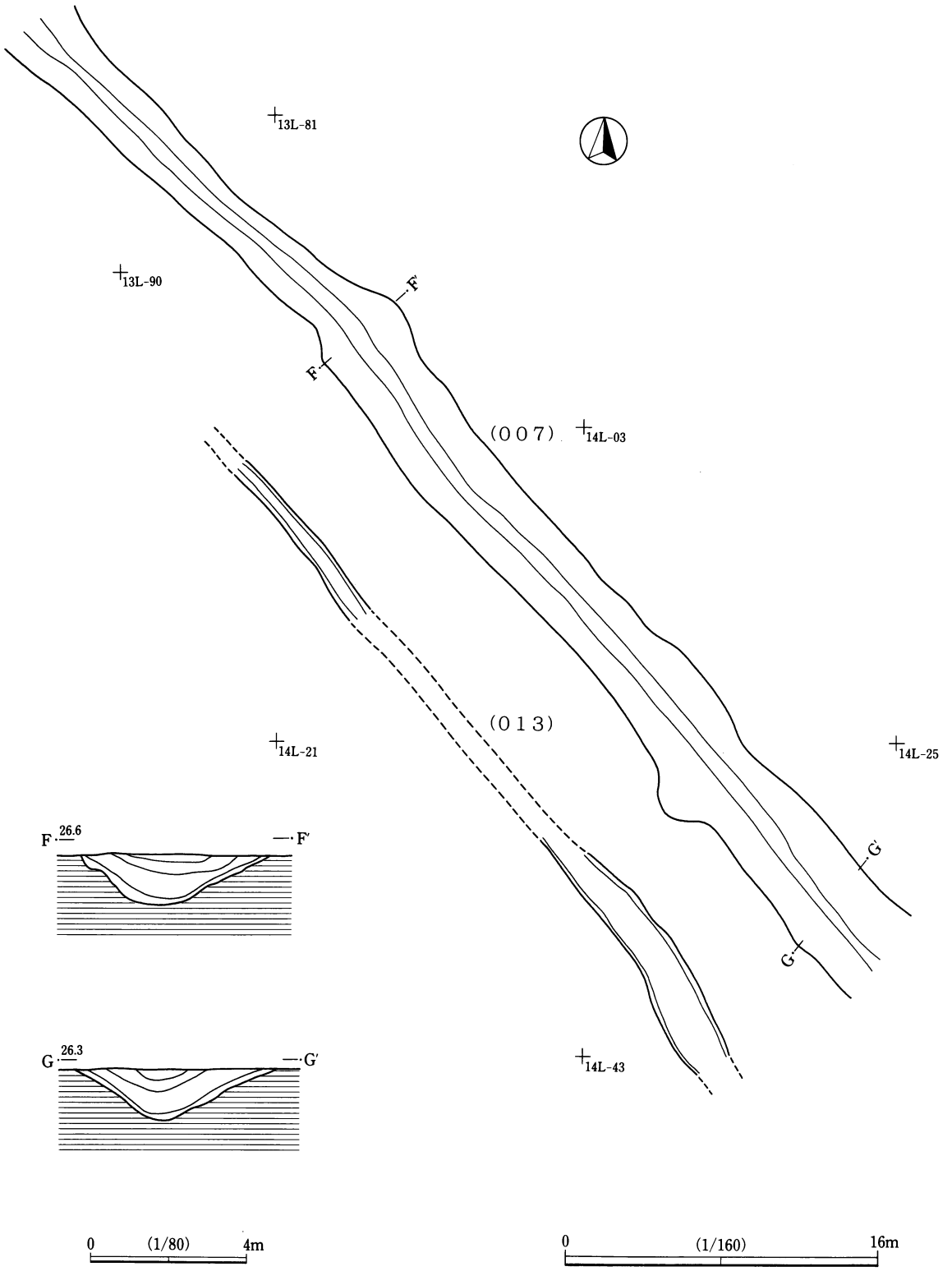
第31図　006・010・011・012


12K-82
12K-91
A
A′
(007)
13K-04
13K-13
B
B′
13K-26
13K-35
A
26.9
A′
B
26.9
B′
0
(1/80)
4m
0
(1/160)
8m

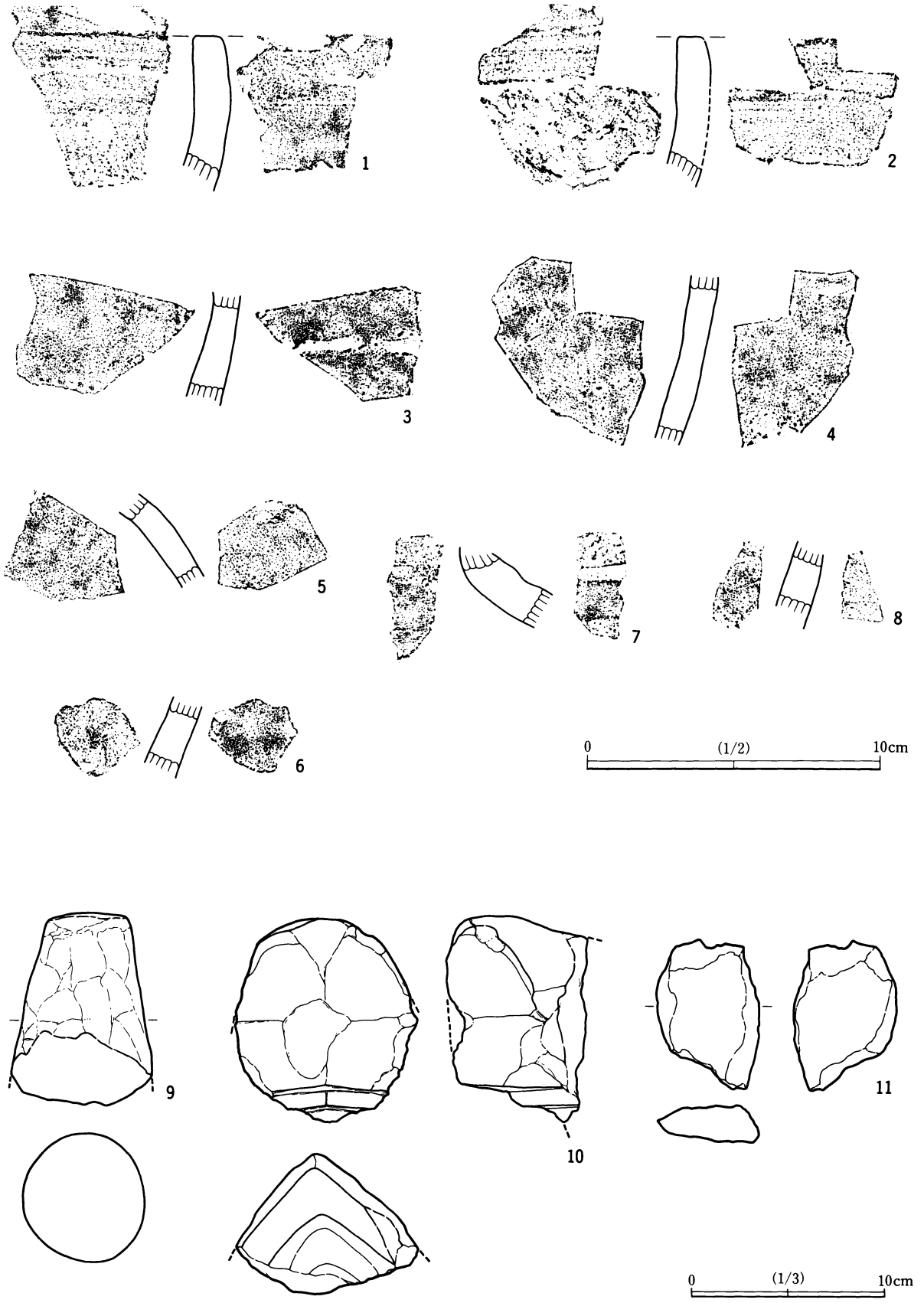
第32図　007（1）



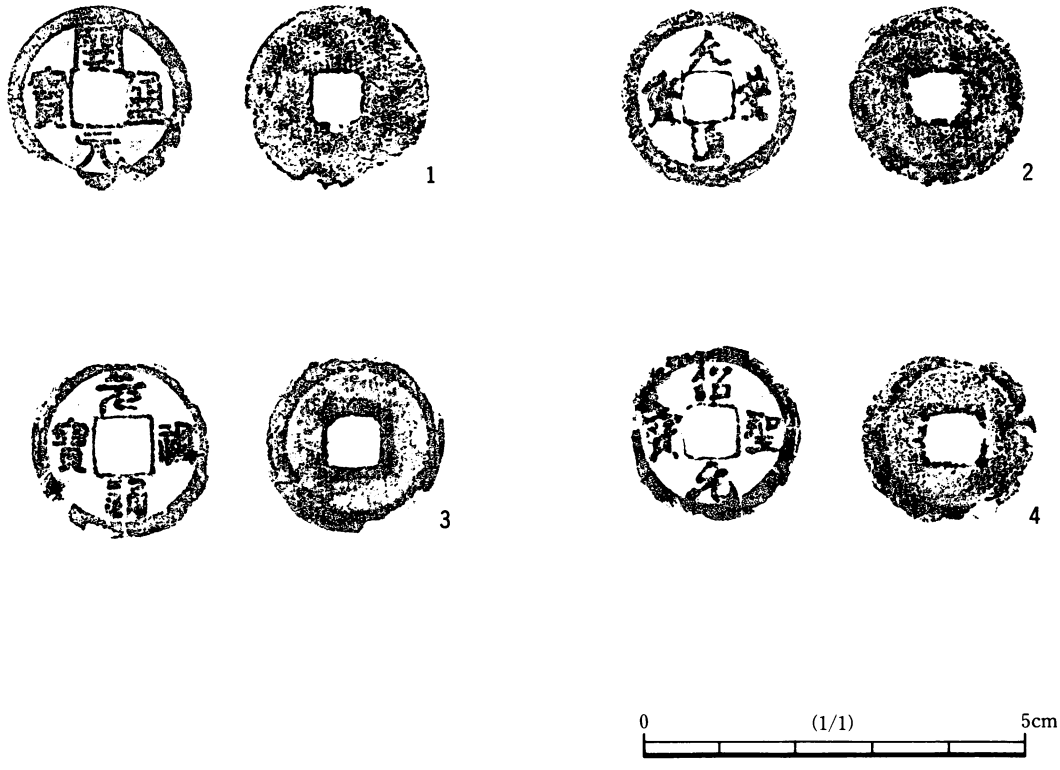
第33図　007(2)・008・009・014



第34図　007(3)・013



第35図　平安時代・中近世遺物（1）



第36図　中近世遺物（２）

０１４（遺構：第23図）

遺　構

Ａ区で検出された溝状遺構である。確認面で幅は1.0ｍ～1.2ｍ，深さは0.2ｍである。遺物の出土はない。

その他の遺構出土遺物

第35図の７は，Ｃ区から検出された陶器である。常滑産の壺か甕の肩部破片。内外面とも表面は褐色で，緑色の自然釉が付着。胎土中には直径５㎜を超える砂礫を含む。

第3章　まとめ

第1節　旧石器時代

光ヶ丘遺跡の第2次調査で検出された旧石器時代石器群は，第37図のように5枚の文化層にわたり，総計174点を数える。ナイフ形石器は第4文化層で1点検出されただけであるが，第1文化層～第4文化層はナイフ形石器群に所属する石器群と捉えられ，第5文化層は尖頭器石器群と分類できる。第1次調査において検出された石器のうち下部出土の石器は，今回の第1文化層，上部出土の石器は第3文化層に相当する可能性がある。ここでは，ある程度まとまった石器群といえる第5文化層の石器群について，近隣の石器群と比較をしてみることにする。

第5文化層の石器群は，珪質頁岩を主体に用いて，一方に肩をもつあるいは樋状剥離を有する尖頭器石器群と捉えられる。このような石器群を近隣にあたれば，流山市上貝塚貝塚検出の第1ブロックの尖頭器石器群[1]を上げることができる。上貝塚貝塚石器群の検出層位は，Ⅲ層中位付近にあり，石材は頁岩とチャートを主体として，礫群を伴出する。樋状剥離を有する尖頭器は，10点中9点に上る。このような上貝塚貝塚の石器群と光ヶ丘第5文化層の石器群を比べると，層位的には上貝塚が少し古いと思われる。また，樋状剥離を有する尖頭器の形状は，最大幅が上貝塚は中位にあるが，光ヶ丘はより先端部方向にあり，先端部の角度も上貝塚の方が鋭角である。

これらの違いは，樋状剥離を有する尖頭器石器群の時間的変遷，空間的分布の中で検討されねばならないが，結論だけを述べれば，本遺跡の石器群の方が後出で，下総的な様相を呈していると考えられる。また，後期旧石器時代の石器群の変遷の中でみれば，いずれの石器群も，ナイフ形石器を伴わないで尖頭器石器群を主体とする石器群が増加する段階と捉えられる。

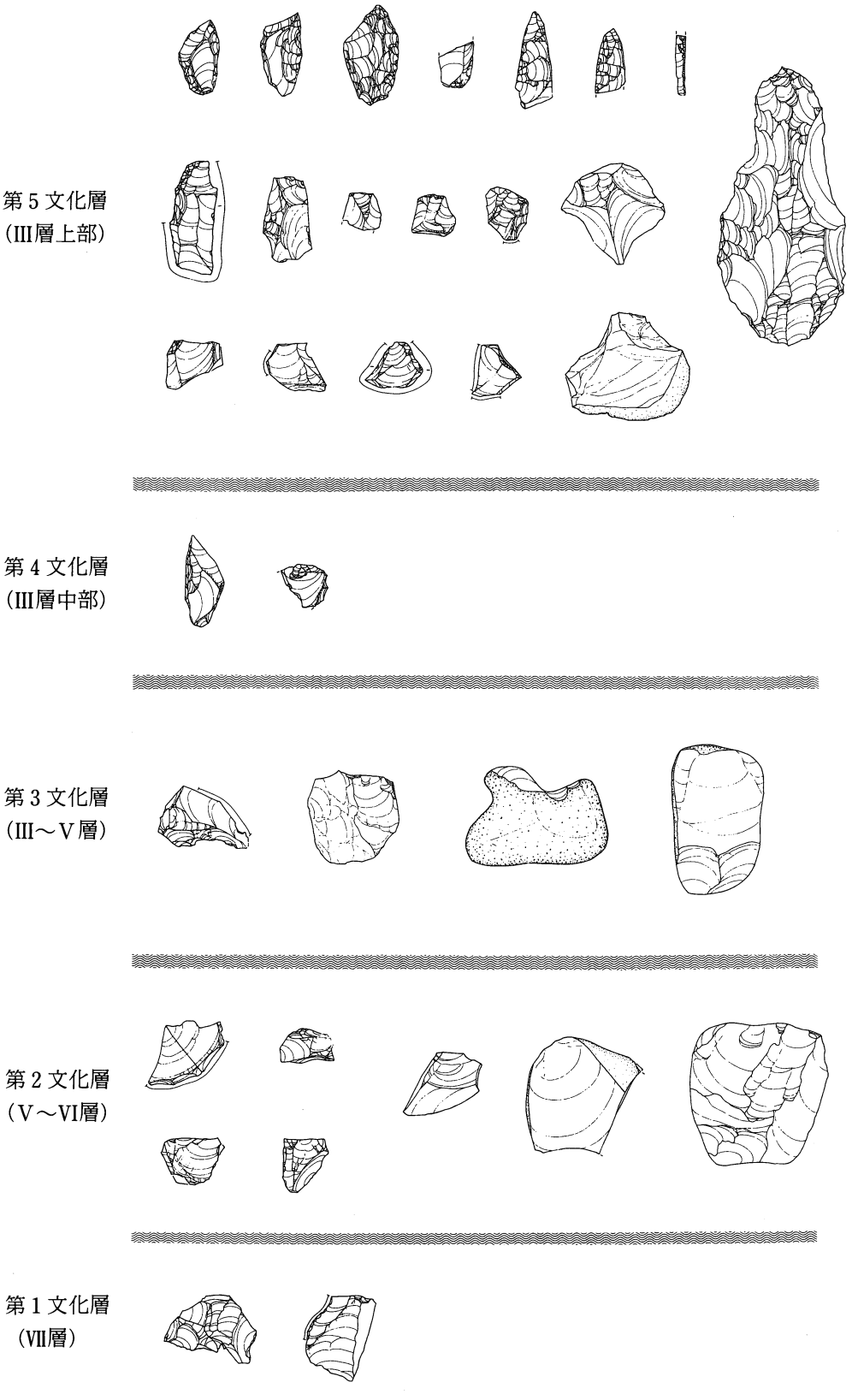
第2節　中近世

光ヶ丘遺跡の第2次調査では，中近世に所属すると思われる遺構は，道路状遺構が2条，溝状遺構が9条，土坑が1基検出された。また，遺物としても，常滑あるいは渥美産の壺または甕の破片をはじめ宝篋印塔，板碑，銭貨等が出土した。このことは，この地域が交通路あるいは墓地的なものとして利用されていたことを表しており，これを裏付けるような資料として，現在も光ヶ丘団地内に2基の塚が保存されているが（第38図）[2]，以前はもっと多くの塚があったと伝えられている（第5図）。なお，県道白井・流山線の工事では光ヶ丘団地付近で多量の板碑が出土したといわれている。また，柏市による光ヶ丘団地内の野馬堀の調査では，堀というよりも道路状遺構が検出されており[3]，この遺構と今回調査した008道路状遺構は同じ遺構の可能性が強いと思われる。

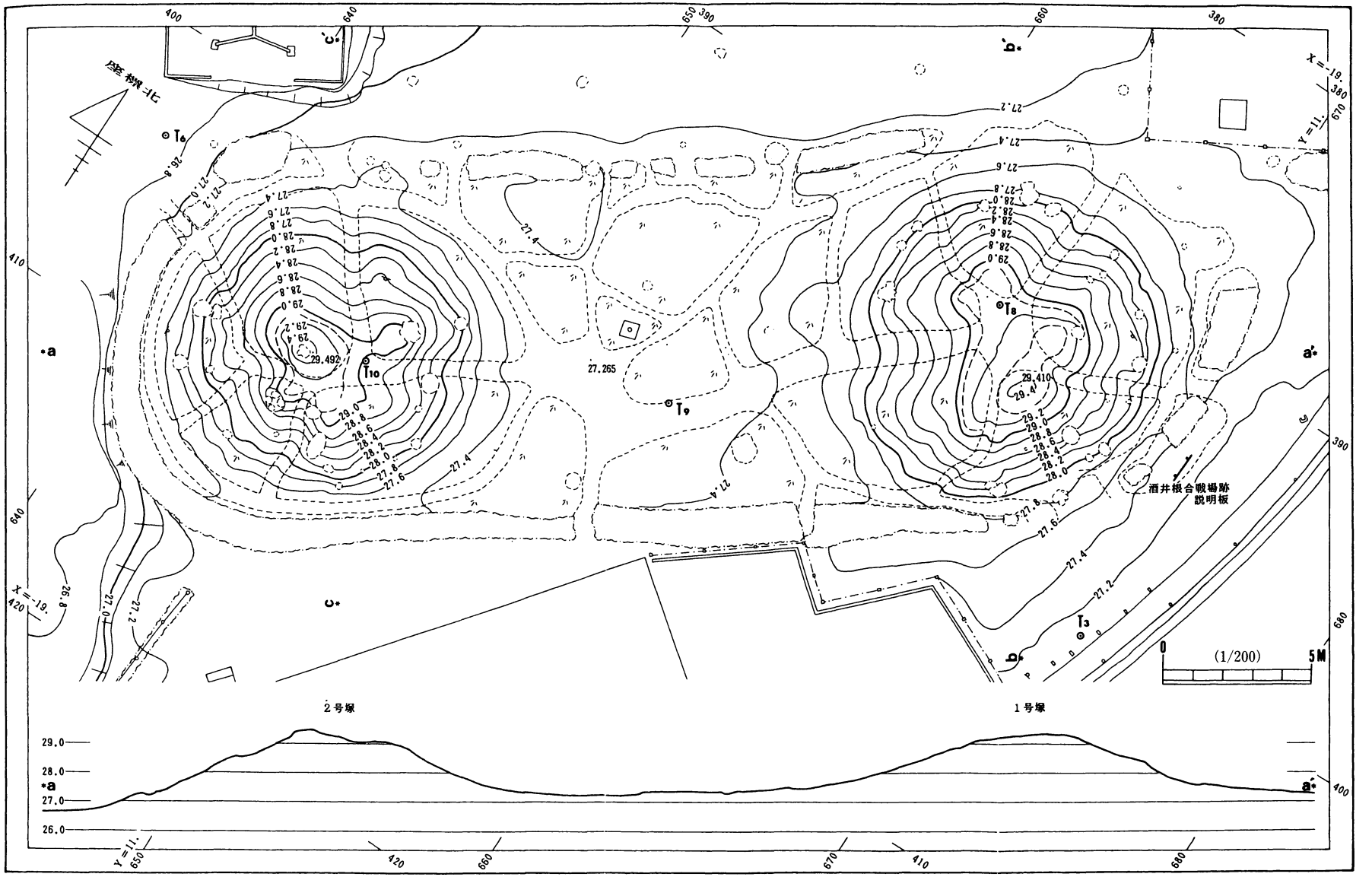
奈良時代には，下総の国府と常陸の国府を結ぶ東海道がこの近くを通っており，中世以降も形が変わったとしても道路網が存在したと考えられる。今後はこのような道路状遺構の調査例が増加することが予想され，人の動きや物資の流れがこれまで以上に具体的に捉えられるものと思われる。

注1　落合章雄ほか1996『主要地方道松戸野田線埋蔵文化財調査報告書』財団法人千葉県文化財センター調査報告第

276集
2　中原幹彦ほか1992『光ヶ丘塚群1号塚・2号塚測量調査報告書』柏市教育委員会
3　井上文男1994『光ヶ丘768-5地先野馬堀』柏市教育委員会



第37図　旧石器時代石器群



第38図　光ヶ丘1号塚・2号塚

写　真　図　版

光ヶ丘遺跡と周辺の地形

F 区調査前

J 区調査前

F 区建物解体状況

005全景

006全景

001全景

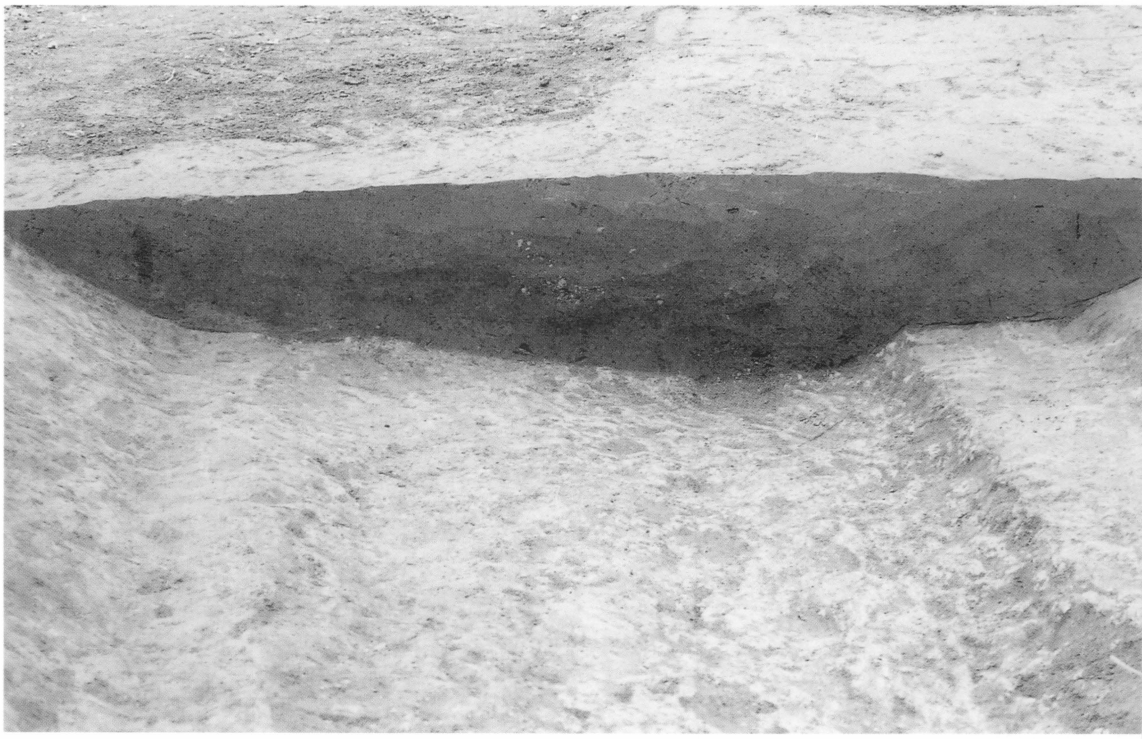
図版 4

００４北端部

００４北側（１）

００４北側（２）

００４南側



００４南端部（１）

００４南端部（２）

００７南側

００８西側

００９全景

J 区土層断面

００３全景

第１ブロック
遺物出土状況

図版 8

第1ブロックと土層断面

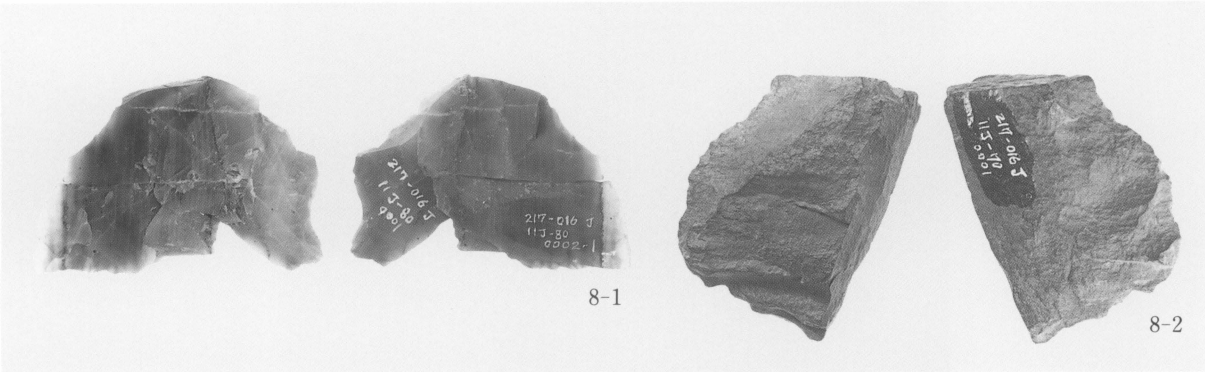
H区土層断面

第2ブロック
遺物出土状況

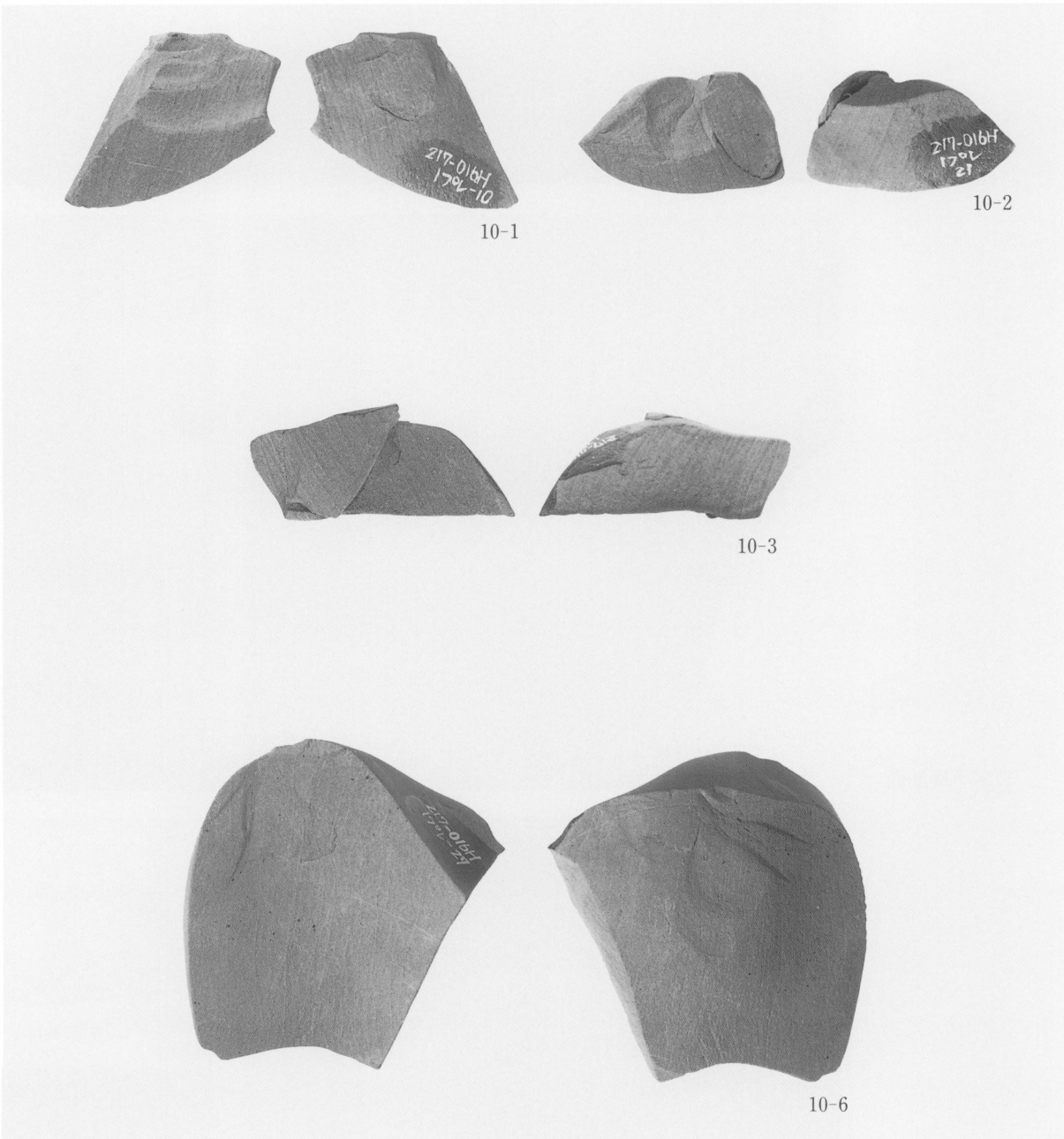
第3ブロック
遺物出土状況

D区土層断面

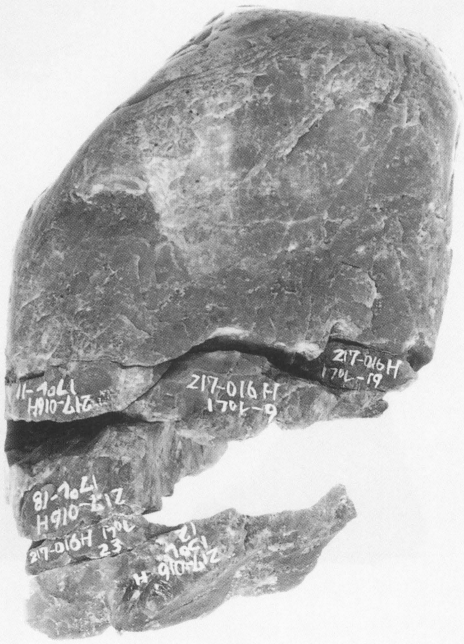
第4ブロック
遺物出土状況



第 1 文化層出土石器

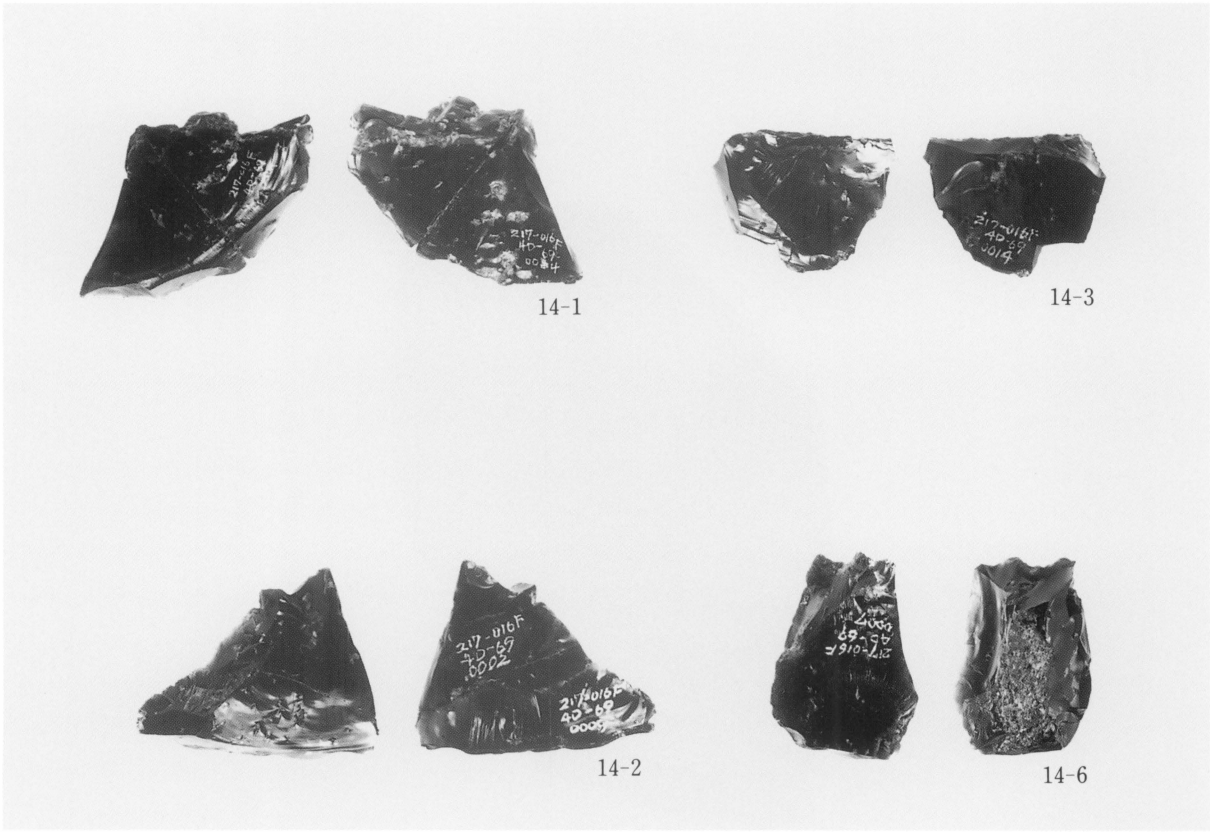


第 2 文化層出土石器（1）

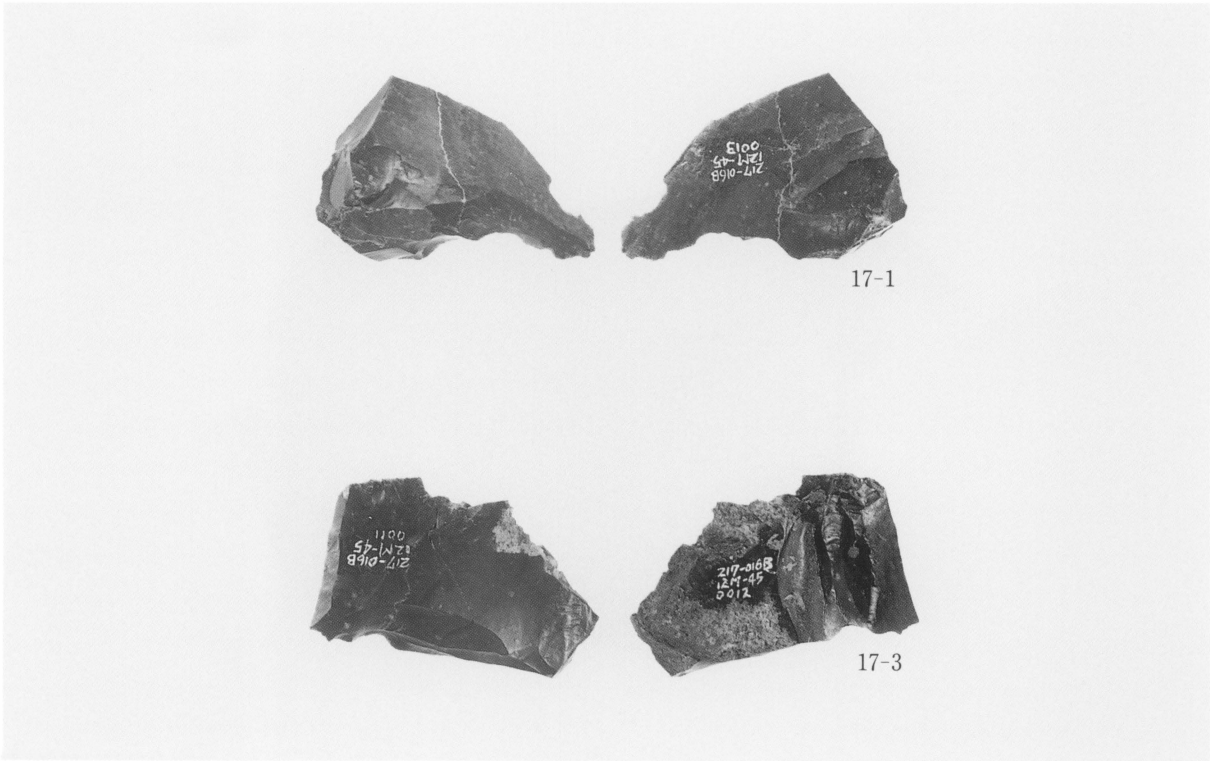


11-1

第 2 文化層出土石器（2）

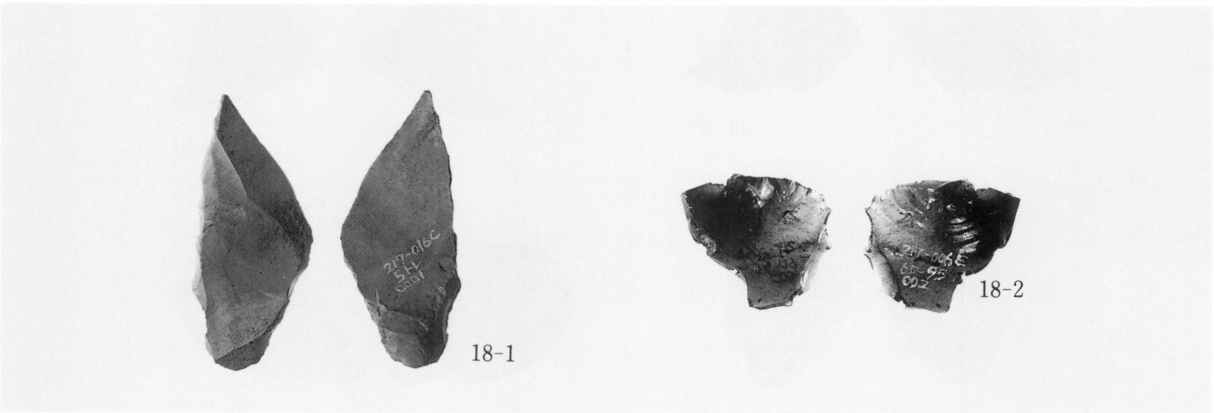


第 2 文化層出土石器（3）

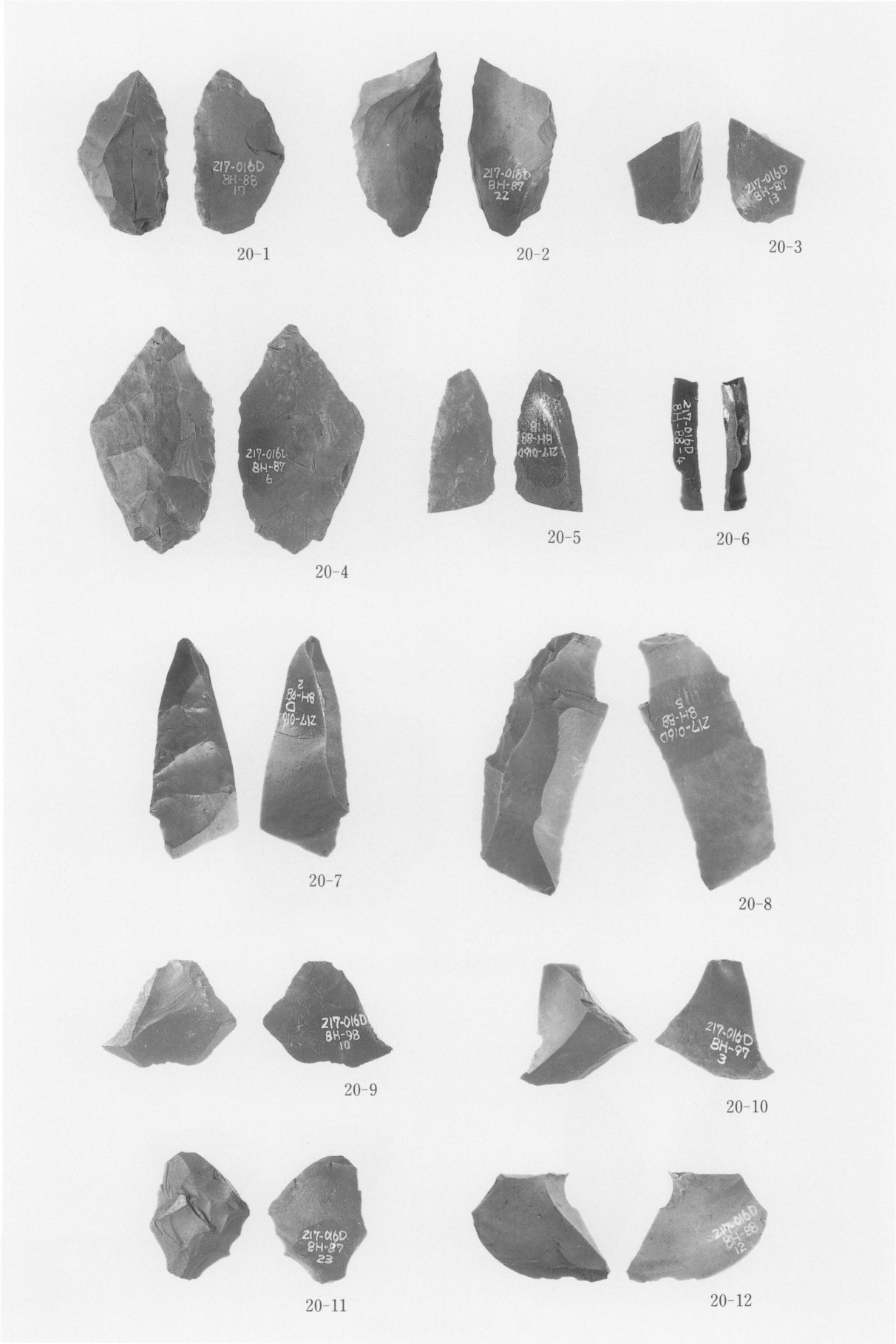


第 3 文化層出土石器（1）

第 3 文化層出土石器（2）

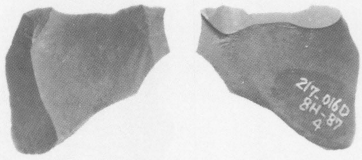


第 4 文化層出土石器

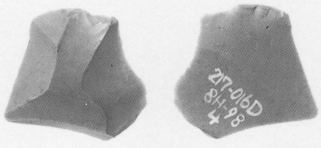


第 5 文化層出土石器（1）

21-1



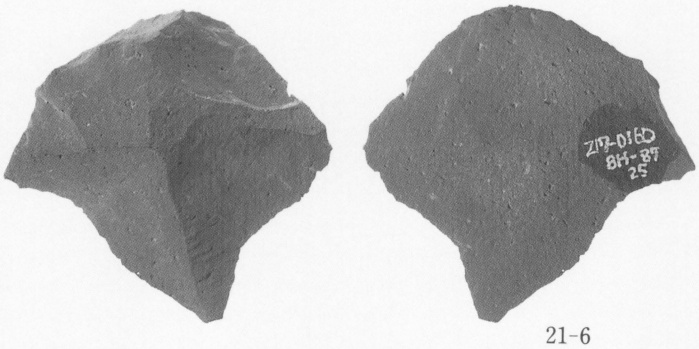
21-2



21-3

21-4

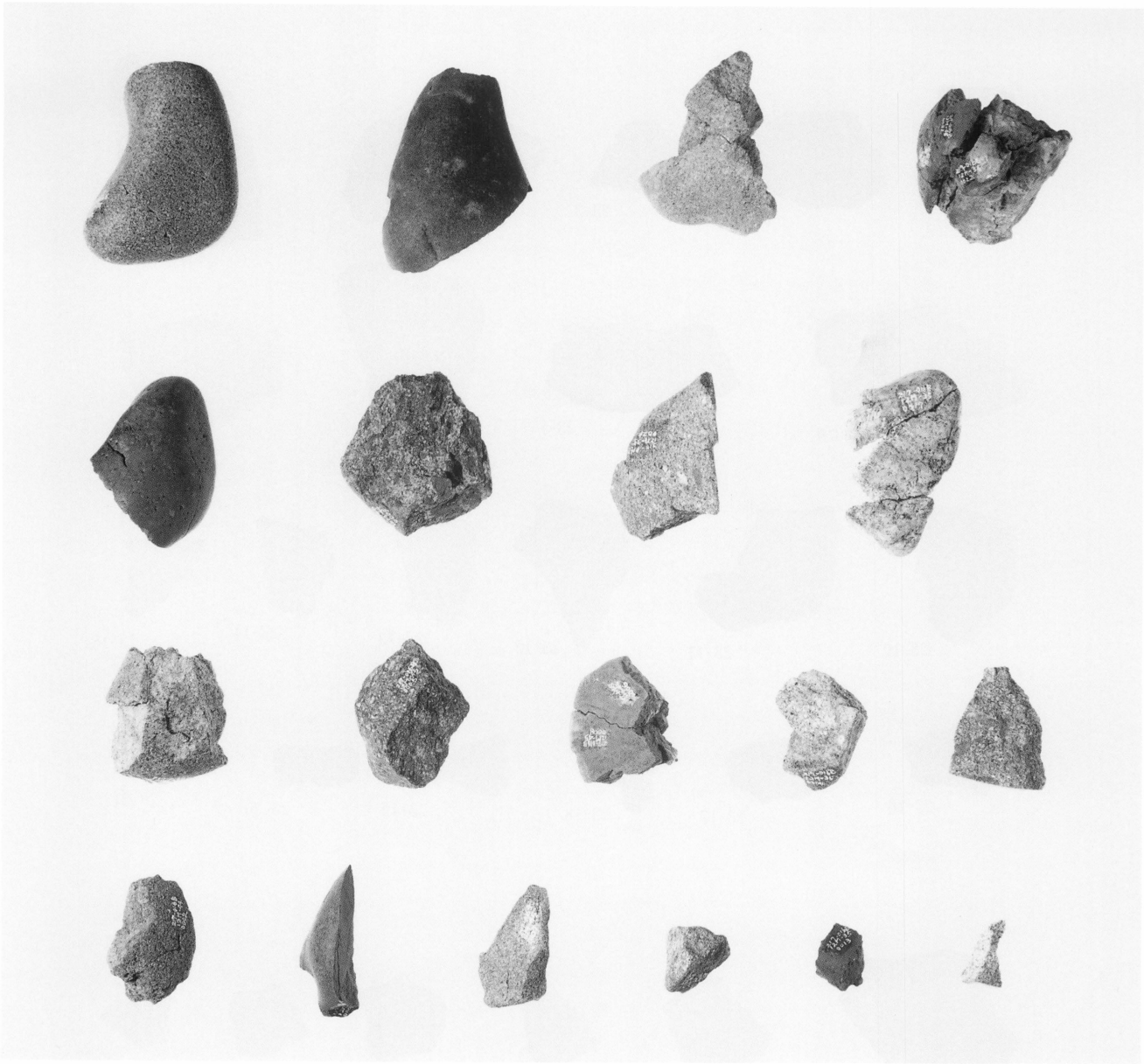
21-5



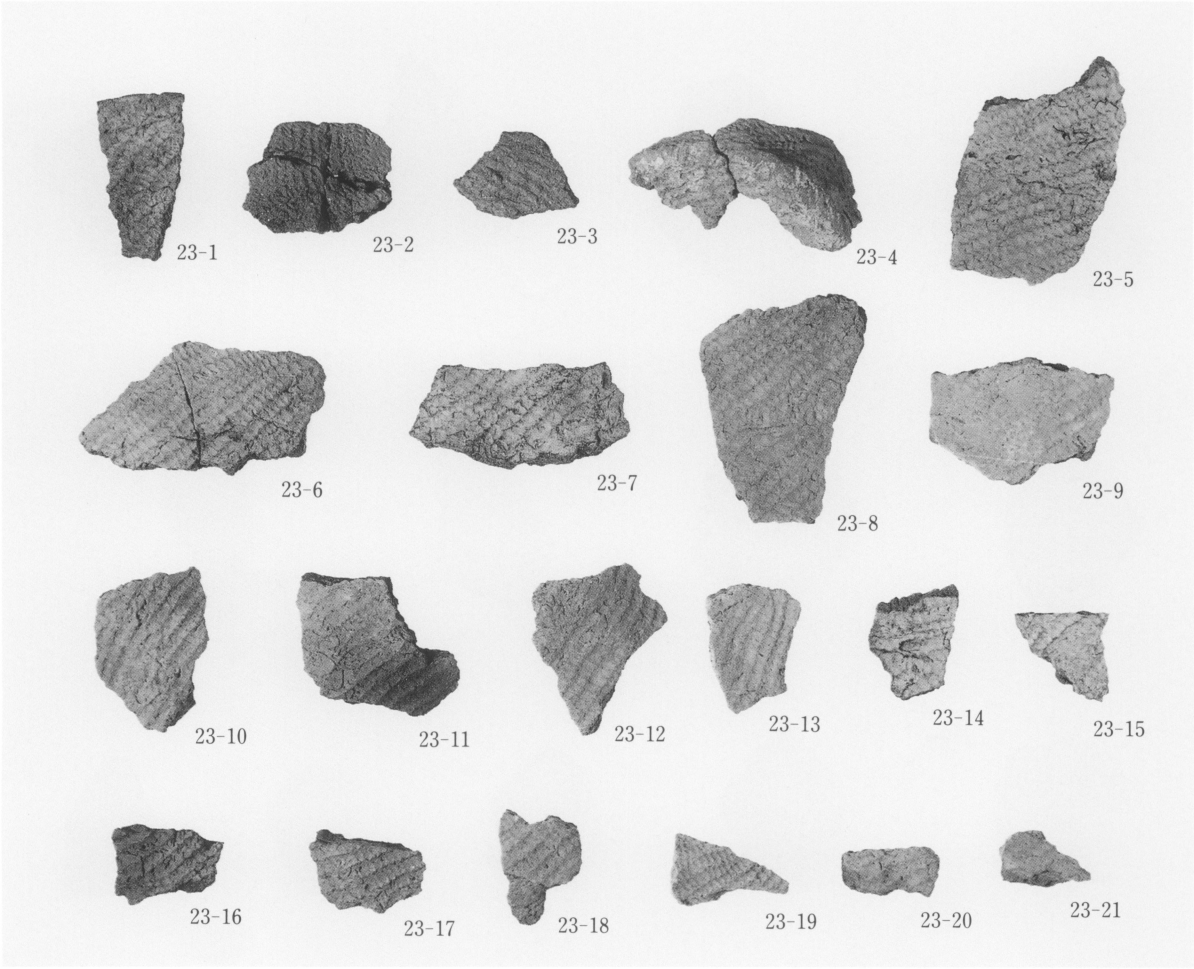
21-6

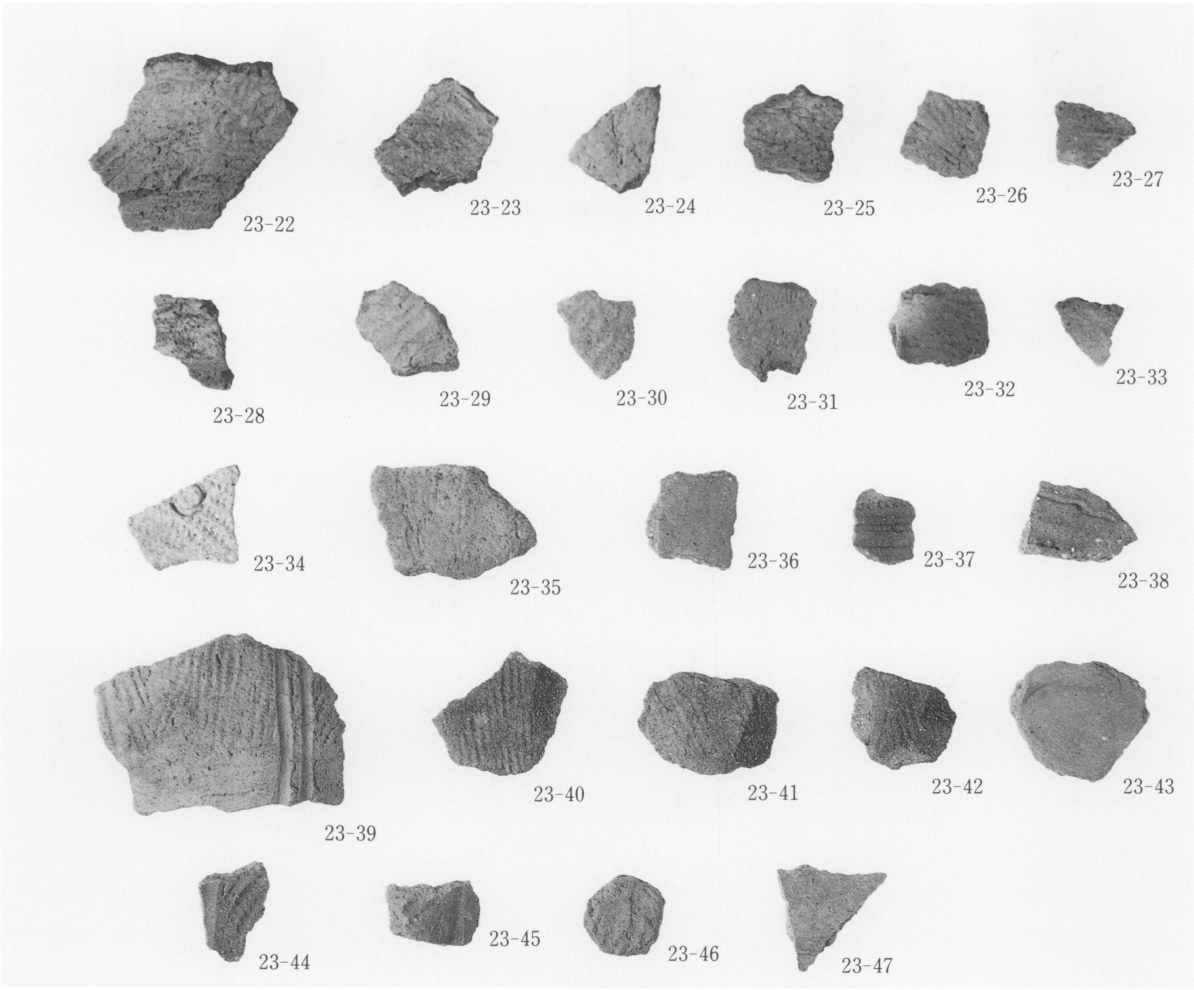
第 5 文化層出土石器（2）

第 5 文化層出土石器（3）

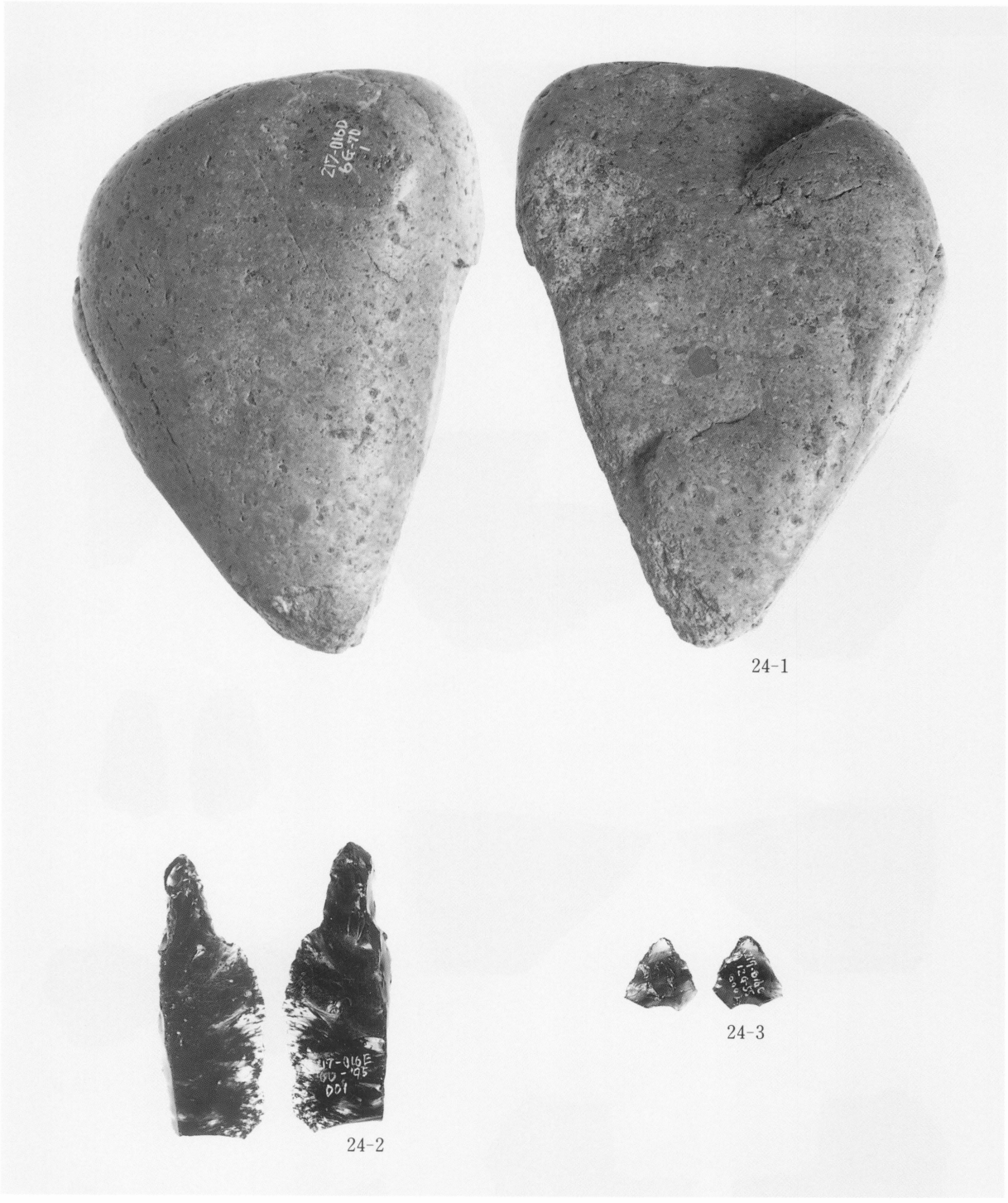


第１礫群構成礫

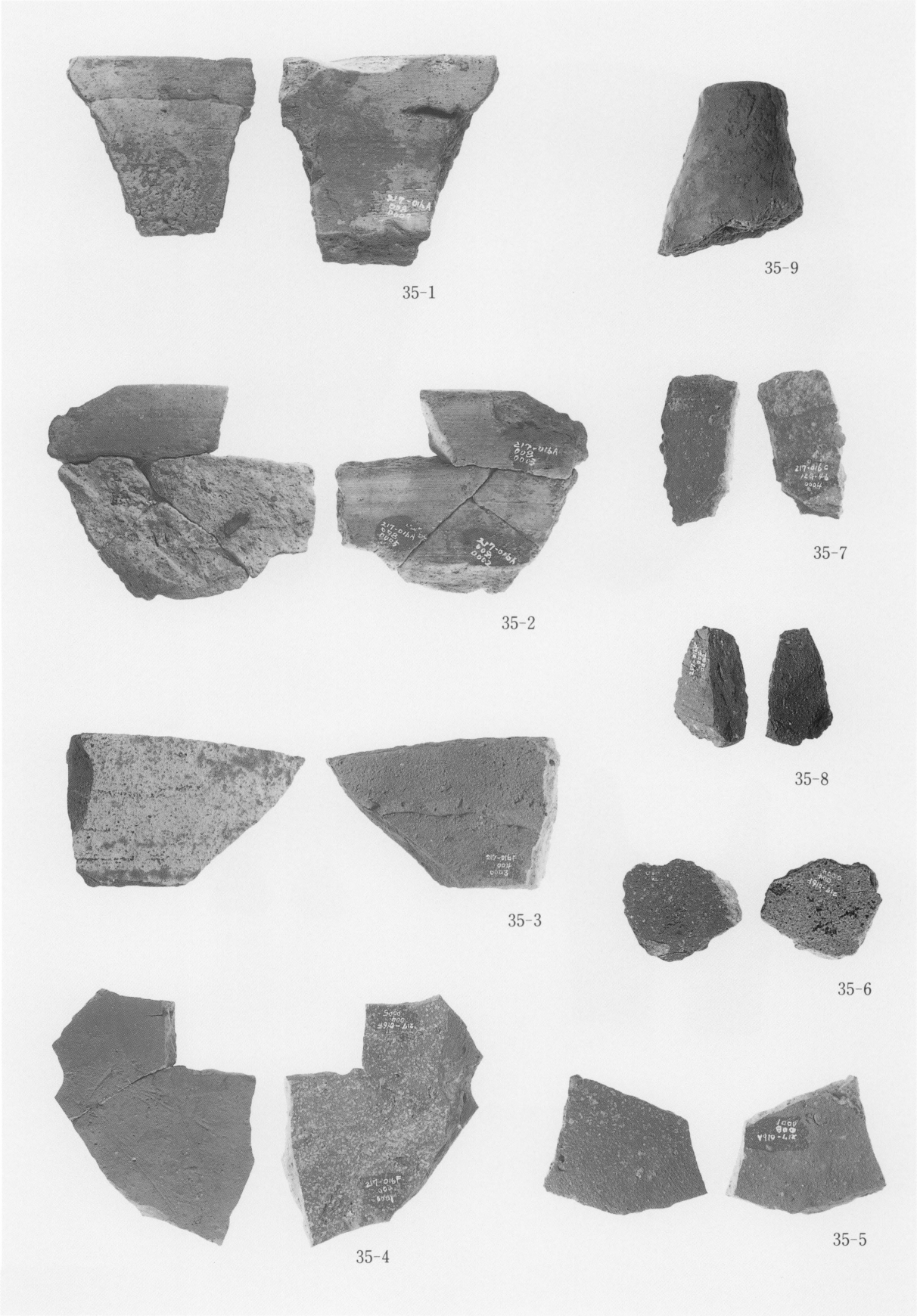

23-1
23-2
23-3
23-4
23-5
23-6
23-7
23-8
23-9
23-10
23-11
23-12
23-13
23-14
23-15
23-16
23-17
23-18
23-19
23-20
23-21


23-22
23-23
23-24
23-25
23-26
23-27
23-28
23-29
23-30
23-31
23-32
23-33
23-34
23-35
23-36
23-37
23-38
23-39
23-40
23-41
23-42
23-43
23-44
23-45
23-46
23-47

縄文時代遺物（1）

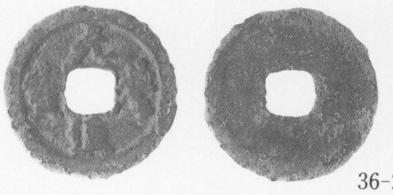


縄文時代遺物（2）

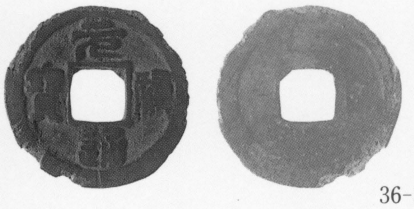


平安時代・中近世遺物（1）

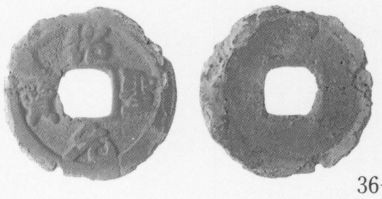
36-1



36-2

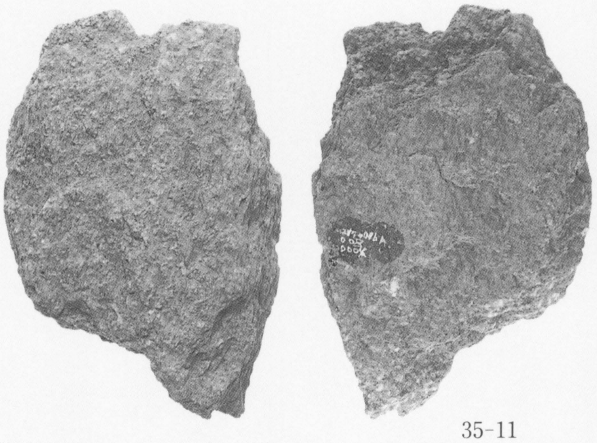


36-3



36-4

35-10



35-11

中近世遺物（2）

報告書抄録

ふりがな	かしわしひかりがおかいせき
書名	柏市光ヶ丘遺跡
副書名	光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書
巻次	Ⅱ
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第418集
編著者名	川島利道
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　TEL043-422-8811
発行年月日	西暦2001年9月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
光ヶ丘（ひかりがおか）	千葉県柏市光ヶ丘（ちばけんかしわしひかりがおか）1768-1ほか	12217	016	35度49分24秒	139度54分55秒	19990701～20000327	16,814	団地建て替えに伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
光ヶ丘	集落	旧石器時代	石器集中地点　4地点	尖頭器，ナイフ形石器，スクレイパー，剥片，石核，礫	旧石器時代の文化層が5枚検出された。
		縄文時代	土坑　1基	縄文土器，石鏃，石匙	
		平安時代	竪穴住居跡　1軒	支脚	
		中近世	道路状遺構　3条 溝状遺構　8条 土坑　1基	陶器，焙烙，宝篋印塔，銭貨，板碑	

千葉県文化財センター調査報告第418集

柏市光ヶ丘遺跡

－光ヶ丘団地埋蔵文化財調査報告書Ⅱ－

平成13年9月28日発行

編　　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　　行　都市基盤整備公団千葉地域支社
千葉市美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデンD棟
財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2

印　　刷　株式会社　正　文　社
千葉市中央区都町1-10-6